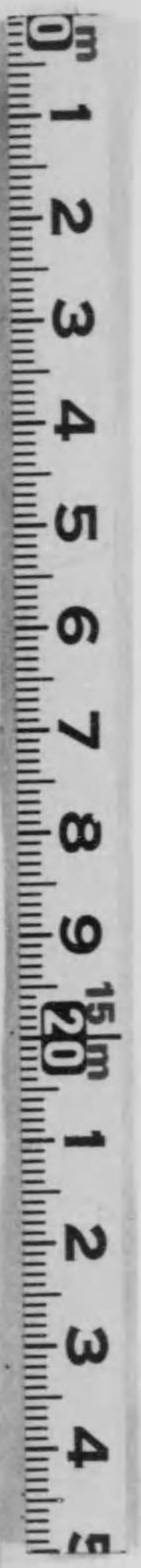


263.6  
120



始



2/17/19



修正地理  
書による  
地理の学習指導書  
第六

奈良女子高等師範学校地理学兼動植物学教授 居濑一著

東京 明治圖書株式会社

大正  
15. 10. 12  
内交

## 凡例

- 一、本書は大體前卷尋五用地理學習指導書の體裁にならつて編述したものであるが、前卷の不備不便に鑑み多少改正したところもある。
- 二、即ち指導要旨に各課指導上の大綱を擧げ、學習環境に如何なる環境を提供し構成せしむべきかを述べた點などは同様であるが、前卷の参考補説指導要項は學習環境とともに全部之を指導準備中に入れ、其の中を資料研究と参考補説と學習環境との三つとなし、更に前卷には方法一斑と指導上の注意とを二つに分けてあつたものを、方法要項の一項に纏め中に指導の方法をも注意をも含ましめることとした。
- 三、特に資料研究に多數の頁を割愛したのは私自身の貧しさを告白するものであつて、或は讀者諸君には不必要なところが多いかも知れない。けれども其の分量程度等については全體の上から見て、相當の考慮を拂つたつもりである。

## 序

本書は今回小學地理書が修正されたのを機會として、私自身が自分の學級の兒童を指導して行く準備のために、聊か研究し調査したものを纏めたのに過ぎないのである。故に純粹地理學のやうに一貫した系統がなく極めて雜然とした無秩序なものには相違ないが、教科書に準據して兒童生活との交渉を圖り、暗々の裡に地人相關の理を會得せしめ、且つ社會識見を養ふべく指導する上には多少の價值あるものと信じてゐる。けれども元來學問にも經驗にも乏しい私が、唯一念兒童教育のためのみを思つて書いたものであるから、事實の上に於ても方法の上に於ても幾多の誤謬や杜撰があらうと心配してゐる。是等については何れ諸君の高教を俟つて漸次改訂を加へて行く積りである。

尙ほ本書の述作については甚だ多くの参考書を使用したものであるから、學者先輩の卓見に負ふところも亦決して少くない。一々書名を舉

げて感謝の意を表せねばならぬ次第であるが、煩を避けるために本文中に其の都度これを記載して敬意を表することにした。

大正十五年六月

三笠山の麓にて

著者識

# 修正地理の學習指導 第六

## 目次

緒説——修正尋六地理書の概観……………

—分量と配當—材料の増加—内容の變動—

第一、北海道地方……………

一、指導要旨……………

二、指導準備……………

1、資料研究……………

A、區域……………

—位置—面積及び區分—(参考補説)—(1)本島の數理的位罫—(2)行政上の沿革—

B、地勢……………

—概観—山脈—蝦夷山系—日高山脈—夕張山脈—北見山脈—天鹽山脈—千島火山

—地理の學習指導目次

脈―那須火山脈(参考補説)―(1)旭岳―(2)マツカリ岳―(3)駒岳と大沼―(4)樽前岳とドーム―河川―太平洋斜面―十勝川―釧路川―沙流川―西別川・標別川―新冠川―石狩川―天鹽川―オホーツク海斜面―常呂川―湧別川―網走川―平野―石狩平野―上川盆地―十勝平野―海岸(参考補説)―(1)海岸線發達係數―(2)知床岬と落石岬―(3)襟裳岬―(4)宗谷岬と宗谷海峡―(5)鐘の鳴る燈臺―(6)津軽海峡とブラツキストーン線―

C、産業

―住民(参考補説)―(1)アイヌ人の風習―(2)移住の奨励―産業概観―水産業概説―鯨―鱈―柔魚―鮭―鱒―鱈―海扇―昆布―水産製造品(参考補説)―(1)海産物の取引―(2)昆布と「味の素」―(3)昆布からとる藥品―(4)鱈の陸揚と製造―農業概説―米―麥類―馬鈴薯―豆類―玉蜀黍―亞麻―苹果(参考補説)―(1)開墾の狀態―(2)トラクター―(3)北海道の氣候―(4)農業指導者として外人招聘―(5)豆類の取引―(6)澱粉及コーンスターチ―(7)亞麻と亞麻仁油―(8)其他の農産物―牧畜概説―馬―牛―羊―鑛業概説―石炭―硫黄―金―鐵(参考補説)―(1)石炭の取引と種類及び用途―(2)硫黄の精製と用途―林業概説―樹種と林産物(参考補説)―(1)蝦夷松―(2)檜松―(3)北海道材の取引と木材の才積―工業概説―パルプ―洋紙―燐寸の軸木―ビール―麻糸―製粉―製鋼及諸機械―水産製造物(参考補説)―(1)洋紙の

種類と取引―(2)王子製紙株式会社―(3)ビールの製法と我が國の麥酒界―(4)室蘭製鋼所―

D、交通

―概観―鐵道―函館線―宗谷線―根室線―室蘭線―網走線―留萌線―航路―(参考補説)―(1)青函連絡船―(2)北海道に於ける主要航路―

E、都邑

―概観―札幌―小樽―函館―旭川―室蘭―釧路(参考補説)―(1)札幌市街―(2)其他の都邑―

F、千島列島

―概観―氣候―産業―胆舘獸條約(参考補説)―(1)交換條約までの千島―(2)胆舘獸―(3)膽虎―

2、學習環境

- A、地圖.....18
  - B、圖表.....18
  - C、實物又は標本.....18
  - D、繪葉書・寫真類.....18
  - E、其他.....18
- 地理の學習指導目次

三、方法要項

- 1、方法の序.....五
- 2、一課一單元.....五
- 3、例の一.....五
- 4、例の二.....七
- 5、例の三.....七
- 6、獨自學習の指導.....七
- 7、相互學習の指導.....七
- 8、補說事項.....八
- 9、整理學習の指導.....八

第二、樺太地方

一、指導要旨

二、指導準備

- 1、資料研究.....八
- A、區域.....八
  - 位置—面積及び區分—(參考補說)—(1)樺太地方の數理的的位置—(2)北緯五十度線.....八

(3)行政上の沿革

B、地勢

—概觀—山脈—樺太山脈—東北山脈—鈴谷山脈—河川—幌內川—內淵川—鈴谷川—留多加川—低地—北部低地—南部低地—海岸—東海岸—西海岸—南海岸—

C、住民

—概觀—內地人—アイヌ人—オロツコ人—ギリヤク人—(參考補說)—(1)農牧移民—地の面積及び地味—(2)移住の手續と心得—(3)移住後の保護及び特典—

D、産業

—氣候—(參考補說)—(1)樺太に於ける平均氣温及び霜雪期節—(2)海流及び風位と氣候—産業概觀—農業概觀—主要農産物—(參考補說)—(1)開墾—(2)耕鋤及び手入—(3)種子—(4)肥料—牧畜業—林業概觀—蝦夷松—椴松—落葉松—白樺—楊類—伐木及び運搬—工業概觀—製材業—バルブ—木材乾餾—鑛業概觀—石炭—砂金—石油—水産業概觀—鮭—鱒—鱈—其他—水産製造物—鹽朧獸—(參考補說)—(1)樺太の漁業制限—(2)樺鱈の製法と鱈肝油—

E、都邑

—概觀—大泊—豊原—真岡—其他の都邑—

F、交通

—地理の學習指導目次

地理の學習指導目次

概觀 道路 (參考補説) (1) 橋類 (2) 驛遞と渡船 鐵道 航路 ..... 二七

G、北薩哈噠 ..... 二七

概觀 地勢 氣候 住民 産業 林産物 礦産物 水産物 都邑 アレキサン  
ドル ルイコフ (參考補説) (1) 尼港事件と北薩哈噠 (2) 日露條約と其の内容 ..... 二七

2、學習環境 ..... 二七

A、地圖 ..... 二七

B、圖表 ..... 二七

C、實物又は標本 ..... 二七

D、繪葉書・寫真類 ..... 二七

E、其他 ..... 二七

三、方法要項 ..... 二六

1、取扱上の希望 ..... 二六

2、指導の要點 ..... 二六

3、補説事項 ..... 二六

第三、臺灣地方 ..... 二五

一、指導要旨 ..... 二五

二、指導準備

1、資料研究 ..... 二五

A、區域 ..... 二五

位置 面積及び區分 (參考補説) (1) 臺灣地方の數理的位罫 (2) 行政上の沿革 ..... 二五

B、地勢 ..... 二六

概觀 山脈 臺灣山脈 臺東山脈 大屯火山脈 平地 宜蘭平野 臺東平野 西部平野 海岸 西海岸 東海岸 北海岸 (參考補説) (1) 高雄港 (2) 基隆港 河川 淡水河 濁水溪 下淡水溪 (參考補説) (1) 濁水溪と發電計畫 ..... 二六

C、産業 ..... 二五

氣候 溫度 雨量 風位 産業概觀 農業概説 米 甘蔗 甘藷 パナ、茶 落花生 (參考補説) (1) 臺灣の米作 (2) 甘蔗の栽培法 牧畜業概説 水牛 黄牛 豚 林業概説 阿里山の森林 八仙山の森林 宜蘭濁水溪の森林 工業概説 製糖業 製茶業 製材業 製腦業 其他の工業 (參考補説) (1) 製糖法 (2) 粗糖の取引 (3) 精糖の取引 (4) 烏龍茶・包種茶の製法 (5) 阿里山鐵道 (6) 樟腦の製造 (7) 樟腦の取引 鑛業概説 金 銅 石炭 石油 硫黃 水産業概説 漁獲物 養殖物 製造物 製鹽業 ..... 二五

地理の學習指導目次



D、交通……………一七五

—概観—鐵道—海上の交通—(参考補説)—通信—

E、住民……………一七七

—概観—内地人—支那民族—高砂族—

F、都邑……………一八〇

—概観—基隆—臺北—臺中—嘉義—臺南—高雄—屏東—花蓮港—其他の都邑—

G、澎湖諸島……………一八〇

2、學習環境……………一九二

A、地圖……………一九二

B、圖表……………一九二

C、實物又は標本……………一九二

D、繪葉書・寫真類……………一九三

E、其他……………一九三

三、方法要項……………一九三

1、獨自學習の指導……………一九三

2、相互學習の指導……………一九七

3、補説事項……………一九九

### 第四、朝鮮地方……………二〇〇

一、指導要旨……………二〇〇

二、指導準備……………二〇一

1、資料研究……………二〇一

A、區域……………二〇一

—位置—面積及び區分—(参考補説)—(1)内地との關係小史—(2)日韓併合條約—(3)

—行政上の組織—(4)朝鮮地方の數理的位

B、地勢……………二〇四

—概観—山脈—長白山脈—大白山脈—小白山脈—(参考補説)—(1)金剛山—(2)其の

他の山脈—河川及び平地—鴨綠江—大同江—漢江—錦江—洛東江—豆滿江—(參

考補説)—(1)朝鮮の河川—(2)朝鮮の平野—海岸—東海岸—南海岸—西海岸—(參

考補説)—(1)朝鮮の島嶼—(2)潮汐の干満—

C、産業……………二〇七

—氣候—氣温—雨量—産業概観—農業概説—米—麥—大豆—小豆—粟—煙草—綿

—人蔘—(参考補説)—(1)朝鮮米の取引—(2)朝鮮大豆・小豆の取引—牧畜業概説—

牛—豚—林業概説—主要樹種と其の用途—紅松—杉松—落葉松—(参考補説)—(1)

地理の學習指導目次

運材—(2)製材—鑛業概説—金—鐵—石炭—水産業概説—主要漁獲物と産額—其の産地—製鹽—(参考補説)—(1)明太魚—(2)石首魚—工業概説—鮮人工業—内地人工業—(参考補説)—貿易—

D、交通……………三七

—交通概観—鐵道—京釜線—京義線—京元線—湖南線—咸鏡線—未成線と私設鐵道—航路—主要航路—

E、住民……………三六

—住民概観—朝鮮人—内地人—(参考補説)—朝鮮人の風習—内地在住鮮人—

F、都邑……………三六

—都邑概観—釜山府—馬山府—大邱府—木浦府—群山府—京城府—仁川府—平壤府—鎮南浦府—新義州府—元山府—清津府—其の他の都邑—羅南—會寧—開城—龍巖浦—

2、學習環境……………三九

A、地圖……………三九

B、圖表……………三九

C、實物又は標本……………三九

D、繪葉書・寫真類……………三九

E、其の他……………三九

三、方法要項……………三九

1、指導眼目……………三九

2、獨自學習の指導……………三九

3、相互學習の指導……………三九

4、補説事項……………三九

5、整理學習の指導……………三九

### 第五、關東州……………三六

一、指導要旨……………三六

二、指導準備……………三六

1、資料研究……………三六

A、區域……………三六

—位置—面積及び區分—(参考補説)—(1)租借地の意義—(2)關東州の租借—(3)滿州中立地帯—(4)關東州の數理的的位置—(5)關東州の行政—

B、住民……………三七

C、地勢……………三七

- 概觀—山脈—海岸—
- D、産業……………二七五
  - 概觀—農業—水産業—鑛業—工業—(參考補說)—(1)豆粕及び豆油—(2)豆粕の取引—(3)關東州の貿易—
- E、都邑……………二七六
  - 概觀—旅順—大連—其他の都邑—柳樹屯—金州—錦子窩—
- F、交通……………二七六
  - 概觀—鐵道—(參考補說)—南滿洲鐵道株式會社—航路—
- 2、學習環境……………二七六
  - A、地圖……………二七六
  - B、圖表……………二七六
  - C、實物又は標本……………二七六
  - D、繪葉書、寫真類……………二七六
  - E、其他……………二七六
- 三、方法要項……………二七六
  - 1、一般的注意……………二七六
  - 2、獨自學習の指導……………二七六

- 3、相互學習の指導……………二八六
- 4、補說事項……………二八八

### 第六、日本の總說

- 一、指導要旨……………二八九
- 二、指導準備……………二八九
  - 1、資料研究……………二八九
    - A、地勢……………二八九
      - 概觀—山脈—火山脈—(參考補說)—(1)火山の成因と種類—(2)阿蘇山—(3)溫泉岳—地震—河川—(參考補說)—(1)河川と人生との關係—(2)主要水力送電系統—(3)朝鮮の海水發電其他—平野—
    - B、産業……………二八九
      - 農業—米—麥—甘藷—大豆—甘蔗—茶—煙草—果物—綿—蠶業—繭—生絲—絹織物—林業—林野面積—主要木材と製材—木材の需給—パルプ—牧畜業—牛・馬—豚—羊—水産業—漁業—鱈—鯉—鮭—其他—水産製造物—製鹽—水産養殖—鑛業—石炭—石油—銅—鐵—(參考補說)—我が國の鐵鑛—工業—綿絲—綿織物—染色及び染料—其他の工業品—肥料—洋紙—砂糖—
  - 2、地理の學習指導目次……………二八九

C、貿易……………三三  
 — 概観—入超の原因—輸出品—輸入品—主要貿易港—主要取引先—  
 D、交通……………三一  
 — 概観—鐵道—航路—港の設備と燈臺—通信—郵便—電信—海底電信—無線電信—  
 外國電報料金—電話及び無線電話—  
 2、學習環境……………三六  
 A、地圖……………三六  
 B、圖表……………三七  
 C、實物又は寫眞……………三七  
 D、繪葉書・寫眞類……………三七  
 E、其他……………三七  
 三、方法要項……………三七  
 1、指導眼目……………三七  
 2、獨自學習の指導……………三八  
 3、相互學習の指導……………三一  
 4、補說事項……………三二

### 第七、アジヤ洲……………三九

一、指導要旨……………三九  
 二、指導準備……………三九  
 1、資料研究……………三九  
 (一) 總論……………三九  
 A、位置・面積……………三九  
 — 概観—位置及び面積—人口—  
 B、地勢・産業……………三九  
 — 山地と産業—山脈—高原—低地と産業—低地—シベリヤの平地—中アジヤの平地—支那平野—印度平野—其他の平野—  
 C、交通……………三九  
 — 陸上の交通—海上の交通—  
 (二) 支那……………三九  
 A、區域……………三九  
 — 面積・人口—區分—  
 B、支那本部……………三九  
 地理の學習指導目次……………三九

―農業・工業―鑛業―(参考補説)―大冶の鐵山―交通―河川交通―陸上交通―海上交通―貿易―

C、滿洲……………三九〇

―面積・人口―地勢―氣候―産業貿易―農業―林業―(参考補説)―滿洲の森林―鑛業―(参考補説)―(1)撫順炭坑―(2)本溪湖の炭坑―水産業―交通―陸上交通―河川及び海上交通―都邑―奉天―營口―安東―長春―ハルビン―(参考補説)―滿洲の植民的價値―

D、蒙古……………三九〇

―位置・面積―産業・都邑―東部内蒙古―(参考補説)―内蒙古の植民的價値―

E、我が國と支那との關係……………三九三

―關東州の租借―鐵道の經營―農商經營日支合辦―鑛山の採掘―在任邦人―交通・貿易―

(三) シベリヤ……………三九五

A、概観……………三九五

―位置・面積・人口―

B、地勢……………三九五

―山脈―河湖―

C、産業……………三九六

―凍土帯―森林帯―草原帯―山岳帯―海岸地方―

D、都邑・交通……………三九六

―ウラヂボストック―シベリヤ鐵道―ブラゴエシチエンスク―イルグーツク―トムスク―オムスク―

E、我が國との關係……………四〇〇

(四) 印度……………四〇〇

A、概観……………四〇一

―位置・面積・人口―

B、産業……………四〇一

―地勢・氣候―農業―米―綿―茶―貿易―

C、都邑・交通……………四〇一

―デリー―カルカッタ―ボンベ―コロンボ―鐵道及び航路―

D、日印の關係……………四〇一

―印度貿易について―(参考補説)―日印通商條約破棄運動―

(五) 東南アジア……………四〇二

A、區域……………四〇二

地理の學習指導目次

— 成立—地勢・氣候—

**B、印度支那半島**.....

— 地勢—氣候—産業—農業—林業—(參考補説)—(1)外國米の取引—(2)護謨の栽培と採集—(3)邦人の護謨園—護謨の取引—都邑—シンガポール—バンコク—サイゴン—ハノイ—印支に於ける邦人—

**C、マレー諸島**.....

— 概観—ジャワ島—バタビヤ—スラバヤ—サマラン—(參考補説)—ジャワ糖の取引—ボルネオ島—スマトラ島—セレベス島—フィリピン群島—マニラ—マレー諸島と我が國—

**2、學習環境**.....

**A、地圖**.....

**B、圖表**.....

**C、實物又は標本**.....

**D、繪葉書・寫真類**.....

**E、其他**.....

**三、方法要項**.....

**1. 外國地理指導眼目**.....

**2、單元**.....

**3、指導上の注意**.....

**第八、ヨーロッパ(歐洲)**.....

**一、指導要旨**.....

**二、指導準備**.....

**1、資料研究**.....

**A、區域**.....

— 位置—面積—人口—區分—

**B、地勢**.....

— 山脈—南部山脈—西南部山脈—其他の山脈—河川—平地—ボルガ川—ライン川—ダニユ—プ川—運河—

**C、産業**.....

— 氣候—農業—牧畜—林業—鑛業—工業—

**D、交通**.....

— 陸上交通—鐵道幹線—トンネル—登山鐵道—河川—海上の交通—船舶—貿易—

**E、イギリス**.....

— 面積—人口—産業—貿易—都會—ロンドン—リバプール—(參考補説)—イギリス地理の學習指導目次

F、フランス	四八
—面積・人口—産業・貿易—都會—パリ—マルセイユ—(参考補説)—フランスの領土—	
G、イタリヤ	四九
—面積・人口—産業・貿易—都會—ローマ—ネーブルス港—	
H、ドイツ	五〇
—面積・人口—産業—都會—ベルリン—ハンブルグ—(参考補説)—(1)ドイツ領土の變化—(2)ロ・ア二州とザール川流域—(3)ライン川軍備禁止—	
I、ソヴィエト聯邦(ロシア)	五一
—面積・人口—産業—都會—モスコ—レニングラード—	
J、其の他の諸國	五二
—オランダ・ベルギー—面積・産業—人口—ポーランド—チエツコスロバキヤ—スイス—	
K、我が國との關係	五三
—條約國—交通—貿易—	
2、學習環境	五四
A、地圖	五四

## 第九、アフリカ洲

一、指導要旨	五五
二、指導準備	五六
1、資料研究	五六
A、區域	五六
—位置・面積—區分—	
B、地勢	五七
—山脈—河川—海岸—	
C、氣候・産業	五七
D、エジプト	五八
地理の學習指導目次	二一

—位置・面積—産業—都會—(參考補説)—ピラミッドとスフィンクス  
 E、南アフリカ聯邦.....四六  
 —位置・地勢—面積・區分—産業—都會—  
 F、交通.....四六  
 —陸上の交通—海上の交通—(參考補説)—スエズ運河—  
 2、學習環境.....四六  
 A、地圖.....四六  
 B、圖表.....四六  
 C、實物又は標本.....四六  
 D、繪葉書・寫眞類.....四六  
 E、其他.....四六  
 三、方法要項.....四六  
 1、單元.....四六  
 2、指導上の注意.....四六  
 第十、北アメリカ洲(北米).....四六  
 一、指導要旨.....四六  
 二、指導準備.....四六

1、資料研究

A、區域.....四六  
 —位置・面積—區分—  
 B、地勢.....四六  
 —山脈—平地—湖川—  
 C、産業.....四六  
 —氣候—農業・牧畜—(參考補説)—米綿の取引—林業—其他—水産業—鑛業—  
 工業・貿易—  
 D、交通.....四六  
 —陸上交通—海上交通—(參考補説)—(1)パナマ運河—(2)北米航路—  
 F、都會.....四六  
 —ニューヨーク—フィラデルフィヤ—シカゴ—ワシントン—オタワ—ボストン—  
 バンクーバー—シヤトル—サンフランシスコ—ロスアンゼルス—  
 F、我が國との關係.....四六  
 —通信・交通—貿易—在留邦人—  
 2、學習環境.....四六  
 A、地圖.....四六  
 B、圖表.....四六  
 地理の學習指導目次



C、實物又は標本..... 五二五

D、繪葉書・寫真類..... 五二五

E、其他..... 五二五

三、方法要項..... 五二五

1、單元..... 五二五

2、指導上の注意..... 五二六

第十一、南アメリカ洲(南米)..... 五二九

一、指導要旨..... 五二九

二、指導準備..... 五二九

1、資料研究..... 五二九

A、區域..... 五二九

—位置—面積—人口—區分— 五二九

B、地勢..... 五二九

—西部山地—東部高原—中部平地—(參考補説)—(1)アマゾン川—(2)ラブラタ川— 五二九

C、氣候..... 五三〇

D、産業..... 五三〇

—鑛業—牧畜—農業—

E、ブラジル..... 五三六

—面積—人口—産業—都會—リオデジャネーロ—サンパウロ—サントス—(參考補説)—移民としてのブラジル—

F、アルゼンチン..... 五三二

—面積—人口—産業—都會—ブエノスアイレス—(參考補説)—アルゼンチンと移民問題—

G、チリ..... 五三〇

—面積—人口—産業—都會—サンチャゴ—バルパライソ—チリへの移民狀態—

H、交通..... 五三五

—海上交通—陸上交通—

I、我が國との關係..... 五三七

2、學習環境..... 五三七

A、地圖..... 五三七

B、圖表..... 五三七

C、實物又は標本..... 五三八

D、繪葉書・寫真類..... 五三八

E、其他..... 五三八

地理の學習指導目次

三、方法要項

- 1、單元..... 五三八
- 2、指導上の注意..... 五三八

第十二、大洋洲

一、指導要旨

二、指導準備

1、資料研究

A、區域

—面積・人口—區分—

B、オーストラリア

—面積・政治—地勢・氣候—産業—農牧業—鑛業—(參考補説)—(1)世界の羊毛産額—(2)世界の金産額—交通・貿易—都邑—シドニー—メルボルン—

C、諸島

—概観—ニュージーランド—ハワイ諸島—

D、我が南洋諸島

—位置・成立—面積・人口—マリアナ諸島—パラオ諸島—カロリン諸島—マーシヤ

E、我が國との關係

—貿易移民—政治—軍事—

2、學習環境

A、地圖

B、圖表

C、實物又は標本

D、繪葉書・寫真類

E、其他

三、方法要項

1、單元

2、指導上の注意

第十三、世界と日本

一、指導要旨

二、指導準備

1、資料研究

地理の學習指導目次

A、六大洲……………五六二  
 — 概観— 歐亞二洲— 南北アメリカ— アフリカ洲・大洋洲—  
 B、三大洋……………五六三  
 — 大西洋— 印度洋— 太平洋—  
 C、我が國の地理上の位置……………五六四  
 — 概観— 條約國— 海運上の勢力— 貿易上の地位—  
 2、學習環境……………五六七  
 A、圖地……………五六七  
 B、圖表……………五六七  
 C、繪葉書・寫真類……………五六七  
 D、其他……………五六七  
 三、方法要項……………五六七  
 指導上の注意……………五六七

### 第十四、地球の表面……………五六九

一、指導要旨……………五六九  
 二、指導準備……………五六九

1、資料研究……………五六九  
 A、地球の形狀と大さ……………五六九  
 B、經線・緯線・經度・緯度及び地點の定め方……………五六九  
 C、地圖の描法と種類……………五六〇  
 D、地球の運動と晝夜・四季の生ずる理……………五六一  
 E、時差並に日附變更線……………五六二  
 F、赤道の南北による季節の相違……………五六三  
 G、氣候帶と氣候……………五六四  
 H、陸地と海洋……………五六五  
 2、學習環境……………五六六  
 三、方法要項……………五六六  
 指導上の注意……………五六六

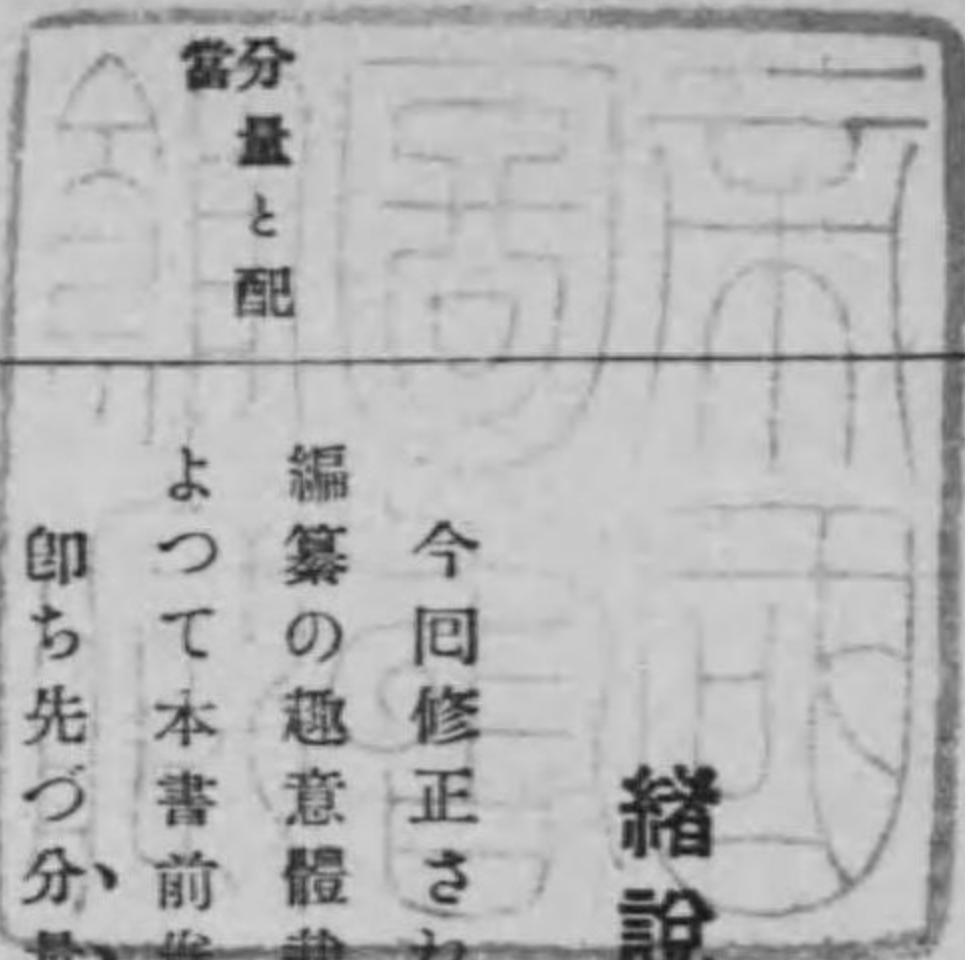
### 地理の學習指導尋六 — 目次終 —

修正地理  
書に據る 地理の學習指導

尋六

鶴居滋一著

緒說——修正尋六地理書概觀



分量と配

今回修正された尋常小學地理書卷二は大體に於て昨年修正された同書卷一に準ずるもので  
編纂の趣意體裁等には何等の相違がない。随つて其の材料方面の變動も亦當時著者が豫想に  
よつて本書前卷に之を述べたところと大差なく、實に於て量に於て略々相等しいものである。

即ち先づ分量及び配當の方面より瞥見すれば、舊教科書卷二が九州地方を卷頭に出し、以下臺  
灣・北海道・樺太・朝鮮・關東州・大日本帝國總説・アジャ洲・ヨーロッパ洲・アフリカ洲・アメリカ洲・北アメ  
リカ洲・南アメリカ洲・大洋洲・世界と日本・地球の表面の十五節を收めてゐるに對し、修正教科書卷  
二にあつては九州地方の一節を卷一に繰り上げ、從來の順序によれば臺灣地方が出るべき筈の  
劈頭に北海道地方を掲げて樺太・臺灣地方を第二・第三に置き、第四朝鮮地方以下の順序は舊教科  
書と同様であるが結局は十四節となつてゐる。乍併其の節の減少は決して分量上の減少を意

結 説

味するものでなく、寧ろ分量としては卷一に正比して相當に増加されてゐるのである。

然らば如何なる方面の材料に増加を來してゐるかといふに、大日本帝國總説の箇處に於ては通信・交通・産業・貿易等に一層詳しく、殊に交通には燈臺の一項目を加へ、アジア洲にては支那・滿蒙・シベリヤに多くの頁を充て、ヨーロッパ洲にては世界大戰後に現れた新興の諸國を増し、大洋洲に至つては我が委任統治地なる南洋諸島を詳説し、更に世界と日本の箇處に於ては在外邦人の活動状態を示し、且つ主要諸外國との關係並に國勢の比較に重きを置き、一面世界に於ける我が國の地位を闡明するとともに、他面大いに我が國將來の多忙を示現して國民の奮躍を促すことに力め、尙ほ最後の地球の表面の節に至つては地圖・時差・日附變更等の新項目を加へてゐる。故に節に於ては一節を減じてゐるようとも項に於て數項を増し、又一般に其の叙説が詳細となつてゐるので、九州地方を卷一に繰り上げて十四節に收めてあるとは言ふものゝ分量としては決して減少してゐないのである。

次にまた内容上の變動も凡そ卷一に準じて、地方誌は總て區分・都邑・國防等に軽く、産業及び之に密關せる地勢・氣候等の自然的要素に重く、外國地理は國際關係の疎密・繁簡をパロメーターに、我が國との交渉・干渉の密接なる諸國及び地方は精細に、然らざる諸國及び地方は簡疎に述べられてゐる。其の他部分圖並に比較圖表の増加したことや、通信・交通機關の状態に多大の注意が拂はれてゐることなどは卷一と同様であるが、またもつて修正地理書の一新面目と言ふべきであらう。

## 第一 北海道地方

### 一、指導要旨

北海道地方の區域・地勢・産業・交通・都邑及び千島列島等につきて次の諸項の大要を會得せしめ、以て新開地としての此の地方の特色を把握させ、現在人口問題上より見れば内國的移住の恰好の場所たることを知らしめる。

1. 此の地方の位置と成立、並に内地と相異なる行政上の區劃及び其の中心
2. 山脈・河川の趨向・平野の分布・海岸屈曲の状態等が産業・交通・都邑等の人文發達上に及ぼせる影響

A. 特に近年拓地殖民に努力せし結果、各種の産業勃興し生産力の甚だ増大せしこと

B. 同上の原因により海陸交通の機關も漸次整備に近づきて昨今は頗る面目を新にし、且つ相關的に交通機關の發達はまたいよく、拓地殖民の進歩を促しつゝあること

C. 是等に關係せる都會又は特色ある都邑の状況

3. 千島列島の概要

### 二、指導準備

第一 北海道地方

1. 資料研究

A. 區域

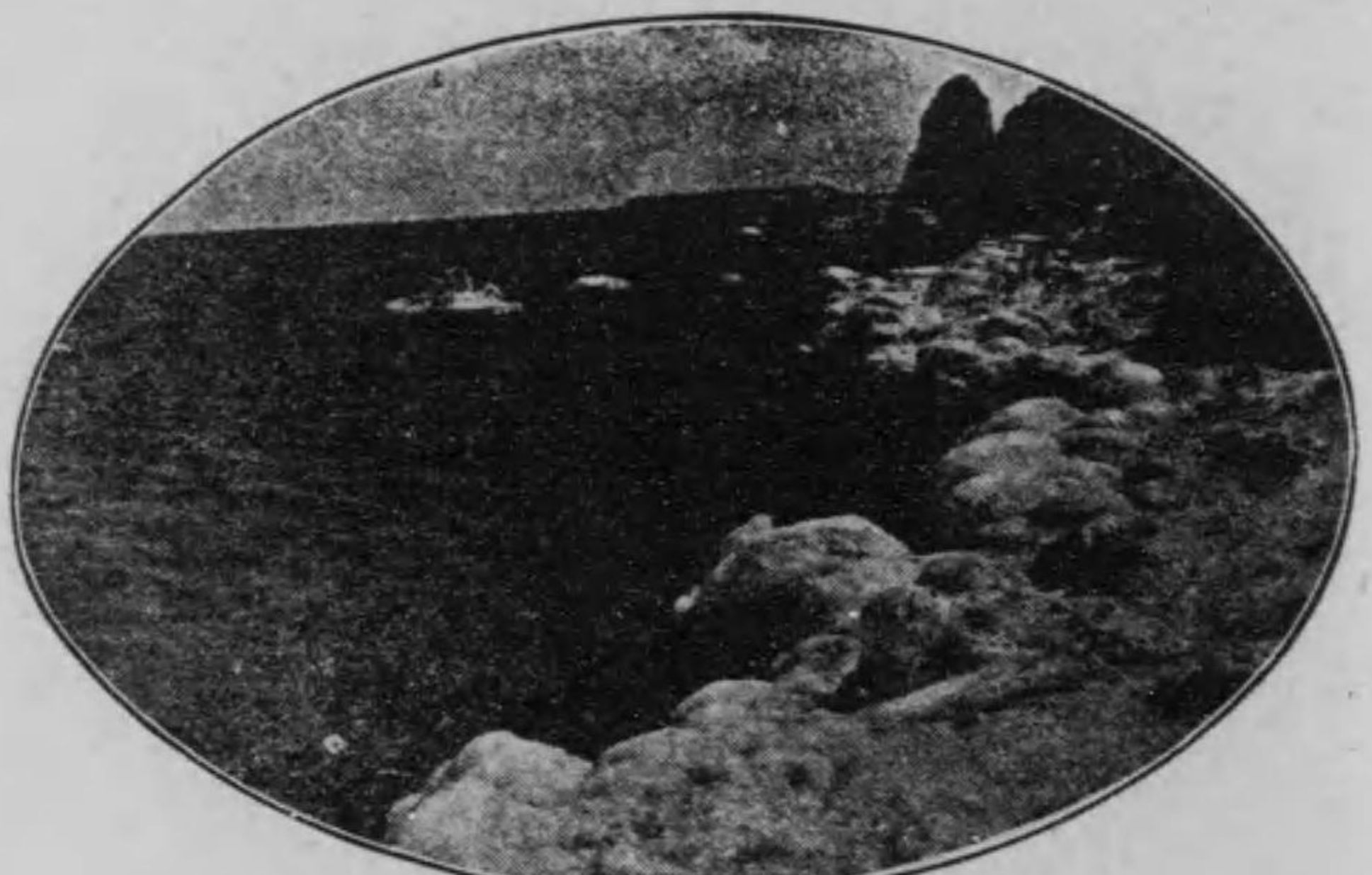
位置

面積及び  
區分

北海道地方は日本列島の東北部をなせる北海道本島と其の近海の屬島(禮文・利尻・大島)及び千島列島とより成り、札幌にある北海道廳が之を總管してゐる。東は渺茫たる太平洋に臨んで一望無涯全く陸地を見ず西は日本海を隔て、遠くソヴィエト聯邦領の沿海州と相對し、南は一葦帯水の津輕海峡によつて本州島の最北端青森縣と呼應し、北は宗谷海峡を挟みて樺太島の南端に相接せんとし、更に東北部は千島列島によつてオホーツク海と太平洋とを境し、其の東端占守島は幅員僅に六哩の千島海峡を隔て、直ちにソヴィエト聯邦領のカムチャツカ半島と相對してゐる。特に列島中占守島の西北に位せる一小島アライト島の北端は北緯五十度五十六分の地點に當り、實に我が國領土の最北端をなすものである。而して其の面積は本島及び屬島を合せて五千八十四方里、之に千島三十一島の面積一千一千方里(約四國)を加ふるときは六千九十五方里に達し、廣さ本州・朝鮮に次ぎ我が國總面積の約一割四分を占めることとなり、行政上之を六市(札幌・旭川・小樽)十四支廳(石狩・空知・檜山・渡島・釧路・浦河・河西)に分ち、市に市長・支廳には支廳長置をき北海道廳長官が之を統括してゐる。

本島の數  
理的位  
置

行政上  
の  
沿革



東端に近き根室花咲港の一部

參考補説

1. 北海道本島の數理的位

- 極東——東徑一四六度〇七、根室タラク島の東端
- 極西——東徑一三九度一一、渡島・大島の西端
- 極南——北緯四一度二二、渡島・小島の南端
- 極北——北緯四五度三〇、北見・宗谷岬の北端
- 中間緯度北緯四十三度二十六分、凡そ露領ウラジボストツク・滿洲長春等と同緯度上にあり、東京中央氣象臺(北緯三五度三九分)を距ること約八度。

2. 行政上の沿革

此の地方は往古所謂蝦夷ヶ島にして、久しく中央文華の恩恵に浴せず徳川幕府時代に至つても其の初期は尙ほ松前氏に委附して顧みざるの姿であつたが、漸く寛政十一年に及んで幕府の直轄するところとなり、後文政四年再び松前氏の所管に歸せしも、間もなく安政二年には福山地方を除いて又幕府の直轄となつたのである。當時ロシア人のカムチャツカ経路は次第に黒龍江沿岸に及んで遂には樺太島にも出沒するに至つたので、我が北邊の警備また急を告げ幕府も漸く其の經營に手を染めたのであつたが、王政復興御代も維新となつた明

治二年七月にはいよいよ開拓使を置き、更に同年八月には舊來蝦夷の名稱を廢して北海道と稱し、管内を分ちて渡島・後志・石狩・天鹽・北見・膽振・日高・十勝・釧路・根室・千島の十一ヶ國八十六郡となし、明治十五年一月には開拓使を廢して函館・札幌・根室の三縣を置いたが、明治十九年一月には再び之を廢して北海道廳を置き、爾來本島の行政事務は舉げて此處に屬せしめたのである。其の後大正十一年に至つて當時の六區を六市に十四支廳中の札幌支廳を石狩支廳・函館支廳を渡島支廳・室蘭支廳を膽振支廳・釧路支廳を釧路國支廳に改變して現在の如き行政組織としたのである。尙ほ北海道廳の廳務は内務部・警察部・拓植部・土木部の四部に分かれ、各部に部長あり上に北海道廳長官があつて之を總管してゐる。

B. 地 勢

北海道本土は石狩川河口から苫小牧を連ねる一線を分割線として見るときは、地形上略々之を菱形の主部と西南部に突出せる半島部とに區別することが出来る。而して此の線の以東は以西に比して面積數倍に當り、隨つて高大なる山脈もあり廣漠なる原野もあるが、以西は之に反して地域が狭小であり山勢・平地亦高峻廣大でない。

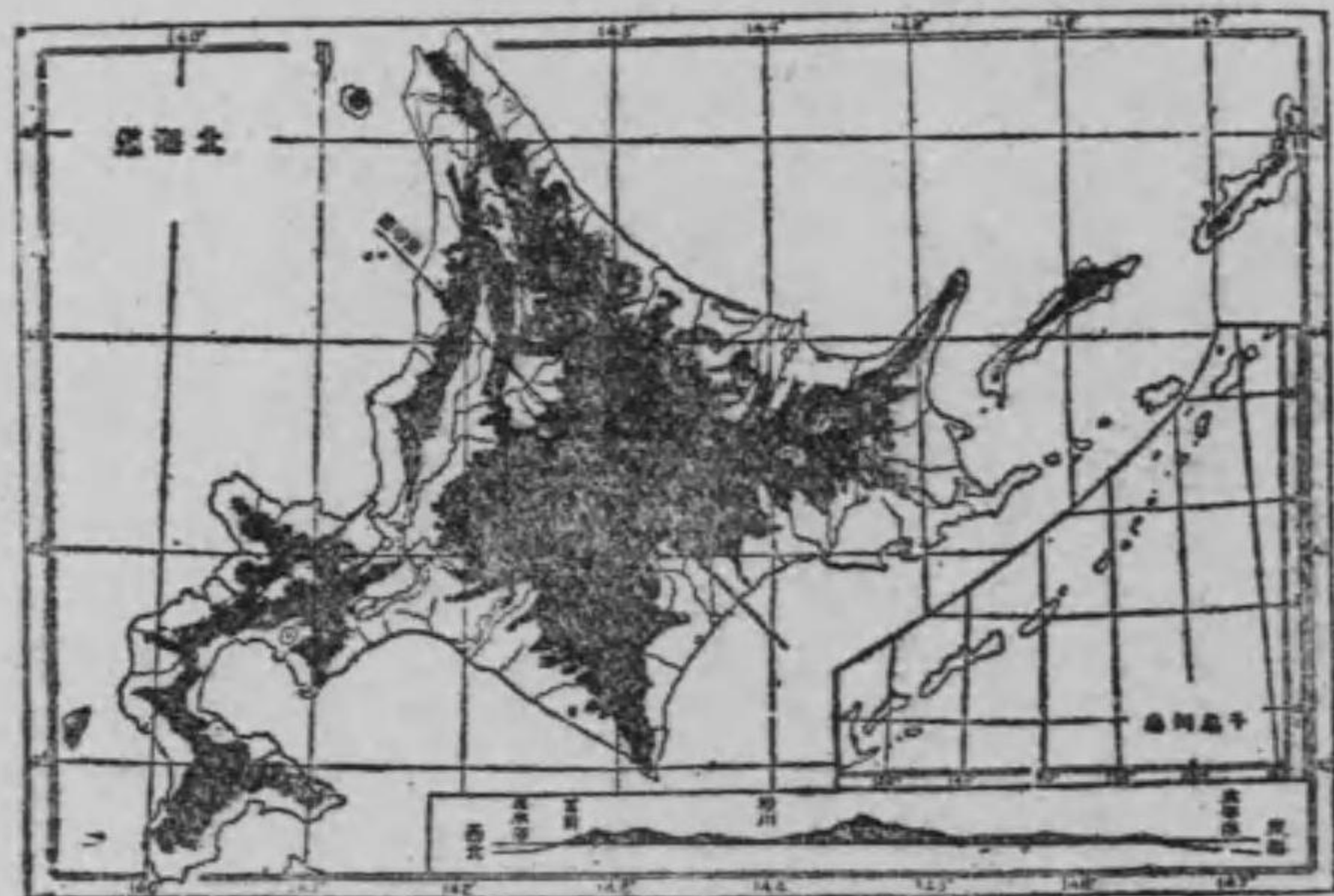
此の菱形の軀幹部を南北に縱走するものが所謂蝦夷山系で、之を東西に貫いてゐるものが千島火山脈である。此の兩山脈は本島の中央部に於て十字形に交叉し、以て本島の骨格をなすと同時に一大分水嶺をなし、本島主部の地形を自ら四個の大三角形に區劃してゐる。故に河流も亦此の對角線によつて分たれそれらの斜面に沿ふて流れ、其の流域に平野を發達させて本島の重要地域をつくつてゐる。

蝦夷山系

日高山脈

夕張山脈

北見山脈



北海道地方地勢圖

本島主部の南端より北端にかけて縱走する中軸即ち蝦夷山系は我が國北嶺山系の一部を構成せるもので、南部には日高山脈と其の西に連なる夕張山脈とを起し、北部には北見山脈と其の西に横はれる天鹽山脈とを崛起させてゐる。

日高山脈は南端に襟裳岬を起し日高・十勝の國境を北進して石狩・十勝の境上に聳立せるオプタテシケ附近に於て終り、脈中にはピバイロ岳(二〇一七米)・ホロシリ岳(九五〇米)・サツナイ岳(一九二四米)・カムイ岳(一四九七米)等の高峰がある。

夕張山脈は之に並行せるも其の高度一千米に達するもの少く、唯分水界上に立てる盟主夕張岳(一九三三米)が稍高い位である。けれども此の山脈は概ね中生層と第三紀層とから成つてゐる脈中には廣大なる石炭層を包蔵し、現に夕張・幌内・幾春別・空知等の諸炭坑が此處に開かれ本島の一大富源をなしてゐる。

北見山脈は北見・天鹽の國境を略々南北に走つて、中央部千島火山脈の下に没してゐる山

天鹽山脈

千島火山

那須火山

脈であるが、元來陷没地帯の一側面をなせるものであるから、これまた高度一般に高からず南端に近い天鹽岳(一五九〇米)を以て最高峰としてゐる。  
天鹽山脈は北見山脈との間に天鹽川の溪谷を挟んで並走せる山脈で、天鹽川下流の左岸に起り日本海岸の増毛山塊に連つてゐる。此の山脈も平均高度七百米に過ぎざる低山脈で、最高峰ヒシリ岳にして尙ほ且僅に九百餘米に過ぎない。

千島火山脈は露領カムチャツカ半島に發して千島列島に十五座の活火山を起し、知床半島に入つて本島主部の東西對角線上を横断せる一大火山脈で、先づ東方よりラウシ(一五七三米)・ラアカン(一五〇九米)・メアカン(一六一七米)等の火山をつくり、中央部に於ては本島第一の最高峰旭岳(二二五九米)をはじめ石狩岳(二〇三五米)・十勝岳(一八一二米)・オプタテシケ(一九八〇米)等の如き諸火山を噴起せしめ、更に西に走り日本海岸にては増毛火山群をつくり、半島部に入つては那須火山脈と相交错して膽振火山群を起してゐる。

本島の半島部は千島火山脈と本州島の奥羽地方より來れる那須火山脈との交错點に當つてゐるので、數多の火山を噴出せしめてゐる。

那須火山脈は本州島の北端津輕海峡に於て一旦海中に姿をかくし、再び突如として本島の東南端に現はるゝや直ちに渡島半島に惠山(六二〇米)を起し、内浦灣の南岸に至つては駒岳(一九三米)・北岸に馳せては有珠岳(五九五米)・マツカリ岳(八五七米)・樽前岳(一〇一五米)・登別岳(二〇二三米)等の諸火山を崛起せしめてゐる。是等の火山中樽前岳や有珠岳等は猛烈な

旭岳

マツカリ岳

駒岳と大沼

動をなしたので著名であり、駒岳やマツカリ岳等は風景の美によつて知られてゐる。  
參補考説

1、旭岳 舊名をヌタクカムシユベ山と呼び、旭川市の東方約十一里の地點上川盆地の東部に屹立せる一大火山である。頂上は二千米に達する數多の峯頭より成り、中に舊火口址とも見るべき一盆地をもつてゐる。四時雪を載いて山貌奇峻随つて中腹以上は殆んど登り難い。尙ほ此の山の西南腹には所々に硫氣洞があつて盛んに硫黃の烟をあげ、又石狩川上流地方には温泉の湧出せる箇所も少くないが、人里遠い山地のことゝて今のところ全く利用されてゐない。



マツカリ岳

2、マツカリ岳 洞爺湖の北方に聳立せる一火山で、山容頗る秀麗ために蝦夷富士の名がある。此の山は標式的な單式火山で頂上に大小三個の火口を有し、其の最大なるものは周回凡そ一里餘に達し、初夏雪だけの頃には之に水を湛えるところである。山頂からの展望が極めてよい上に、山麓より頂上に至るまでに各種の植物が分布されてゐるので、近年は夏季の登山者が著しく増加しつゝある。

3、駒岳と大沼 内浦灣の南岸に崛起せる一大火山で、數個に分れた火口壁の中最高峰を駒岳と稱するのである。火口は中・東・西の三つに分れてゐるが就中頂上(中)のものは楕圓形をなし、長徑一千米・短徑八百米に及び、中に大小無數の爆裂火口をもつてゐる。此の火山の活動が最も熾烈であつたのは安政二年と明治三十八年との大爆裂の時であつた。大沼は駒岳の噴出物が其の南方に位する横津岳



樽前岳と  
大沼



樽前岳と大沼

との溪間を埋めたために生じた一種の堰塞で、大小二つに分れ  
周囲約八里、湖中には樹木に蔽はれた百二十八個の小島があり  
風色の美北海道第一と稱せられ新日本三景の一つに數へられて  
ゐる。函館より十六哩八分・汽車は兩沼の相連なる最狭部セバ  
ットと稱する所に鐵橋を架して通じてゐる。夏時の舟遊・避暑  
には好適地である。

4、樽前岳とドーム 樽前岳は苫小牧の西北にある一大活火山

で、頂上の火

口は直徑約四

百米深さ六十

米に達し、も

とはお釜と稱

せられてゐた

が明治四十二

年四月の大爆



樽前岳とドーム

發によつて、坑底から盛んに熔岩を噴出して坑内を充  
たし更に山上に高さ約百三十米に及ぶ鐘狀の新山をつ

河川

太平洋斜  
面

十勝川

釧路川

くつた。斯の如きものをドームといふのであるが、現在の火山には頗る珍らしい現象であるために、地質  
學者間には餘程の興味をもつて迎へられてゐる。右圖は新山の側面から見た噴烟である。

本島の河川は主として屋梁形をなせる中央部の高地に發し、各對角線によつて區分され  
たる斜面に沿ふて流れ、それ〴〵四周の海岸に出でて太平洋・日本海・オホーツク海等に注い  
でゐる。而して其の分水嶺が略々本島の中央部に位せる結果として、各斜面を流走する幾  
多の河川の中には方向・延長等に於て相對比せるものも亦、少くない。且つ此の地方の河川  
は一般に急流が多く其の上屈曲に富んでゐるので、交通運輸の便を與へることは少くない  
が、灌漑發電には頗る利用されてゐる。

先づ太平洋斜面を流れるものゝ中では十勝川、釧路川、沙流川等が長流であつて、中でも十  
勝川をもつて第一とする。

十勝川は源を十勝岳の東麓に發して南流し、更に東に折れて帶廣附近に於ては左岸に音  
更、右岸にサツナイ川を合せ十勝平野を灌漑し、池田附近に於ては利別川を容れ俄に東南に  
轉じて海に注いでゐる。本流の長さ五十里、之に支流を合するときは流路の延長三百六十  
五里に達する一大河で、河口から芽室まで三十里間は舟楫の便があり、沿岸一帯一大平野を  
なして農業・牧畜が行はれ開拓の事業は年々進歩しつゝある。

釧路川は屈斜路湖に發して太平洋に注ぐ全長僅に三十四里に過ぎない川であるが、雪裡、  
阿寒等の多くの支流と、ともに釧路平野を貫流して灌漑・運輸の便を與へてゐる。

沙流川

沙流川は水源を十勝連山の間で發して西南に流れ、谿谷に狭長なる小平野をつくりながら太平洋に入つてゐる。此の河の流域にはアイヌに關する史蹟が多く、且つ今も尙ほ土人の住居せるものが少くない。

此の他太平洋斜面を流れる河川には西別(二九里・標別(二一里)・鶴川(三七里)・新冠(二〇里)等がある。

西別

西別・標別の二川は根室平野を潤し、又鮭鱈の産多く殊に西別川の鮭は北海道第一の良品として知られ、河口には人工孵化場の設備さへ出来てゐる。鶴川は其の流域にアイヌ人の住居するものが多いので著れてゐる。

新冠川

新冠川は其の流域に新冠御料牧場があるのをもつて知られてゐる。是等の諸川の沿岸にも亦沃野開け農耕牧畜に適する土地が少くないので近年は次第に其の業の發達を見せられてゐる。

日本海斜面  
石狩川

日本海斜面を流走する河川の主なものには石狩川、天鹽川の二つがある。

石狩川は石狩十勝の國境に崛起せる石狩岳に源を發し、西流して上川盆地に入り旭川の西方に於て神威古潭の峽流をなし、石狩平野に出ては先づ空知川を容れ、間もなく雨龍川を併せ、岩見澤の西南に至つては夕張川を加へて次第に水量を増し、更に西南に流れて豊平川を合し、石狩町附近に於て日本海に注いでゐる。全長凡そ九十三里、支流を合する時は流程約五百里に及び、本島第一の長流であるばかりでなく、また實に我が國第二の大河である。

天鹽川

隨つて運輸・灌溉の便に富み、小蒸汽船は河口より空知川の會合點に至る邊までも溯航し、開拓の業も大いに進み、住民も多く、本島經濟上の重要地域となつてゐる。乍併春季氷雪の溶ける頃には本支流ともに俄に増水したために下流沿岸地方は屢々氾濫の厄に會して、洋々たる大沼と化し、流路の位置を一變せしめることもあるのである。

天鹽川は北見山脈の天鹽岳に發し、北流して名寄川を併せ、北見、天鹽兩山脈の谿谷を曲折して尙も北に進み、天鹽港附近に至つて海に注いでゐる。本流の長さ凡そ七十八里、支流を合すれば全流程二百二十里に達する本島第二の大河であるが、流域は概ね狹隘な小盆地に過ぎず、人煙亦稀であつて僅にアイヌ部落が處々に散在してゐる位である。けれども沿岸には密林に富む所多く、宗谷線の開通とともに日を逐ふて開拓の實も擧げられてゐることであるから、此の流域一帯が舊態を改めた發達振を見せることも亦遠い將來ではあるまい。

オホーツク海斜面  
常呂川

オホーツク海斜面を流れる河川には常呂川、湧別川、網走川等がある。

常呂川は流程三十七里に及び、此の斜面第一の長流であるが、其の位置僻遠のために流域の現状は未だ甚だ不振たることを免れてゐない。乍併此の附近は緯度に割合して氣候が溫和であり、地味も亦豊饒で農作物の發育が佳良であるから、大いに將來を囑目され、近年は移住者の數も漸く多きを加へてゐる。

湧別川

湧別川は全長約三十三里、其の下流地方は一般に濕潤な低地で利用價值に乏しいが、湧別線沿線の地方には沃野が開けて農産物の産出も少くない。

網走川

網走川は流程二十四里に過ぎないが兩岸には沃野多く農耕に適してゐるばかりでなく、舟楫の便も相當に多い。

平野

此の地方の平野は概ね上記諸川の流域に展開せるもので、即ち十勝平野・天鹽平原・北見原野・上川盆地・石狩平野・釧路根室平野等がそれであるが、中でも最も著名なものは石狩平野と上川盆地と十勝平野とである。

石狩平野

石狩平野は長さ三十七里、幅五里、面積二萬町歩に達する大平野で、地味肥え米・麥類・亞麻・馬鈴薯等の農産物が多く、其の上工業も發達し交通も便利なので、随つて人口も増殖し本島の首都たる札幌市をはじめ岩見澤・江別・瀧川等大小の都邑が各處に出來てゐる。

上川盆地

上川盆地は石狩川流域に屬する石狩原野の一部であるが、神居古潭の峽流によつて石狩平野と區劃されてゐるもので、廣袤南北約七里餘、東西五里の盆地である。此處も亦米・豆類・馬鈴薯等の産出が多く、殊に米は其の成育が甚だ佳良であつて本島總産額の凡そ三分の一を占めてゐる。故に移民一年と著しく増加して遂に今日の如く旭川市をはじめ幾多の都邑を發達せしめるに至つたのである。

十勝平野

十勝平野は石狩平野に亞ぐ大平野で、三面に山を繞らして寒風の來襲を防ぎ、前面に海を控えて暖流の影響を受けるため、氣候が溫暖であり且つ地味も肥沃なので、開拓の業大いに進み、大豆・麥類・馬鈴薯の他に玉蜀黍の産額も多く、池田・帶廣などの中心都邑が出來てゐる。北海道本島の海岸は屈曲に乏しくて、海岸線の發達係數僅に二・三に過ぎず、臺灣の一・八に

比しては稍々大なれども、之を九州の五・〇に比べたなれば其の二分の一にも達してゐないといふ状態である。のみならず本島を十字形に走る蝦夷山脈・千島火山脈の先端即ち知床・襟裳・宗谷の三岬は堅岩平直に突出して陸地的肢體少く、其の他の海岸も亦或は段丘をなし又は砂丘を發達せしめてゐるので、随つて天然の良港と稱すべきものは甚だ稀である。けれども津輕海峽に臨んでゐる函館灣・内浦灣頭に位する室蘭灣・石狩平野の門戸をなす小樽灣等にはそれ／＼函館・室蘭・小樽等の諸港があつて港の設備整ひ舟の出入に便利であるから大小の船舶が常に往來してゐる。尙ほ之に亞ぐものには太平洋岸の釧路・宗谷海峽に臨める稚内・根室灣内の根室港等がある。

參考補説

1、海岸線發達係數 といふのは海岸線發達の程度を示すもので、普通島嶼又は大陸と等積の圓周の面長さを測り、それと其の島嶼又は大陸の海岸線の長さとの比をあらはしたものである。

2、知床岬と落石岬 知床岬は本島の東北端にある知床半島の先端で、恰も千島火山脈が千島より本島に上陸したところに當つてゐるものであるから、海岸には千尺以上の峻崖が峙ち一帶殆んど錨泊に適するところがない。落石岬は知床半島の對岸花咲半島の中央南部に突出してゐる岬角で、其の西南端には光達十八哩の回轉燈臺があり、又無線電信局があつて内地各無線局及び近海航海中の船舶とは勿論、遠く北米との通信にも當つてゐるので有名である。

3、襟裳岬 は日高山脈が太平洋に没せんとする所に位して其の展望頗る雄大であるが、岬頭より約一里

海岸線發達係數

知床岬と落石岬

襟裳岬

の間には暗礁甚だ多く船舶の往來頗る危険である。加之近海は根室の海岸とともに濃霧の最も多い所であつて、毎年夏期三ヶ月間は海上の交通を阻害されることが少なくない。故に岬角の先端には光達二十二哩の回轉白色燈臺及び霧笛を設備して海上を照し、又濃霧の際には約一分三十秒毎に霧笛を吹き鳴らすといふやうにしてゐる。

宗谷岬と宗谷海峡

4、宗谷岬と宗谷海峡 宗谷岬は北見山脈の北端に突出せる一岬角で、此の附近にも亦海中に岩礁多く寒暖二流の會合するために濃霧を生ずることも少くないので、此處にも回轉白色の燈臺を設け、又霧鐘を備へて海上交通の安全をはかつてゐる。宗谷海峡は宗谷岬と其の對岸樺太島の西能登呂岬との間にある幅員二十三哩の海峡で、日本海とオホツク海との通路に當つてゐる。暖流對馬海流の一派は此の海峡の南側を西より東に流れ、樺太の東海岸より來れる寒流は此の海峡の北側を南下して更に西に流れんとし、こゝに濃霧を生じて航海上の危険を齎すことが屢々あるが其の半面には暖流の影響により流水を北見の東岸に押し流し、此の海峡の凍結を防いでゐるといふ利點もあるのである。

鐘の鳴る燈臺

5、鐘の鳴る燈臺 宗谷海峡は昨年(大正十四年)北樺太汽船の大禮丸を沈めた他數隻の汽艇と多くの主艦とを奪つて北海の魔の海と稱せられて居り、樺太廳長官からも屢々燈臺設置に關し要求して來たので、當局ではいよいよ同海峡能登呂岬沖八哩の二丈岩に四百二十尺光達十三哩の燈臺を建設することゝなつた。同海峡は有名な濃霧の箇所として、濃霧中の危険を防止するために燈臺上に口径六尺餘の大釣鐘を吊し、炭酸ガスの發生を利用して機械的に日夜之を亂打して位置を示すことゝなつた。尙ほ同地は寒氣と荒海とで工事の期間が短いので、十五、六年度の繼續事業として竣工は十六年の秋頃となる見込みである。

津輕海峡とブラッキストン線

6、津輕海峡とブラッキストン線 津輕海峡は日本海と太平洋とを連接する要路であり、又本州島と本島とを連絡する水路にも當り、交通、運輸上極めて重要な場所たることは勿論、國防上にも甚だ大切な海面である。其の地學上の成因は地帯の陥没作用に基く一大深溝で、東西約六十哩・南北は最短十哩・最長三十哩に及び、深度の最大は二百八十尋を超える所があり、潮流一般に急激である上に其の東部の海面は寒暖二流の會合點に當り濃霧を生ずることも少くないので、航海上災厄に遭ふことが屢々ある。又生物分布上所謂ブラッキストン線と稱するのは此の海峡を一區劃線とするもので、本州島の動物例之普通の猿・猪・日本熊・雉子・山鳥等は北海道に見ることなく、之に反して本島特有の羆其の他五十有餘種の鳥類は本州島に移らず、植物についても同様の相違があり、蝦夷松、檜松の如き海峡以南に自然的繁茂を見ることの出來ないものが、本島には森林をなしてゐるといふやうなのがそれである。

C、産業

北海道地方の舊來の民族は所謂アイヌ人であつて、最近の調査によれば全數約四千五百戸、一萬九千人千島アイヌ、樺太アイヌを除くといふことになつてゐる。之を文化年間の二萬四千二百人文政年間の二萬一千六百人に比較すれば慥に減少してゐるのであるが、安政から明治初年頃までの一萬七千人に比べて見たなれば多少ながら増加を來してゐる譯である。現在に於ては浦河支廳管下(日高)の一千六百戸、六千八百人を筆頭に、膽振支廳管下(膽振)の八百戸、四千人が之に次ぎ、其の他は河西支廳管下(十勝)の五百戸、一千七百人、釧路國支廳管下(釧路)の四百戸、一千六百人等が多い所で、石狩支廳管下(石狩)の二百五十戸、一千人以外の地

住民



アイヌ人の風習の一

地理の學習指導

方は皆一千人に満たざる少數のものゝみである。

そこで政府は明治初年以來大いに内地人の移住を奨励した結果、年々六・七萬の移民を見、明治五年には二萬二千戸・九萬六千人に過ぎなかつたものが、同三十年には十六戸・七十七萬餘人となり、大正九年には四十五萬戸・二百三十六萬人となり、現在(大正十四年十月の國勢調査)に於ては四十六萬八千七百五十二戸・二百四十九萬八千六百六十人となつてゐる。けれども其の人口密度は未だ甚だ低くして全道平均三百九十人を以て、之を内地人口密度平均二千三百六十人に比較すれば五分の一にも達せず、又内地最低岩手縣の九百十二人に比べても餘程の懸隔があるのである。

參考補説

1、アイヌ人の風習 アイヌ人は資性頗る温厚淳朴であつて、臺灣の生蕃人などの如き蠻的な行動は少しもないばかりでなく、現代の文化にこそは遅れてゐるが、敬神の念厚く禮讓の徳備り、背任や潰職のやうな鄙野醜態な事件は曾て一度も彼等の間に起つたことがない。殊に長老に對する敬愛の念は至



アイヌ人の風習の二

つて深く、文化人をもつて誇る内地人も慚愧に堪えざるものがある。而して男子は漁獵をなす他、器物の製作・彫刻等にも手を下し、山川の地理に通じ、動植物の名稱・習性をも心得、常に能動的な生活を営んでゐるために多大の權力を有し、祭神・祈禱等も總て男子の司るところとなつてゐる。婦女子はアツシの織方をはじめ刺繡・料理・育児・舞踏等主として家庭的作業に従事し、又男子を尊敬してよく服従すること等は従順をもつて聞えてゐる内地婦人にしても到底及ぶ處でない。而もまた男子には毫も婦女子を侮蔑する態度なく、特に老婦人を尊敬するの美德が見られる。

アイヌ人は米麥等の穀食よりも鳥獸や魚肉を常食とすることを好むが故に、野菜や穀類等の耕作には熱心せず、唯一家族の所要を充せば足るといふ状態にあるのが普通である。随つて近年生活雜の結果や内地人との混血又は雜居生活等のために種々の職業を營むものも出來て來たが、本來のアイヌ人は決して營業を爲す様なことはないのである。

斯の如き原始的生活を營んでゐるにかゝらず、漁獵の方法は極めて巧みであつて、自然を師として習得

した多年の経験により鳥獸魚介の習性を了得して之を捕獲してゐるのである。

其の他衣服は楡の一種であるオヒョウと稱する樹皮の纖維をもつてアッシ織を製してつくり、家屋は丸木の掘立小屋で通常大小の二室を設け、室の中央に爐を備えて一家之を圍んで圍樂するやうになつてゐる。又有名な熊祭は大抵十月・十一月の交に行ふのであるが、これは天神地祇の祭祀に熊を犠牲に供するといふので此の名がある。上叙の如く彼等は淳朴可憐な民族であるが、元來蒙昧にして知識・學問なく、且つ衛生思想にも乏しく、生活状態も不良なために生存競争の敗殘者として漸次戸口を減少し、一時は頗る悲惨な運命に陥り種族の絶滅を見ようとしたが、時に當つて政府は北海道舊土人保護法なるものを制定し専らアイヌ人の保護に努めたものであるから、近年は次第に王化に浴して累年僅少ながらも戸口増加し、又算數の思想も出來て生活は改善の曙光をあらはしつゝあるのである。

## 移住の奨励

2、移住の奨励 政府が明治二年以來北海道への移住を奨励して來たことは前にも述べた通りであるが、其の移住者に對しては船車の割引をなし、未開地の配當・開墾の指導及び課税上の特典等と與へ、又補助金を交付して學校を設けしめ醫師を配置して保健に當らしめる等のことをしてゐる。故に各地方からの移住者は毎年其の數を増してゐるが、中でも最も多いのは奥羽・北陸の二地方である。地理書の挿繪は函館港の棧橋に内地からの移民が上陸しつゝある光景を示したものである。

## 産業概観

以上の如く人口の増加と交通機關の發達とは相俟つて大いに土地の開拓を進め、著しく諸種の産業を發達せしめたが、特に農業と工業とは格別の發展を見せて其の近時に於ける生産額、農業は約一億六千萬圓、工業は一億三千万圓に達し、ともに從來本島第一の産業であつた。

## 水産業概観

た水産業(凡そ一億萬圓)を凌駕するに至つたのである。

本島の近海には寒暖二流が流れてゐるために古來頗る魚族に富み、夙に諾威の海面及び加奈陀の東南海面と、ともに世界三大豊魚帯の一に數へられてゐる。これ寒暖二流の通過するところには種々の水温を好む魚族が自ら集り易く、且つ海底には泥土臺地があつて産卵にも求餌にも都合よく、又小區域の斷崖を除けば概ね緩斜段丘若しくは平夷地が砂海底に連続せるか、或は岩磐海底が緩斜陸岸と相接せるかであつて、魚族の群棲にも集團的通過にも適してゐるからである。隨つて其の漁獲高は全國漁獲高の五分の一を占めて第一位となつてゐる。今此の地方の主要水産物を舉げて見るに、魚類には鯧・鰯・柔魚・鮭・鱒・鱈等があり、貝類には海扇・海藻類には昆布が多い。

## 鯧

鯧は本島漁獲物の首位にあるもので、近時濫獲の結果多少其の産額を減少した傾向があるが、尙ほ一千六百萬圓を超え依然として水産物の隨一となつてゐる。而して鯧は全島到處若干の漁獲を見せざる所はないが、就中後志國岩内附近から天鹽・北見に至る西海岸一帯及び利尻・禮文の諸島に於て最も盛大である。漁期は南方では三・四月頃を盛漁期とし、漸次北上して北見の沿岸などでは六月頃まで漁獲することが出來るといふことである。

## 柔魚

鰯は本島半島の沿岸に多く、六・七月頃及び十一月十二月頃が盛漁期であるが、其の産額は三百六十萬圓内外に過ぎない。

柔魚は渡島を中心として後志の沿海に産し、七月より十一月に至る間が最も盛んな漁期

地理の學習指導

で産額は鯧に次で一千一百万圓を超え、之より製造する錫は昆布と、もに對支貿易品中の重要なものとなつてゐる。

鮭は根室・千島を中心産地として樺根・國後は全産額の二分の一以上を占めてゐる。殊に近年は人工孵化事業も行はれるやうになつたので益々其の産額を増し、年産約四千七百万圓に達し、毎年九月より十二月頃までに最も多く漁獲する。此の魚は鹽鮭・燻製・罐詰等となし、函館・小樽を中心市場として内地は勿論大連・上海等にも輸出してゐる。

鱈はオホーツク海・太平洋沿岸に産し、就中國後・樺根・根室の沿海を主産地として産額凡そ百四十萬圓をあげてゐる。漁期は五月より八月までを主とし、其の製品鹽鱈・罐詰等は南部支那・海峽殖民地及び南洋方面に輸出される。

鯧は後志・天鹽の沿海並に利尻・禮文の二島が有名な漁獲地で、其の産額百八十萬圓に達し、樺根・開鱈・鹽鯧・鯧油・搾粕等の製品産額が甚だ多く、内地はもとより支那・北米等へも輸出してゐる。

海扇は北見國の沿岸が主産地で、水深七尋乃至四十尋の沖合に産し、七月より九月頃にかけて潜水機を使用して之を漁獲してゐる。産額は僅に十六萬圓内外に過ぎないが、其の製品たる貝柱・乾海扇等の産額は二百七十萬圓に近く、主として支那・臺灣・神戸・横濱方面へ輸出してゐる。

昆布は本島の沿海一圓にわたつて多くの種類を産するが、中でも根室・釧路・日高・利尻・禮文

水産製造

海産物取引  
身欠

島等に最も多く産し、其の産額は約三百八十萬圓に及んでゐる。輸出向には主として長切昆布となし、内地向には細工昆布を用ひてゐる。而して海外の主要な取引先に支那・關東州・香港・露領シベリヤ等である。

尙ほ前記の水産物は乾物・燻製・鹽漬・罐詰・肥料等の水産製造品として、主に小樽港から各地に移輸出されるのであるが、其の價額は左記の通りで、これまた全國水産製造品總額の約三割を占めてゐる。

鯧粕	一〇、〇五二、〇〇〇圓	其の他の肥料	九、六五七、〇〇〇圓
鮭	五、七〇〇、〇〇〇圓	身欠 鯧	四、二二九、〇〇〇圓
鯧 鱈	二、七〇〇、〇〇〇圓	貝 柱	二、六五九、〇〇〇圓
鹽 鮭	二、七一一、〇〇〇圓	鹽 鯧	一、〇三二、〇〇〇圓

參考補説

1、海産物取引 鯧(身欠)の相場單位は東京では圓につき貫匁建・大阪では十貫建、産地との直接取引は一本建(二十四把)或は十貫建で、取引單位は依(一本建、二十四把、一把は百尾分)となつてゐる。表装は筵包で第一期製品は十七貫位・第二期製品は十三貫位・第三期のもの、取引は行はれてゐない。此の第一期二期といふのは漁期によつて區別されたもので、第一期は三月二十一日から四月二十日、第二期は四月二十一日から五月二十日、第三期は五月二十一日以後とする。而して第一期に漁獲したものを走鯧・第二期のものを中鯧・第三期のものを後鯧と稱し、就中走鯧が食料として最も賞美せられてゐる。中鯧は乾

かすの子

地理の學習指導

二四

製にし身缺練と稱して食料に供し、後練は主として肥料にする。練の標準物は北海道産第二期製品である。正月の献立になくはならぬ練は練の子で其の相場単位、取引単位はともに練と同様であるが、唯産地との間に行はれる大量取引のみは百石建(四千貫)となつてゐる。表装は藁包又は箱入で、前者は普通二十五貫俵、後者は正味十二貫入と定められてゐる。練の生産期は大抵四月から六月まで、仕入時期は九月から十一月までが最も多く、販賣時期は九月から翌年の二月までであるが、賣行のよいのは何といつても十二月から一月の下旬までである。

鯧の相場単位及び取引単位は東京では圓につき貫匁建・大阪では一尾建で、表装は各産によつて多少の相違はあるが、大體石油箱入又は籠入で其の籠の大小や魚の大小などは一定してゐない。生産期は鯧は柔十月から翌年の二月までが多いが、いりこは年中無休である。

柔魚から製造する鯧の標準物は矢張北海道産のもので、産地の相場単位は百斤建・東京は圓につき貫匁建・大阪は十貫建になつてゐる。取引単位は大部分俵(正味二十四貫入)であるが、稀には貫で行はれることもある。表装は藁包の縄締で、生産時期仕入時期はともに七月上旬から十一月下旬迄となつてゐる。

鮭は豊魚帯である北海道・樺太・勸察加・尼古來等のものが標準物で、それ等の産地に於ける相場単位は百石建(六千尾、紅鮭は八千尾)であるが、地方と産地又は地方に於ける相場単位は十貫建である。取引単位は箱或は俵で、表装は荒巻又は箱入となり十五尾(十七貫乃至二十二貫)入りとなつてゐる。鮭の生産時期は北海道に於ては九月上旬より十二月下旬までであるが、露領勸察加・尼古來等に於ては七月上旬から九月下旬までである。今北海道函館に於ける鮭の取引を見るに、先づ濱取引と稱し帆汽船の入港を俟つて

鮭 鯧

こ鯧といり

鱈

鱈

昆布

仲立業者の手を経て賣買を交渉し、一尾の目廻を定め品質を檢し、百石以上を取引単位として換買をなし現金引替としてゐる。

鱈の相場単位は普通十貫建で、東京は圓につき貫匁建・産地との直接大量取引は百石建である。取引単位は箱又は俵百石(一萬二千尾)で、表装は箱入又は藁包となり前者は十二貫乃至十七貫入・後者は八貫乃至九貫入となつてゐる。生産時期は七月上旬から九月下旬まで、仕入時期は八月から十二月までが最も多い。

鱈の取引は開鱈・棒鱈が大部分を占めてゐて、開鱈の相場単位は産地及東京では圓につき貫匁建・大阪では十貫建・輸出ものは百斤建と定め、取引単位は俵とし、表装は藁包(二百斤入)で、秋・冬の時期即ち十月から翌年の四、五月頃までに生産するものが多い。棒鱈の相場単位・取引単位は略々開鱈と同様であるが、産地との取引は圓につき貫匁の他・東(二貫五百匁)建を用ひてゐる。此の東八束を以て一丸と稱し、千六百束を以て百石としてゐる。表装は藁包か又は裸で何れも八束入である。

昆布の種類は極めて多いが商業上にあつては三石昆布・島切昆布を以て主なものとしてゐる。前者は黒褐色の長さ四・五尺幅四・五寸のもので長切昆布・元揃昆布の原料に供し、後者は暗緑色の長さ六尺乃至二十尺・幅一尺二・三寸に達するもので、折昆布・花折昆布と稱するものがこれである。而して昆布の相場単位は普通十貫建であるが、東京では圓につき貫匁建・産地との大量取引は百石(四千貫)建となつてゐる。取引単位は石又は俵であるが、表装や目方などは昆布の種類により産地によつて相違があるので、全部之を掲げることには出来ないから、左に其の主なもののみを示して置くこととしよう。

第一 北海道地方

二五



昆布の種類	表装	目方	産地	集散地
長切昆布	主に裸	約十六貫	根室・函館近海	函館
元揃昆布	蕨包	約十六貫	函館近海	小樽
同上	裸	約八貫	同上	小樽
島切昆布	蕨包	十貫乃至十五貫	北見・樺太近海	小樽
同上	結束	約五貫	同上	小樽
折昆布	蕨包	約二十貫	函館近海	小樽
花折昆布	同上	同上	同上	小樽

鯨粕は肥料として重要な位置を占めてゐるもので、これまた北海道・樺太に多く産する。相場単位は十貫建で、大量取引に限り百石建(四千貫)となつてゐる。取引単位は俵建で、表装は蕨包正味二十三貫七・八百匁入、標準物は北海道・樺太産の中上品と定められてゐる。今其の北海道産鯨粕十貫についての最近相場變動の概要を示して見ると次の通りになつてゐる。

大正三年七月(戦前)——四圓三十錢、大正七年十月(戦時中最高値)——九月二十五錢、大正七年十一月(休戦當時)——九圓十錢、大正八年四月(休戦後不況時)——十圓十五錢、大正九年二月同(好況時)——十六圓六十七錢、大正十年十二月——八圓七十錢、大正十一年五月——九圓、大正十二年二月——八圓二十錢、大正十二年九月——八圓、大正十三年二月——八圓五十錢

北海道近海で獲れる魚類の中で鯨・鱈・鰯等からは魚油をも製造してゐる。其の相場単位・取引単位は何

鯨粕

魚油

「昆布と味の素」

これも一箱建(一斗罐二罐)で、表装、箱詰繩掛となつてゐるが、生産時期にはそれ／＼の相違がある。鯨油は三・四・五月頃で、鯨油は秋季、鰯油は十一月中旬から十二月中旬頃までである。

2、**昆布と「味の素」** 昆布が出汁に用ひられることは何人もよく知るところであるが、此の出汁が何故に利くかについて研究したのは我が池田博士だけであつた。博士は先づ昆布の中に含まれてゐるグルタミン酸の鹽類に基因してゐることを發見し、之を調査して今日何れの家庭にも用ひられてゐる彼の「味の素」の最初を製出したのであつたが、昆布からグルタミン酸をとることは費用が多くかゝつて、とても之を日常の調味料として一般の家庭にすゝめることが出来ないで、更に研究を重ね小麦から澱粉質を除去した後、麩質の蛋白質を分解してグルタミン酸を採ることを發明し、之によつて「味の素」を多量に製出することにしたのである。故に現在用ひられてゐる「味の素」は全部小麦から採つたものであるに相違ないが、其のこゝに至る端緒は昆布のグルタミン酸に基因してゐるのである。

3、**昆布からとる薬品** 海藻は何れも多少の沃度や加里やブロームなどを含んでゐるが、殊に昆布に於て其の含有量が多い。そこで我が國の昆布には十四・五種もあるが食用に供し得る四・五種を除いては大抵質が硬いものであるから、之を焼いて沃度や加里などの原料に用ひてゐる。北海道地方では主に其の昆布から沃度をとつてゐるが、本州中部ではカジメ・アラメ等の海藻からとつてゐる。

4、**鯨の陸揚と製造** 近海で漁獲した鯨は小舟で之を海岸に運び來り、それをモッコに入れて脊負ひ鯨小屋に移して、其處で食料に製造するのであるが、現在ではモッコで運搬する代りに起重機を使用してゐるところもある。地理書の挿繪は留萌附近に於ける鯨の陸揚と食料に製造する所を示したもので、草屋根の

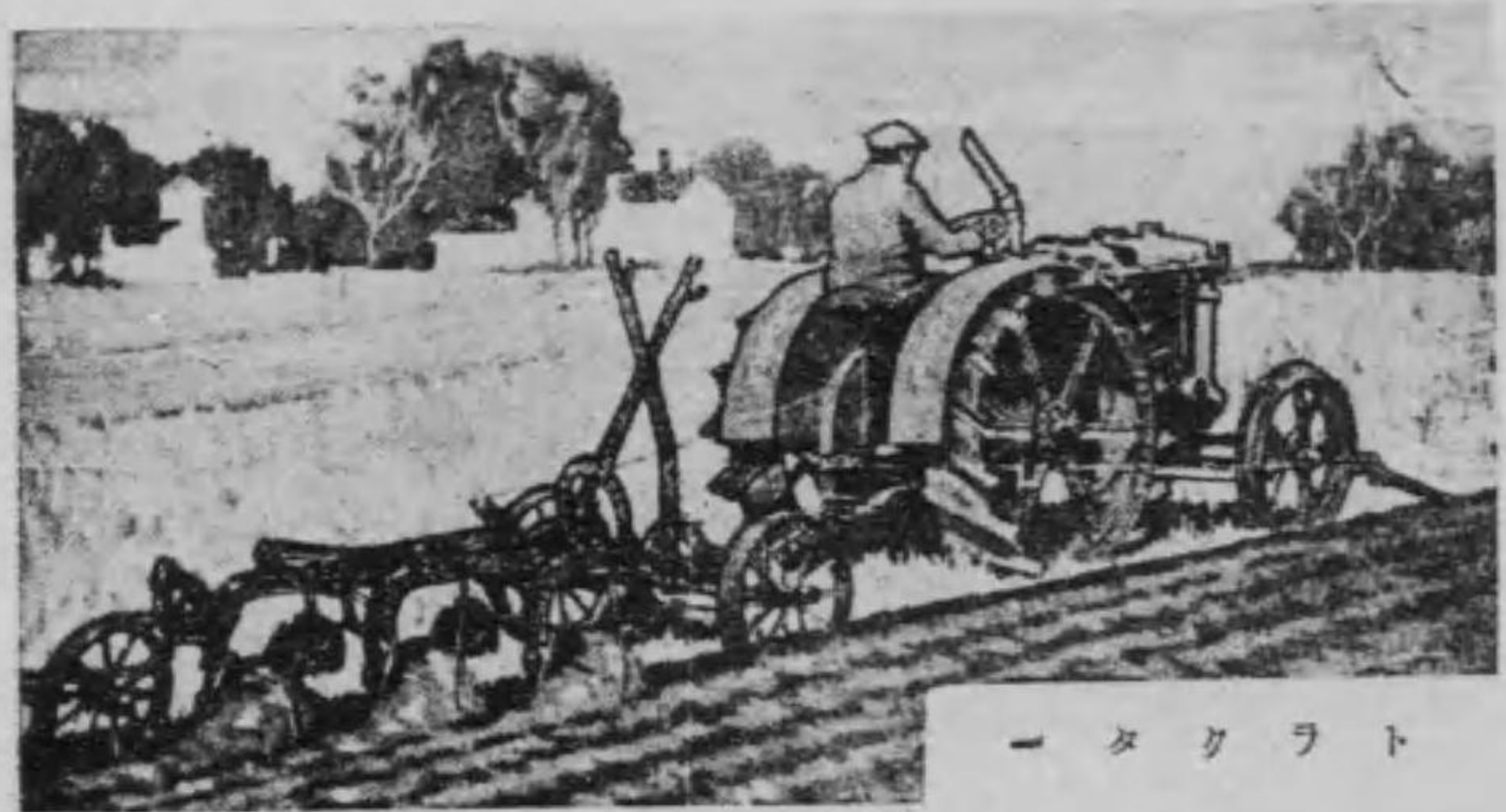
鯨の陸揚と製造

昆布からとる薬品

下に澤山積まれてゐるのは醜であつて、其の周圍の人々は繩で口腹を貰いたり、干場に運んだり、又は潰したりしてゐるのである。斯くて二・三日後に小刀で背部・腹部などに裂き分け、再び十四・五日間も木架に掛けて干乾にすると所謂身缺煉が出来るのである。

本島の中央は蝦夷山系と千島火山脈との會合點に當り甚だ高峻であるが、此處を分水嶺として四方に流走せる石狩・天鹽・十勝・常呂等の諸川は、何れも其の沿岸に肥沃なる沖積平野を展開して本島農業の主要生産地をつくつてゐる。而して近年内地移民の來住するもの漸く多きを加へ、既に約八十四萬町歩の耕地面積を有し、此處に生産する農産總額は凡そ一億五千五百萬圓に及び、農業は此の地方第一の産業となつてゐるが、尙ほ之を全島可耕地面積約二百六十萬町歩に比較されば未だ其の三分の一にも達してゐないのである。これ蓋し農業の發展は單に地形・地味の良否のみに關するものではなく、氣候の寒暖、交通の難易、經濟の事情等にも多く支配せられるからである。即ち本島の如きは可耕地面積實に關東平野の約三倍に相當する廣大なものであるけれども、其の位置北に偏在して而も寒流は沿岸を洗ひ、冬期の朔風は凛烈肌を裂くものがあり、ために以て全島悉く堅氷白雪に鎖さるるの感なしとせず、且つ交通状態も亦必ずしも良好でない上に、開墾着手後の年月また未だ五・六十年に過ぎないことなどの原因によつて耕地面積が甚だ少いのである。けれども之を明治二年開拓使設置當時の八百餘町歩に比ぶれば、ことに隔世的の進歩であり、又現在ではトラクター Tractor の如き大農耕作に使用する蒸氣機械をも利用するに至つたので、未墾の原

野が肥沃の平野と化する日も決して遠き將來ではなからうとしてゐる。斯くて今日に於



トラクター

出するに至つてゐる。

ける主要耕地は石狩・十勝・釧路の三平野及び上川盆地等で、一帯に地味豊饒・穀類・果實等の成育よく、殊に最近灌漑・排水事業の興起と農業組織の進歩とは米作可能の見込さへ立ち、現に各地方に於て盛んに行つてゐるが、中でも上川盆地は米作の中心地となつてゐる。更に此の地方の耕地區分の割合は普通五町歩を一單位とし、大なるものは自作農者にして十町歩・二十町歩・三十町歩或はそれ以上を耕作してゐるものもあるもので、内地の區劃よりもはるかに廣大であり、小作料なども内地に比しては甚だ低廉である。尙ほ開墾者に對しては三年乃至五年間租税を免除するが、其の他一般の農業者に對しても始終作物品種の適否試験・新種の輸入・馬耕法・器械耕法を指導する等、専ら移民の保護奨励と農業の發達進歩とに力を注いでゐる。随つて農業は次第に盛大を致し、農産物の種類と産額とは年々其の數を増し、米・燕麥・裸麥・馬鈴薯・大豆・小豆・玉蜀黍の他亞麻・菜果等をも産

## 米

米は上川盆地に多く産し、渡島・後志・膽振の諸國が立て次でゐる。大正三年までは全島の米作地僅に四萬四千町歩に過ぎなかつたが、最近では用水路次第に開けて水田十二萬町歩に達し、收穫高も百七十萬石に上り、本島も亦米産地として重要な地位を占めることとなつた。乍併其の一反歩收穫高は平均一石五斗内外で、之を内地の平均二石三斗前後に比較すれば餘程に收穫歩合が悪いので、當局並に當業者は目下水田の造成・收穫の促進等諸種の經營について極力研究し、殊に國家は水田三十萬町歩計畫を樹て、之が事業に對しては補助金を交附する等の奨励法を講じてゐるから、やがては我が國に於ける主要米作地となることであらう。

## 麥類

麥類の中では本島特産の燕麥が主なもので、裸麥之に次ぎ小麥・大麥なども出来る。燕麥は其の作付反別約十一萬町歩に及び二百五十萬石内外の收穫高があり、其の大部分は軍用馬匹の食糧に買ひ上げられてゐる。裸麥は作付反別凡そ三萬町歩・收穫高三十萬石前後で主として農家の食糧に供せられ、其の他小麥・大麥も相當の收穫があつて、小麥は製粉原料・醸造原料等に使用せられ、大麥は品質頗るよく有名な札幌ビールの原料とせられてゐる。是等の麥類は全島到る處に耕作されてゐるが、中でも石狩平野・十勝平野が其の中心産地である。

## 馬鈴薯

馬鈴薯も亦本島に於ける重要農産物で、此の地方の氣候・風土が其の生育に好適せるため、品質優れ産額多く(全國第一)既に一億五千萬貫を突發して益々盛大に趣かんとしてゐる。

## 豆類

此の馬鈴薯は農家の食糧に供せらるゝ他、澱粉製造・精酒製造の原料として多く消費されつゝある。

豆類の産額も亦我が國第一で、中でも大豆は年産百萬石を超え内地總産額の約五分の一を占め、小豆は七十萬石に近く、これまた全國第一である。其の他豌豆・菜豆等の收穫も多く、何れも我が國第一の産額を有してゐる。而して是等豆類の主産地は石狩平野・上川盆地・十勝平野・網走附近等である。

## 玉蜀黍

尙ほ此の地方には玉蜀黍の産出も多く、年産約四十二萬石に達し我が國總産額の半ばに近く、主として農家の食料・家畜の飼料に用ひられ、又酒精製造の原料にも供せられてゐる。

上川盆地・石狩平野等をもつて其の主産地とする。

## 亞麻

亞麻は上川盆地を中心として栽培せられ、最近の作付反別は八千町歩を超え、乾葉六百萬貫・種子三萬石を産し、大い將來を囑望されてゐる。亞麻の莖は主として札幌の帝國製麻會社工場に於て繊維とせられ、薄物の被服原料として頗る尊重され、種子は内地に移出して豆麻仁油に製造されてゐる。

## 苹果

苹果も亦本島農産物の重要なものゝ一つで、青森縣に次ぎ全國第二の位置を占め、年産實に百七十萬圓に及び、西南の半島部渡島・後志附近に多く栽培されてゐる。其の特長は品質が優良であり、香味が佳良である上に、長期の貯蔵に堪へる等の諸點で、隨つて輸出向に適してゐるから對露貿易の主要品の一つとなつてゐる。

参考補説

開墾の状

1、開墾の狀態 内地からの移民が新開地に入ると、先づ生え茂る荆棘を伐り開いて附近の樹木を以て草小屋を作り、此處に住居して毎年四月下旬から十一月下旬までは開墾と農耕との業に従事するのであるが、十二月から翌年の三、四月頃までは積雪のために到底それ等の業に當ることが出来ないで、其の間は伐木或は薬細工等の副業に従事するか、又は耕馬をもつてゐるものは木材の運搬などをするのである。斯くして勤儉蓄財の後始めて住居にも改造を加へて、家屋を木造とし或は倉庫を設け又は果樹其の他の樹木を栽植し、更に畑地を變じて水田にする等漸次集約的に施設經營して、其の利益を増進し生活を向上させるのである。地理書の挿繪は移住者が新開地の森林を伐り開いてゐる所である。

此の森林が伐採され耕地となり水田となると、其處に苗が移植されて次第に生長する。と同時に雜草も亦混生するので之を除去する必要がある。地理書の挿繪は今開墾された水田の除草を行つてゐるところを示したものである。乍併移住者が移住の當初から此處に至るまでの苦勞はまた決して一通りでないものである。

2、トラクター Tractor は牽引機とも譯すべきもので、従來用ひられてゐた牛馬等の動力の代りに蒸氣或は瓦斯の膨脹力を利用せる機械を用ひ、之によつて犁・把撈等の耕墾機を牽引するものである。場合によつては蒸氣力を用ふる蒸氣機關をいふこともあるが、今日一般に於ては瓦斯の膨脹力を利用せる發動機を備へたものを意味することが多い。即ち市街を疾走する自動車も瓦斯の膨脹力を利用せる發動機によるものであるが、農業用トラクターも殆んどこれと同様の構造を有するもので、唯其の自動車と異なる點は

トラクター

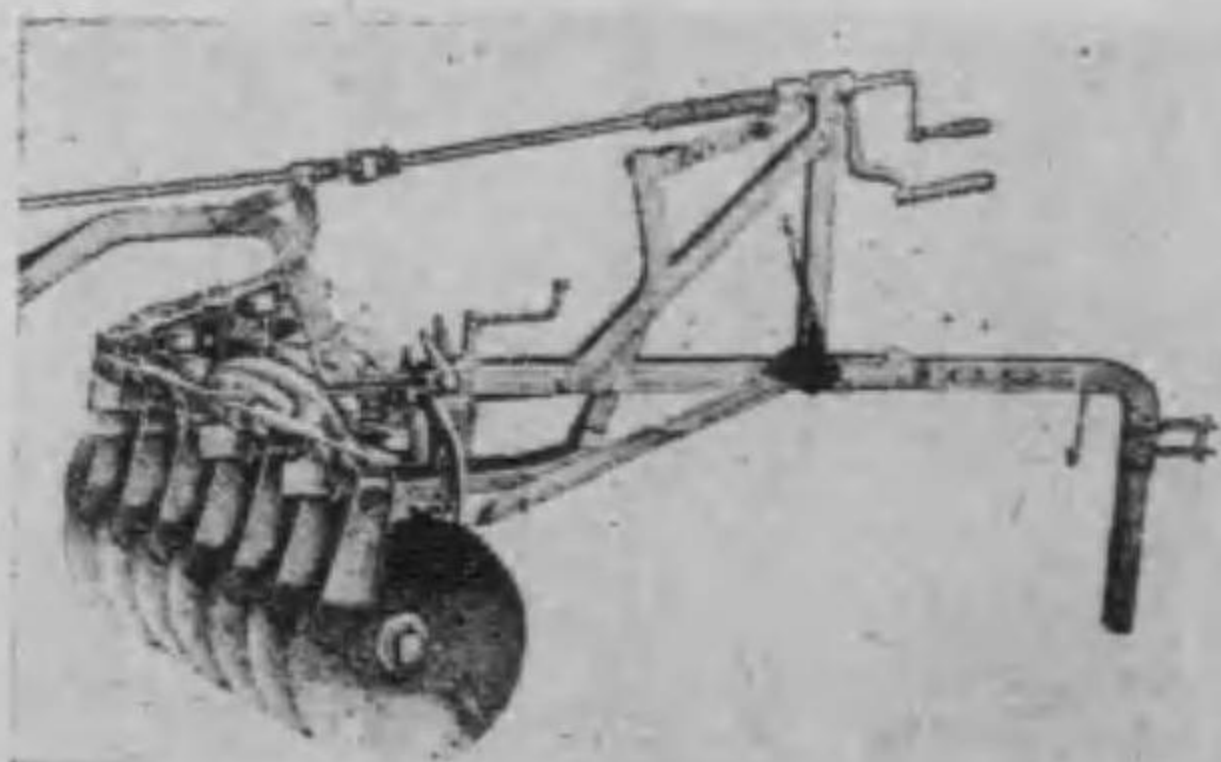
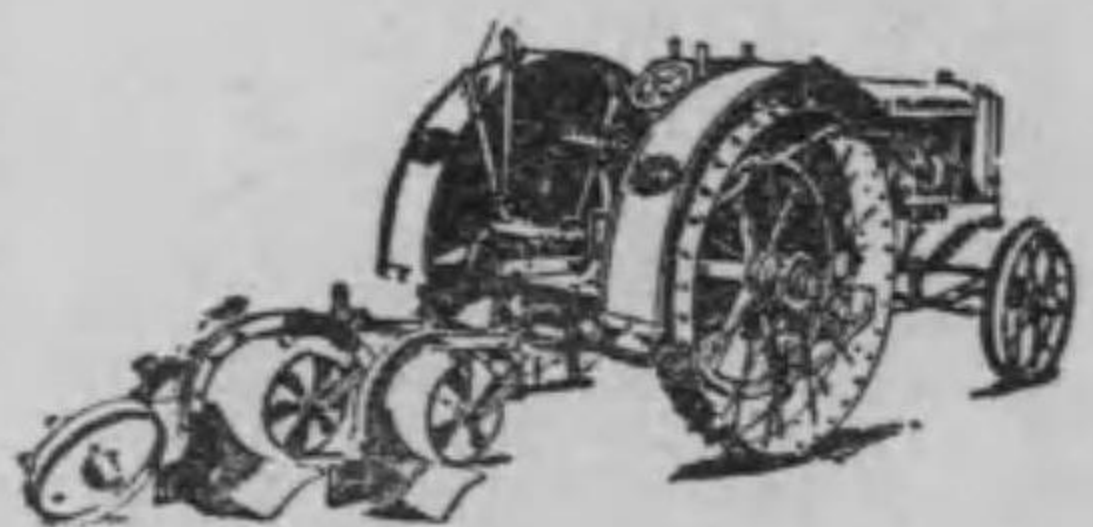
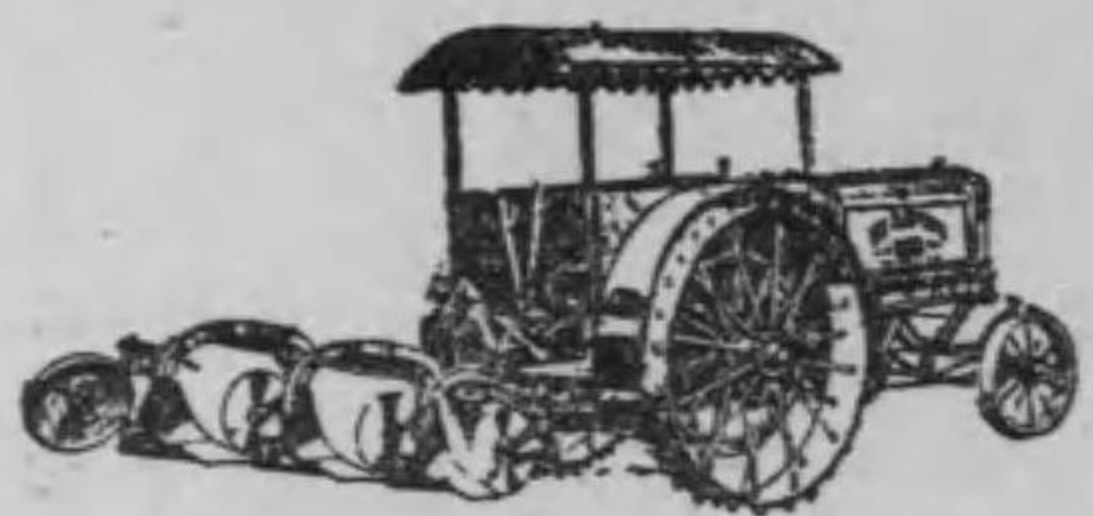


トラクター

彼の如く坦々たる大道を走るのでなく、開墾地にあつては高低起伏常ならず、或は既に農場の形を備へたる土地に於ても尙ほ且つ土壤膨軟にして抵抗少きため車は意の如く進むことが出来ないで、これは是等の點を考慮せる特殊の構造を有してゐるといふに過ぎないのである。例之上圖の如く高低を有する土地を自由に上下するために、陸軍用のタンクの如く無限軌道を装置するとか、又は膨軟なる土壤に於て車輪の空轉を防ぐために殊更

第一 北海道地方

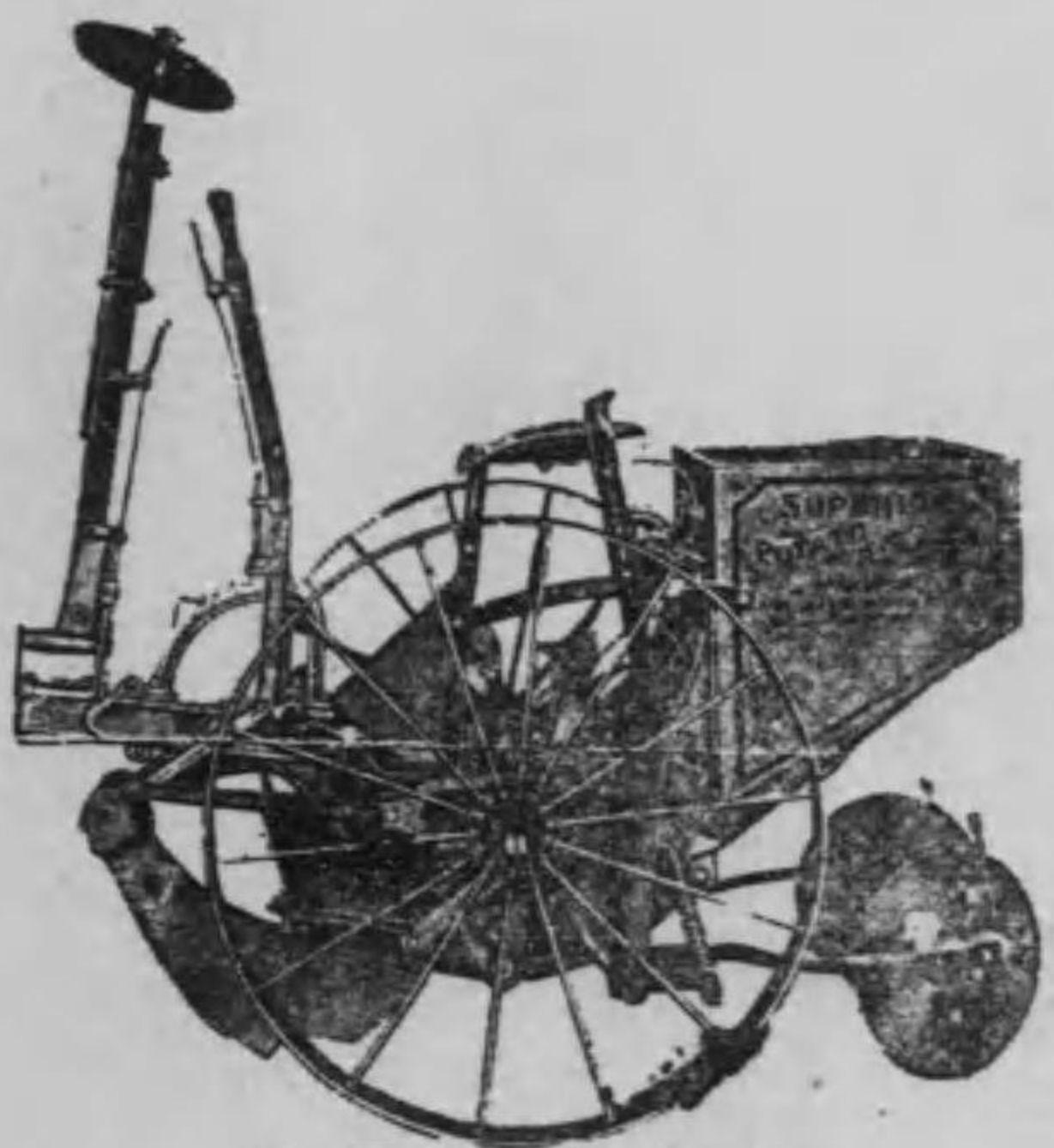
に摩擦を多くせんとして車の周圍に鐵片を突起せしめるといふ風にしてあるのがそれである。而して此の農業用トラクターには土地を扛起し土塊を碎き畦を作る等の農具を直接に装置せ



ウロハの部一

アラウの二種

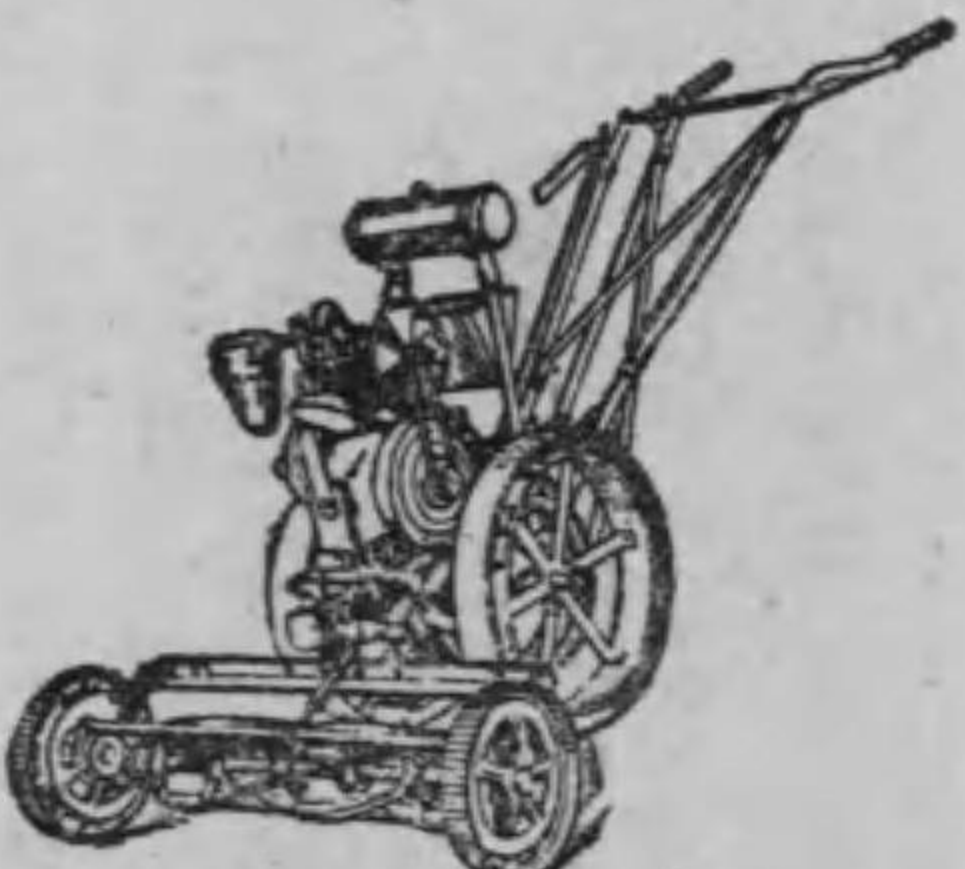
るものと、又は等を連結せるものがあるが、トラクターの操縦と農具の加減とは之を同一人にてもなすことが出来るし、別々に分擔して操縦することも出来るのである。要するに是等の器械を總稱してトラクターと呼ぶことが多い。そこで普通開墾に用ふるトラクターは二十四、五馬力の發動力を要し、豫め樹木



馬鈴薯播種機

を伐り根を取り除いた後、右上圖の如き深いプラウをもつて土地を扛起し、次に右下圖の如き把勞をもつて土塊を碎き或は土地を均すのであるが、何れも其の地中に入る深さを加減し得るやうに特殊のハンドル又は舵機をトラクターに装置してある。斯くて整地が終了後はトラクターに各種の播種機を附して種を蒔き、又收穫時にはそれに收穫機を附して刈り取るのである。上圖に示したものは播種機の一つである馬鈴薯播種機の一つで、此の機械の左方にトラクターを取り附けるのであることと言ふまでもない。

尙ほトラクターの極めて小型なものになると左圖の如く二、三馬力位のものもあつて、人が手で押して操縦することも出来るのであるが、これは傾斜の方向によつては殆んど用ふることが出来ないもので、我が國の農業用に適するやうになすためには幾多改良の餘地があるのであるが、北海道の如き大農耕法によるところは兎も角として、内地の如く特殊の農業組織及び氣候状態にある土地に於ては、寧ろ將來此の種の



小型ラトラクター

もの利用が有望であらうと思はれるのである。(本項は東京農科大學鈴木博士の御示教によるもので、挿圖も總べて先生が特に著者のために御惠送下さつたものである。年末筆こゝに附記して同先生の御厚志を感謝する次第である)

### 3、北海道の氣候

本島の氣温は一般に低く冬期は甚だ寒冷であるが、從來世人に即斷されてゐたやうに白雪皚々・寒威嚴烈到底人間の生活に堪えないといふが如き所ではない、毎年五月になれば花も咲き鳥も歌ひ、殊に夏季は氣温も比較的高く米作さへ可能である上に、朝夕は頗る清涼であるから健康にも適し、秋は山野に錦繡を織り自然の風色亦捨て難いものがある。故に案外愉快な生活を續けることが出来るのであるが、唯暖期よりも寒期が長いのでそれが誇張的に傳はれてゐるのである。左に札幌と旭川に於ける氣温(攝氏)と雨量とを示して置かう。

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	雨量(耗)
札幌	0.3	0.5	0.10	5.1	10.5	14.7	18.9	20.8	16.2	9.6	3.0	0.3	6.9	1101
旭川	0.9	0.3	0.3	3.1	10.0	15.3	19.2	20.4	14.5	7.4	0.8	0.2	5.2	1,004

農業指導  
者として  
外人招聘

豆類の取  
引

澱粉及び  
コーンチ  
ヌ

亞麻仁油  
と亞

4、農業指導者として外人招聘 當局が本島の農業勸奨に多大の注意と努力とを拂つてゐることは曾ても述べた通りであるが、特に宮尾長官が就任以來は本島開拓のため農事教育方面に頗る意を用ひられ、丁抹から二家族と北獨逸から二家族との農業生活者を招聘し、一定の土地と家屋とを與へ彼等の理想に従つて農業を行はしめ、其の文化的農業生活を我が農業者に實施指導せしめ、以て農事の改良を圖ることとしたのである。

5、豆類の取引 北海道産大豆・小豆の相場單位は百斤建で内地産のそれ等は一石建である。取引單位は依・表装は菰俵又は吠(百斤入)で、標準物は北海道産三等となつてゐる。北海道に於ける大豆・小豆の生産時期は九・十・十一月で、仕入時期及び販賣時期は何れも十・十一の兩月を主とする。(但し前記表装は將來ドンゴロス包となる傾向をもつてゐる)

6、澱粉及びコーンスターチ 澱粉は馬鈴薯からも出來れば玉蜀黍からも採れる。中でも特に玉蜀黍から取つた澱粉のことをコーンスターチと稱してゐる。さうして所謂澱粉の相場單位は百封度建で、取引單位は袋(俵ともいふ)、表装は麻袋(百斤入)となつてゐる。標準物は北海道産検査一等品(俗に検査と稱す)で、新物入荷は九月から始まり翌年の一月までが主である。コーンスターチの相場單位は百封度建、取引單位は仕入の場合に於ては米噸であるが、販賣の場合は袋(俵)が普通である。表装は二重麻袋入正味百四十封度となつてゐる。

7、亞麻と亞麻仁油 亞麻は大麻と同様に一年生植物で其の耕作範圍は頗る廣い。莖からは纖維をとり種子からは亞麻仁油を搾取するのであるが、其の纖維は大麻に比して稍々弱いが軟で光澤があり、且つ纖維

が甚だ細小であるから薄物の被服原料として尊重せられ専らリンネル織となり、上等品はレース製造の原料として貴重されてゐる。又纖維の殘屑は紡いで索繩に用ひ、襪襪は佳良な製紙原料となるので頗る有用な植物である。現今世界に於ける亞麻の主産地はロシアの西北部で、獨逸、白耳義、佛蘭西産のものは品質が優良なので知られてゐる。

亞麻仁油はペンキの混合剤に用ひられ、又印刷用インク其の他の工業用として需要が多いが、純粹なものでは假漆の製造に供せられ、殘滓は家畜の飼料や肥料に用ひられる。

亞麻糸は普通麻糸の取引と同様に行はれるもので、其の相場單位は八番手以上は百封度建・八番手以下は総建とする。取引單位は同上の一梱で、表装は輸出物と内地向とによつて相違があり、前者は麻布包の鐵帶(内容は糸の太さによつて一定せず)後者は莖包となつてゐる。標準物は賣行のよいものといふことで確定してはゐらないやうであるが、亞麻一等・大麻三十番手・細六十番手・大麻二十五番手・中太三十番手とが評判である。

麻糸の一番手とは長さ三百碼で目方一封度のものを標準にして、此の長さの二倍即六百碼で目方一封度のものを二番手といひ、次第に同一重量に對する糸の長さによつて定まり、九千碼で一封度あれば三十番手といふ風になるのである。

麻布の相場單位は一正建・幅九寸(〇、三四〇九米)長さ五丈三尺乃至五丈五尺(二〇・〇七五米乃至二〇、八三米)で、取引單位は梱(五十正入)、表装は莖包(一梱)と定められてゐる。標準物は多様であるが中でもリンネル千番一號・蜻蛉印一號・ダック一號等が名高い。而して其の生産時期は年中であるが、中で

亞麻仁油

其他の農

も七・八・九月及び十二・一・二月頃が最も多く、仕入時期は一・二・八月の三ヶ月が盛りである。亞麻仁油の相場單位及び取引單位は一箱建（一罐一斗二罐入）で、表装も亦同様、標準物は純正品といふことに一定し、生産時期は九・十月頃が中心で、仕入時期は收穫後三・四ヶ月間に出廻りが最も多い。

## 8. 其の他の農産物

北海道地方には前記の農産物の他に、南瓜・蘿蔔・甘藍・漬菜・牛蒡・葱・胡瓜等の蔬菜類も多く、何れも我が國第一の收量をもつてゐる。又菜種・薄荷の産出も少くなく菜種は天鹽川流域・石狩平野を主産地として收量約十二萬石に達し、鹿兒島・福岡の二縣とともに我が國屈指の産地であり、薄荷は北見、上川盆地を中心地として全國總産額の約二分の一を出し、藥劑用・工業用として年々益々其の需要を増すので將來大いに有望とせられてゐる。果實の中にも苹果の他梨・櫻桃等の産出が多いのである。尙ほ近時に至つては本島の各地とも百も合の栽培が盛んに行はれて年産八百萬箱に及び、内地の各地に向つて移出してゐる。價が低廉なものと品質が佳良なので次第に其の聲價を擧げつゝある。

北海道地方は氣候風土が牧畜に好適してゐるばかりでなく、到る處に廣大なる原野があり、清流溪泉其の間を徐々に流れて眞に牧畜經營上の自然的絶好地域をなしてゐるのみならず人口少く聚落未だ十分に發達せざるにより牧畜上の施設は無限度に之を行ふことが出來、加ふるに土地の開拓上家畜を要求することが大であり、尙ほ其の上牧草は勿論玉蜀黍・馬鈴薯の粕等の飼料も豊富にあるので、早くより各地に牧場を設け、既に明治初年の頃から種畜を海外に仰ぎ、其の施設經營の法も之を歐米に倣つてゐるので、牧畜の業は大いに進み産額も次第に増加して、夙に世人の注目する所となつてゐるのである。中でも十勝川・石狩川の

牧畜概説

馬

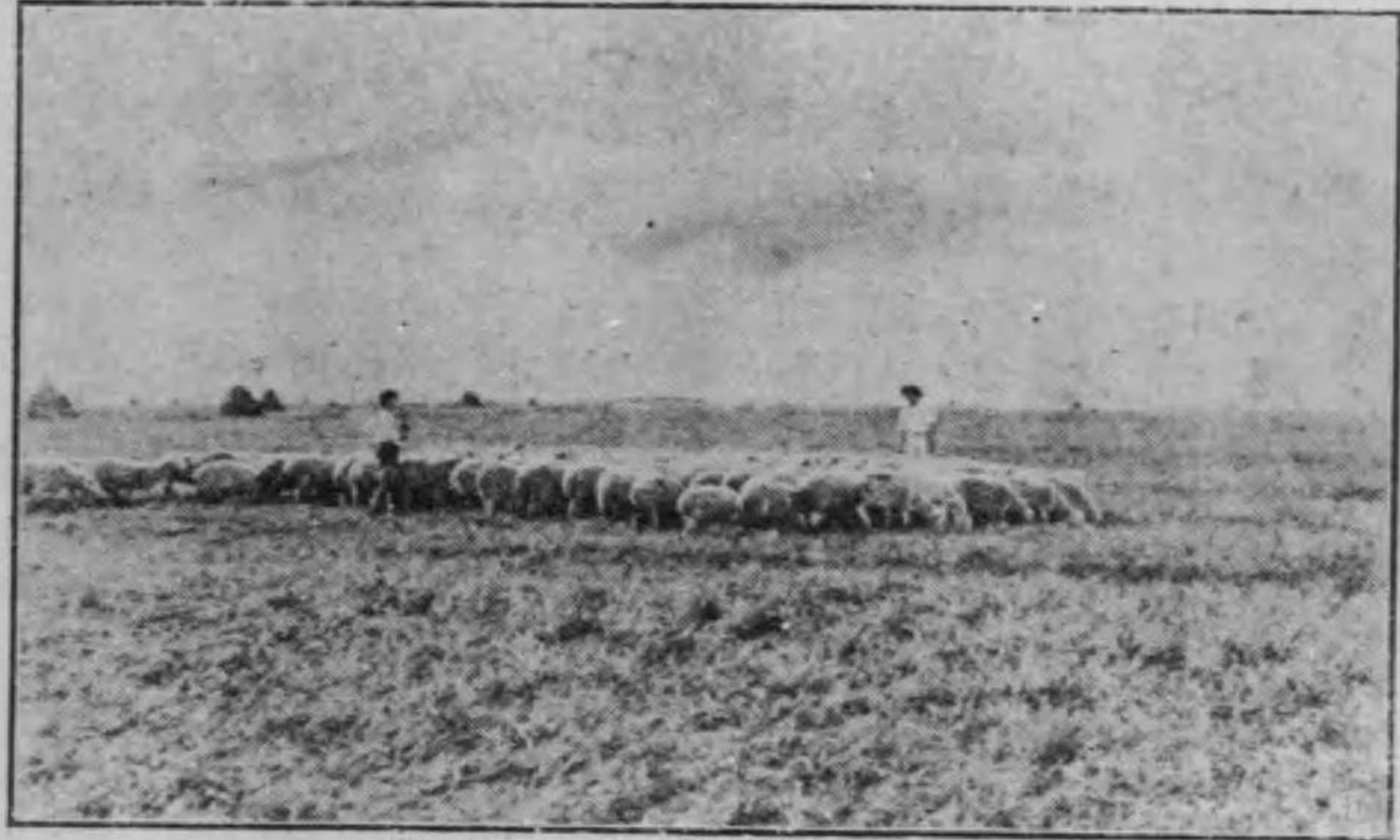
流域にある平地は雨が少く最もよく牧畜に適してゐるので其の中心地をなし、馬・牛・羊等の産出額が甚だ多い。

馬は本島の畜産中其の首位を占め、頭數二十萬四千を超えて全國第一、鹿兒島の十萬五千頭・岩手の九萬五千頭に比しては約二倍に當つてゐる。其の中十七萬七千頭まではトロッター・サラブレッド・ベルシユロン等によつて改良された雜種で、純粹の和種は二萬頭洋種は七千頭に過ぎない。蓋し本島に斯の如く馬の飼養が盛んなのは前記各種の原因によることは勿論であるが、中でも開墾動力に馬匹を使用することが多いのと、當局の保護獎勵其の宜しきを得てゐることゝが與つて大いに力がある。随つて本島の東海岸地方一帯は往くとして良馬の産地ならざるはないが、中でも日高をもつて其の尤としなければならぬ。何故なれば即ち此處には創立の舊きと規模の廣大とによつて著れてゐる新冠御料牧場があり、良馬生産の獎勵機關として有名なる靜内産牛馬組合驛場があり、又近年に至つては浦河郡西舎村に日高種馬牧場が設置されて益々良馬匹を多産するやうになつてゐるからである。而して之に次ぐものは石狩・十勝・釧路・膽振等で、石狩には札幌の南方二里ばかりのところ眞駒内に、本島畜産の原動機關たる北海道種畜場があり、此處では馬の外、牛・羊・豚・家禽の飼養・蕃殖並に配布等をなし、兼ねて酪業をも行つて居り、又十勝には十勝種馬牧場、釧路には釧路及び川上には川上の軍馬補充部支部があり、膽振には北海道種馬所があり尙ほ其の他到處に民有牧場があつて相共に良馬の牧養に努力してゐるのである。

牛

地理の學習指導

牛は其の頭數はるかに馬に及ばないが、近時牛酪・乾酪・煉乳等の製造の發達に伴つて、次第に飼養頭數を増し、最近では三萬頭に近い數に上つてゐる。これも亦馬と同じく純粹の日本牛は少くて、ホルスタインやエーシャー又は短角などの雜種が其の大部分を占め、主として石狩・渡島・釧路等の牧場で生れたものが多い。殊に札幌には北海道帝國大學附屬牧場があり、市の東南約二里のところには月寒種畜牧場があつて、年々多數の良牛を産出してゐる。中でも月寒牧場は我が國二大種畜牧場の一つであつて自然の地形を利用し、牧草を始め種々の飼料を耕作して牛羊の蕃殖・成育・改良を圖り、且つ製酪の業をも營み其の製品の多くは之を東京市に送つてゐる。皇室御使用の牛乳を納付してゐる東京市外濫谷の牧場は實に此の月寒牧場の分場である。



月寒農林省種羊場

羊

養の好適地として先づ本島を選び、大正八年以來空知郡瀧川町の瀧川牧場及び札幌郡豊平

町の前記月寒牧場を種羊場と定め、此の二箇處を中心として本島一圓に緬羊飼養の獎勵普及を圖らうと計劃してゐるものであるから、これまた逐年盛大に趣きやがては所期の目的たる羊毛自給の實を擧ぐるに近き日も來ることだらうと思はれるのである。

此の地方は礦物の埋藏も亦豊富で、石炭・硫黄・金・鐵等を多く産出する。就中石狩炭田・釧路炭田を主産地とする石炭は年産略々五百萬噸に近く、福岡縣に次で我が國第二位の産額を有し、また本島産物中の重要な地位を占めてゐる。石炭に次ぐものは處々の火山から採掘される硫黄で、年産二萬噸に達し、全國總産額の凡そ五割を産出してゐる。

石炭採掘の中心地たる石狩炭田は石狩川の支流空知川から南方夕張川に至る南北二十里・東西約五里の地方に分布せる炭田の總稱で、其の主な炭坑には北部に空知・美唄・上歌志内・芦別・文珠・砂川・中部に幌内・幾春別・奔別・南部に夕張新夕張・登川・眞谷地などがある。中でも空知炭田は最も舊く既に安政年間の發見にかゝり、明治七年には米人ライマン氏また之を實地に踏査し、其の後若干の變遷を経て明治二十三年以後は北海道炭礦會社の手に歸し、爾來採掘法の改良・鐵道の敷設等専ら事業の擴張に努めた結果次第に隆昌を致し、以て今日に至つたのである。而も本炭田の石炭は發焔粘結性であつて、石炭瓦斯製造・骸炭原料に最もよく適合してゐるので、夙に聲價があがつてゐる。また夕張炭田もライマン氏の實地踏査報告以來世人の目をひき、明治二十二年からは北海道炭礦會社の有に歸し、着々事業の發展を見せ、現在の隆盛を致したのであるが、本炭田の石炭も空知炭と同様に瓦斯や骸炭製造の原

礦業概説

石炭

第一 北海道地方



料として汎く市場に推賞されてゐる。而して是等石狩大炭田から産出する石炭の多くは小樽・室蘭の二港より、京濱・阪神地方及び香港、海峽植民地、布哇、露領亞細亞等の内外の各地へ積出されてゐる。釧路炭田も亦炭層に富み別保第一・第二等の炭坑があつて盛んに石炭を採掘し相當の成績をあげてゐるが、今のところ其の産額は到底石狩炭田の比ではない。

硫黄は千島火山脈と那須火山脈とが相交錯する半島部の火山附近に多く、後志の奥尻・釣懸及び岩雄登・膽振の幌別・渡島の鹿部等が其の主産地であつて、近年多少産額減少の傾向があるが、尙ほよく約二萬噸を出して全國總産額の二分の一を占め、我が國をして北米合衆國・伊太利とともに世界三大硫黄産國たらしめ、毎年印度・濠洲等に多額の輸出をなしてゐる。

金の主要鑛山は北見の國紋別の鴻之舞鑛山と、後志國岩内の國富鑛山とで、之に全島各地に亘つて産出する砂金を合すれば其の産額約九十二萬圓に上り、本島鑛産物中硫黄に次ぐものとなつてゐる。

鐵は室蘭市の西方約十二里のところにある虻田鑛山及び其の附近から産出するもので、明治三十一年の發見にかゝり同三十八年より事業を開始したものであるが、鑛石(褐鐵鑛)に含鐵分甚だ多く、次第に發達して現在は我が國內地に於ける鐵の産出額約二十萬佛噸の略々六割に達する盛況を呈してゐる。

參考補説

1、石炭の取引と種類及び用途 石炭についての詳細なことは本書前卷第五用に述べたことであるが

硫黄

金

鐵

石炭の取引と種類及び用途

硫黄の精製と用途

ら、こゝには其の取引の一斑のみを掲げることとする。石炭の相場單位及び取引單位は噸建又は一萬斤建で、表装はバラ積、標準物は關西に於ては九州塊炭中・九州切込炭中・關東に於ては磐城塊炭中・磐城粉炭中、北海道切込炭中である。石炭の學問上の種類は其の主要成分たる酸素含有量の多寡によつて、無烟炭・黑炭・褐炭・泥炭等に分け、無烟炭(Anthracite)は炭素含有量九十パーセント以上、黑炭(Black Coal)は七十五パーセント以上、褐炭(Brown Coal)は六十パーセント以上、泥炭(Turf)はそれ以下のものとするが、商品としての石炭は普通黑炭を意味することが多く、其の中を更に塊の大小・品質・炭坑別等によつて區別してあるのである。随つて上記標準物のところに掲げた塊炭・粉炭・切込炭など、いふのは、取引上に於てのみ用ひられる塊の大小を標準とした石炭の種類で、決して學問上の分類ではないのである。そこで所謂塊炭は硝子・鉛・鐵の製造等總て高熱を要するものに使用され、粉炭は紡績其の他纖維工業・發電所等の動力源として、又はコークス・瓦斯の原料として用ひられ、切込炭は汽船・汽車等に用ひられることが多いのである。

2、硫黄の精製と用途

鑛山から採掘したまゝの硫黄即ち自然硫黄は多くの不純物を含有してゐるものであるから、之を各種の工業用原料とするためには精製せねばならぬ必要が生じて來るのであるが、其のためには先づ自然硫黄を溶解したものを濾過して雜物を除去し、之を鐵製レトルトに入れて蒸溜するのである。斯くて蒸溜して得たものは温度の差異によつて或は冷却し凝結せしめて微細なる結晶末即ち硫黄華となし、或は沸騰せしめて液狀・棒狀・護膜狀とするのである。而して此の硫黄の用途は頗る廣く、硫酸・火藥の製造原料に用ひられることは言ふまでもなく、醫藥・漂白劑にも供せられ、又護膜の製造にも使用せら

れる等、今日の化學工業上には缺くべからざる必要品である。(附記、鐵・金等については本書前卷五用の參照を乞ふ)

本島に於ける所謂開拓は自然林の征服を意味するものであるから、此の事業の進歩發達に隨伴して森林面積の次第に減少せることは當然であるが、尙ほ且つ約四百七十四萬町歩の面積を有して内地森林總面積の凡そ二割五分を占め、千古斧鉞の入らざる原生林が多く、殊に北見、石狩、十勝、天鹽の境域の如きは老樹喬木山を蔽ひ谷を埋めて壯大言筆を絶する林相を展開してゐる。而も開拓當初にあつては交通の不便により林木の處理に苦しみ、林業としては甚だ不振の状態であつたが、開墾事業の進歩に伴ふ交通機關の發達、木材需要の増大は著しく斯業の發展を促し、面積の減少に逆比して産額は益々多きを加へて來た。乍併斯の如き状態が其の儘に繼續したならば幾年かの後には流石の大森林も或は絶滅の時期を招來するであらうが、開拓の事業は一方に於て耕地の増加を圖るとともに他方に於ては林地の整理をも行つて、更に有用樹の栽植に努めて行くものであるから、之によつていよゝゝ林地の經濟的價値を高めることが出來、永遠に我が國の林木の一大寶庫たらしめ得るのである。

津輕海峽を境界とせるブラツキストーン線によつて區劃されてゐるために、本島の樹木には本州島のそれと相異なるものが多く、蝦夷松、榎松等の針葉樹及び桂、檜、山毛榉、栗等の闊葉樹が繁茂して到る處に廣大なる自然林を見せてゐるが、中でも蝦夷松、榎松は本島森林面積の大半を占め、其の材量が頗る豊富である。けれども是等の樹木は氣候の關係上其の材質が比較的堅牢でないので、主として角材、丸太材・製紙原料、燐寸製軸原料・鐵道枕木等に使用せられ、其の他は薪炭材料に供せられてゐる。隨つて製材工場の數は大小數十に達し、盛んに前記の諸木材を製造し、小樽を中心として釧路、函館、室蘭等から内地の各府縣は勿論、遠く朝鮮、支那及び歐米各國へも積出してゐる。就中角材・丸太材・板類・鐵道枕木・造船材料等の大規模な製材工場は三井物産會社の砂川工場・野付牛工場・小樽木材株式會社の小樽並に北見工場等で、製紙原料たる丸太は主として苫小牧にある王子製紙株式會社の工場、池田にある富士パルプ株式會社の工場等で之をパルプに製造し、又内地へも移出してゐる。燐寸の製軸原料たる丸太も亦網走附近を中心として本島内各地の製軸工場で軸木に製造し、更に内地殊に阪神地方へ多く移出してゐる。而して之が原料となる木材は主として、ドロノキ・シ



松 林

ナノキ等である。鐵道の枕木は一應製材工場に送つて其處で枕木とするものもあるが、山元即ち伐採場から直ちに枕木として送り出すものも少くない。斯くて本島森林の大部分

分は國有林で、御料林之につき、大學演習林、其の他の官有林等がまた之に次いでゐる。

参考補説

1、蝦夷松 は松杉科に屬する常緑樹で寒地に自生し、幹は十丈より十四五丈にも伸び、樹皮は黒褐色に  
稍灰白色を帯び鱗片状をなして脱落し易い。葉は長さ七・八分幅一分位で其の先端が尖り、上面は暗綠色  
を帯び下面は灰白色を呈し中に二條の線が通つてゐる。材は白色に稍黄色を含んだもので肌理少く柔軟で  
あるが、弾力性を有して脂氣多く水濕に堪へるので、建築材料に用ひられる他船舶器具、製紙原料等にも  
供せられる。其の果實は長さ約二寸・直径六・七分ばかりの長楕圓のものである。

2、楡松 は松と同屬の常緑樹で蝦夷松に混生するが、蝦夷松よりも一層陰地を好み、樹皮は灰青色で裂け  
目なく、其の細枝には短い剛毛が密生してゐるのが特徴である。葉は長さ一寸乃至一寸五・六分、幅六・七  
厘で、上面は暗綠色、下面は灰白色を帯び、材質、効用等は殆んど蝦夷松とかはりがない。

3、北海道材の取引と木材の才積 北海道産木材の相場單位及び取引單位はともに百石建で、表装は  
なく標準物は松丸太(中丸太)、栓角となつてゐる。生産時期は大抵九月から二月頃までに伐り出し、四月  
から十月頃までに船で積出すのであるが、之が仕入時期は二・三月頃から九・十月頃までが忙しく、十月末  
頃から次第に閑散となる。さて木材取引の一般に用ひられる相場單位といふものにはいろいろあつて、内  
地丸太及び押角材は尺×一本(小口一尺平方角・長さ六尺にて約百才に當る)とし、挽角材は才(小口一寸平  
方角長さ十二尺)とすることが普通である。但し北海道材に限り百石建(小口一尺平方角・長十尺を一石と  
いひ、一石は約七・二五〇才に當る)とし、小割は一本(寸法種々あり)とする。今是等木材の才積算法を

左に示して置かう。

角材	才	積 = $\frac{\text{幅} \times \text{厚} \times \text{長}}{12 \text{尺}}$	石	積 = $\frac{\text{幅} \times \text{厚} \times \text{長}}{10 \text{尺}}$
丸太材	才	積 = $\frac{\text{末口直径}^2 \times \text{長}}{12 \text{尺}}$	石	積 = $\frac{\text{末口直径}^2 \times \text{長}}{10 \text{尺}}$

又は石積 =  $\frac{\text{中央直径} \times \text{長} \times (\text{半徑}^2 \times 3.1416)}{10 \text{尺}}$

北海道地方には廣大なる平野あり森林あり海洋があつて、天産頗る豊な上に石炭・水力電氣  
等の動力源にも富み、工業發達の條件を具備してゐるのであるが、惜しいかな一つ交通の不  
便は尙ほ一つ投資と努力との供給を十分ならしめず、ためにもつて或る種の特種工業以外  
のものは未だ幼稚の域を免れず、随つて豊富なる天産物も原料のまゝか又は半製品として  
輸移出されてゐるものが多いのである。乍併時代の要求と拓植の進展とは近時次第に本  
島の工業を發達せしめて、工産總額は一億五千萬圓を超え、農業と相並んで本島の主要産業  
となるに至つてゐる。今其の主なるものを掲げて見れば、林産物を原料とするバルブ及び  
洋紙の製造、燐寸の軸木、農産物を原料とするビールの醸造、麻糸の製造、並に各種の製粉、鑛産  
物を原料とする製鋼、諸機械、其の他水産物を原料とする罐詰、魚油の製造等がある。

バルブの製造は本島の東南部に盛んであつて、獨立的にバルブのみを製造してゐるとこ  
ろは富士バルブ株式會社の池田工場だけであるが、其の他多くの製紙會社に於てもこれを

洋紙

製造し、産額七百四十萬圓に近くなつてゐる。又、最近では燕麥殻を原料としてバルブを製造する方法が發明せられ、札幌に北海道燕麥製紙株式會社工場といふものも設立せられてゐる。(バルブの製法、取引等については本書前巻尋五用参照)

木燐寸の軸

洋紙の大部分は苫小牧にある王子製紙株式會社の工場と池田にある富士製紙株式會社の工場とで製造され、其の産額は二千四百萬圓に及び、静岡、東京とも、我が國に於ける洋紙の三大生産地の一つとなり、本島工産物中の第一位を占めてゐる。而して其の製品の多くは印刷用紙、更紙、包装紙等である。

ビール

燐寸の軸、木は網走支廳管内で製造されるものが最も多く、全産額の過半に當り、釧路、旭川が之に次ぎ、製品の大部分は神戸、大阪等の燐寸製造會社へ直接に販賣してゐる。(燐寸の製造、取引については本書前記尋五用の参照を乞ふ)

麻糸

ビールは札幌にある大日本麥酒株式會社で醸造されるもので、有名なる札幌ビールがそれである。札幌ビールの醸造は我が國の麥酒界に於ては其の起源が頗る舊く、明治九年に創設された東京の櫻田ビール會社に次いで、明治二十年九月に現在の會社となつたものである。此のビールは香味ともによく、内外人の嗜好に適してゐるものであるから、逐年其の需要を増加し、最近では年産約六萬石、六百萬圓の産出高を見せて、内地は勿論、露領樺太方面へも輸出してゐる。尙ほ本島は氣候の寒冷を防ぐために自ら酒類を需要するものが多く、こゝに勢ひ清酒の醸造も盛んに行はれて、二千萬圓を超える産出額を示してゐる。

製粉

麻糸は島内各地で收穫される亞麻を以て、日本製麻帝國製麻、東洋製線、日本麻糸、北海道亞麻工業會社等に屬する全島内約三十五の工場で製線せられ、更にそれが帝國製麻會社、札幌工場に集められて、此處で麻糸、麻織物等に製造されるのであるが、其の麻糸は帷子糸、蚊帳糸、疊縁糸、花筵經糸、漁網用捻糸、靴及び帆、其の他の縫糸に用ひられ、織物は軍艦商船用帆布、雨覆ズツク、生晒服地、各種リンネル等を使用されてゐる。最近では亞麻協會なるものを組織して生産者並に同業者間の相互連絡を圖つてゐるので、生産にも販賣にも大いに便利を増し、上記の諸製品は道内の需要を充たし、内地の各府縣に移出する他、又陸海軍々需品としても供給してゐるのである。其の産額は製線に於て約五百萬圓、麻糸紡績に於て凡そ三百四十萬圓、織物に於て二百二十萬圓といふ状態である。

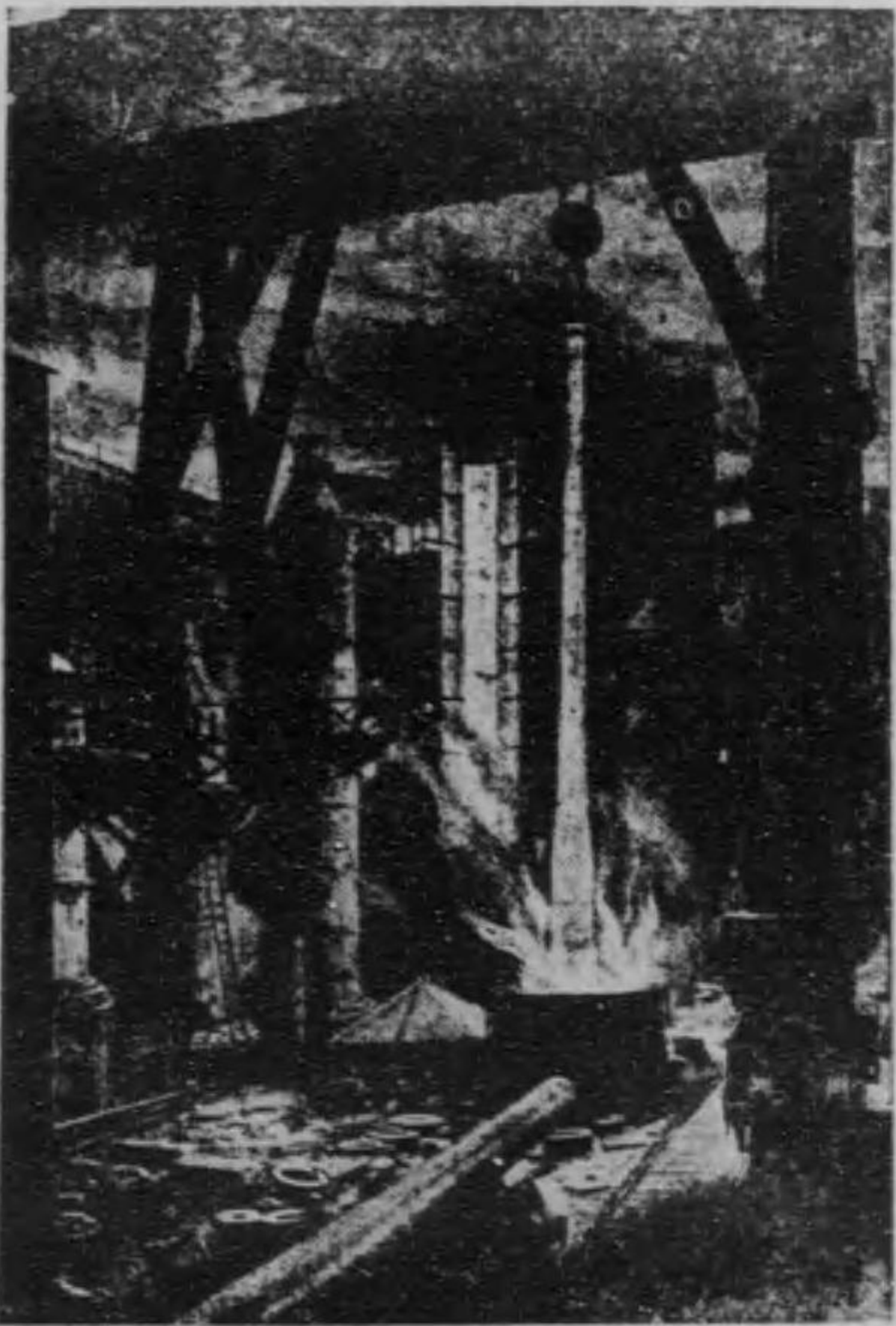
諸製鋼及  
機械及び

製粉は澱粉、麥粉等が主なるもので、澱粉は馬鈴薯から製造し、近年著しく其の産額を減少したが、尙ほ四千四百五十萬斤、三百七十五萬圓の生産高を有して、我が國第一位に居り、中央市場に其の聲價が高いばかりでなく、海外にも輸出してゐる。膽振國山越郡を主産地とし、石狩國宮知郡之に次ぎ、其の他虻田郡膽振、上川盆地等も名高い澱粉の産地である。又、麥粉は札幌製粉會社の製出が殆んど之を代表するもので、年産額百五十萬圓に達し、またもつて本島工産物中に重きをなしてゐる。

第一 北海道地方

製鋼及び諸機械は空蘭にある日本製鋼所から出るもので、同製鋼所は北海道炭鑛汽船株式會社と英國のアイムストロング會社及びヴッキッカー會社との合資にかゝり、明治四十年

十一月に其の創立を見、同四十四年一月から營業を開始したもので、資本金三千萬圓・工場用地百二十萬六千坪・建坪四萬八千坪に及び、八幡と相並ぶ東洋屈指の一大製鐵工場である。場内には製鐵・鍛冶・模型・鑄造・鍛鍊・燒入・機械工場等があつて、何れも大規模の設備を有し、盛んに大砲其の他の兵燹砲架、各種彈丸・鑄鋼物船尾骨・船首骨・推進軸・タービン用材料・蒸氣機關・



製鋼所の内の一(大砲の機入れ)

合併したので、一層其の事業を盛大ならしめてゐるのである。

水産製造物については既に水産業の箇所でも述べたやうに乾物・燻製・鹽漬・肥料等の半製品その他に、罐詰・魚油等の完製品がある。罐詰は河海に多い鮭・鯡・蟹・海扇等を原料として之を

水産製造物

洋紙の類と取引

製造し、其の産額五百萬圓に近く、魚油は鯨・鱈等の魚族から搾取する鯨油・鱈油・鱈油等が主なものである。

参考補説

1、洋紙の種類と取引 洋紙には所謂印刷用紙の外に模造紙・包装紙・硫酸紙・ライスペーパー・ポストカード・アイボリー・アートペーパー・帳簿紙・更紙等がある。北海道地方で製出するものは此の中の印刷用紙と更紙と包装紙とが大部分を占めてゐるから、こゝには其の三種の取引のみを述べることにする。

印刷用紙の相場単位は一封度建て、取引単位は連、但し海外との取引は噸と定められ、例之何封度のもの何連又は何噸といふのである。包装は板締めにして四百五十封度から六百封度までで、標準物は白羊印・旗印・鷲印等で、此の紙を上質・中質・下質にわけてあるが、其の大きさは大體左の通りである。

四六判 31" x 43" 菊版 52" x 37" を主とし、四六判は四十封度位から百二十封度位まで、菊判も亦これと同様である。

更紙は相場単位・取引単位・表装ともに印刷用紙と殆んど同じく、標準物は四六判三十七封度或は四十三封度のもので、時には雜記帳として四六判五十封度前後のものを抄造することもある。

包装紙の相場単位は一封度建て、取引単位は内地は連、海外は噸である。但し一連は約五百枚で、包装は板締めにし一個四百五十封度より六百封度位までを普通とし、四十八封度物なれば十連入、九十封度物なれば五連或は六連を一個としてある。標準物はハトロン判と稱する 36" x 56" のもので一連四十八封度のものであるが、此の紙は時々四六倍判又は他の寸法のものも製造することがあるが、通常はハトロン判で

更紙  
包装紙

印刷用紙

王子製紙株式會社

四十八封度から百二・三十封度位までのものを、五封度乃至十封度邊に製造し販賣することが多い。(洋紙の製法については本書前巻卷五用を参照せられたし)

## 2. 王子製紙株式會社

同社は明治五年の創立にかゝる我が國最初の製紙會社で、當時大藏省三等出仕を勤めてゐた澁澤榮一氏の勸奨計畫になつたものである。即ち創立の當初は資本金十五萬圓の製紙會社とし、明治七年九月をもつて東京府下王子村に工場建築の工事を起し、機械技師英人フランチェスマン・製紙技師米人トーマスポットムリー兩氏を聘し、同年十二月資本金を二十五萬圓に増加し、翌八年六月工事の完成するや、同年七月から業務を開始したのである。けれども其の頃は尙ほ新聞・雜誌等が極めて幼稚で洋紙の需要は甚だ少く、一時製品の販賣に非常に困難を極めたこともあつたが、幸に爾後文運の隆昌は出版界を活氣づけ、ひいては洋紙の需要を激増せしめて、明治十八年頃よりは次第に供給の不足を訴ふるに至り、遂に明治二十年三月には資本金を五十萬圓に増加して、静岡縣周智郡氣多村に分工場を設け、木材原料の製紙を起して需要に應ずる供給を圖ることとしたのであつた。而してそれが現在の如く王子製紙株式會社と稱するやうになつたのは、明治二十六年に於ける商法實施以來のことである。ところが其の後日清・日露の兩役を國運進展の二大區劃期として、洋紙の需要は益多大となり、こゝに同會も亦漸次資本金を増加して明治二十九年二月には百十萬圓、三十年四月には百六十五萬圓、三十二年十一月には二百萬圓として、静岡縣磐田郡佐久間村を本據とし、樅・樺等の製紙原料に豊富な長野縣下伊那郡和田村外四箇村の共有林を買収し、さては進んで新聞用紙の製造にも當ることとした。次いで明治三十九年には資本金を六百萬圓として、四十三年九月には北海道苫小牧に一大工場を建設し、附近の廣大なる森林に製紙原料

苫小牧工場

を求め、支笏湖の水に電力量を仰ぎ、諸般の施設を完備せしめて生産能率を高め、爾來大泊工場・大阪工場・十條(東京府下王子町十條)・豊原工場・朝鮮工場(平安北海道義州郡)・野田寒工場(樺太野田寒村)等の工場を或は開き或は併合して、現在では資本金五千萬圓・東洋無比の大製紙會社となり、全國新聞用紙の約七割を供給するに至り斯界の覇を確實に掌握してゐる。随つて同社の貢獻も亦頗る多大で、先づ洋紙の製造によつて我が國の文運を盛んにし、外國よりの洋紙輸入を防遏し、更に化學的パルプ工業を起してこれまた製紙原料の輸入を防止せる等、數ふべき幾多のものがあるのである。

苫小牧工場は王子製紙株式會社の所屬で、明治四十三年の創設にかゝり、工場用地七十二萬三千五百四坪・鐵道敷設地四十七萬二千七百二十九坪・其の他の附屬用地四百七十七萬四千九百十四坪を有し、抄紙機械百四十二吋フォドリニア式四臺・百吋同上二臺・九十八吋同上二臺・七十八吋同上二臺を備へ付け、更に碎木機、三十四臺・蒸解罐五臺を据ゑ、原動力二萬一千馬力を用ひて製紙工業を營み、且つこれに要する原料・材料等の運搬にのみ専用する輕便鐵道の延長だけでも五十哩に及んでゐるといふのであるから、如何に其の規模が宏大であるかを窺ふことが出来る。此處で製造される洋紙は前にも述べたやうに新聞用紙・雜記帳用紙・更裝紙・包用紙等が主なるものであるが、中でも新聞用紙は我が國新聞用紙の約四割を占めてゐることである。地理書の挿繪は本工場の一部を示したもので、圖中に高く積み上げものはパルプ製造用の木材である。

## 3. ビールの製法と我が國の麥酒界

ビールは大麥を水に浸して後麥芽をつくり、之を炒つて白で搗き水を入れた桶の中に移して麥の煮汁をつくり、之にホップを加へて再び煮、其の冷却するのを待つて更

酒が製ビ  
界國法1  
のとル  
麥我の

地理の學習指導

に酵母を入れ、低温で醱酵せしめた後之を密閉して冷處に保存して置く時は、次第に透明褐色な液となつて麥酒を得られるのである。札幌工場で製造してゐるビールは札幌近郊の農村三十餘箇村に出来るアメリカ種・ドイツ種の大麥を原料とし、ドイツ式醱造法によつて製造してゐる。

大日本麥株式會社といふのは本社を東京府下目黒に置き、當のサツポロビールを中心にもとの日本麥株式會社のエビスビール、大阪麥酒株式會社のアサヒビール等が合同して組織せるもので、現在我が國麥酒界の大部分を併合するものであるが、尙ほ他にユニオンビールなるものがあつて、陰陽両面より來る合同派の各種の交渉手段を拒絶し依然として之に参加せず、年來の健實なる地盤の上に立つて暗々に競争の姿を持續してゐるのである。

札幌工場は明治九年の創設になり、北海道開拓事業の一つとして原料たる大麥とホップとを栽培し、官立麥酒醸造所を起したのに始まるものであるから、國家的經濟の見地に立ち原料の自給自足を圖り外國産麥酒の輸入を防遏することを目的として起つたものであるが、其の後明治二十一年に至つて濫濫榮一・大倉喜八郎・淺野總一郎氏等が札幌麥酒株式會社を組織して斯業を繼承し、工場の改築・設備の改善に意を注ぎ以て今日の盛大を致せるものである。

4、室蘭製鋼所 同所の概要については既に本文中之を述べたのであるが、今一つ序ながら同所附屬の港灣埠頭について一言して置かう。同所の埠頭は室蘭灣に面せる用地の一角から、幅六十呎を保つて長さ千三百呎ばかり海上に延び、其の一端には棧橋を設け干潮時の水深二十六尺とし、大船巨船と雖も横着けにすることが出来るやうになつてゐる。地理書の挿繪中左方から海中に突出してゐる二個の埠頭の中で手前

D、交通

に見えるのが製鋼所の埠頭で、其の先端に立つてゐるのは百噸の起重機であり、向ふに見えるのは炭載用の高架棧橋である。尙ほ切圖は工場内で砲尾の仕上げ作業を行つてゐる所であり、並んでゐる多くの砲は陸海軍用の重砲である。

本島は開拓の進歩・産業の發達に伴つて、年月に比較すれば交通は急速に便利となつた方であるが、元來其の位置が我が國の中央を遠ざかつて北偏し、面積廣大なる上に中央部より菱形をなして四方に走る脊梁山脈は到る處に高山峻岳を起して各方面相互の連絡交通を妨ぐることも多く、隨つて鐵道の如きも今や縦横幹線の開通を見るに至つたとは言ふものゝ、之を關東・近畿地方等の鐵道網に比較する時は到底問題とならず、唯僅に其の消極的必要限度の幹線が漸く整つたといふに過ぎない程度である。而もそれさへも地方によつては冬季の降雪に往々不通を見ることがあるといふのであるから、所詮未だ不便たることを免れない。又海上の交通は陸上のそれに比して割合に早くから開け、本島の開發に貢獻せることが多かつたが、これとても地形上海岸の屈曲少く良港灣に乏しいので船舶の碇繋に不便多く、且つ尙ほ一部は春夏の交の濃霧又は或る季節の流氷に屢々航海を妨げられることがあるといふ點などから見れば、決して便利とは言ひ難いのである。

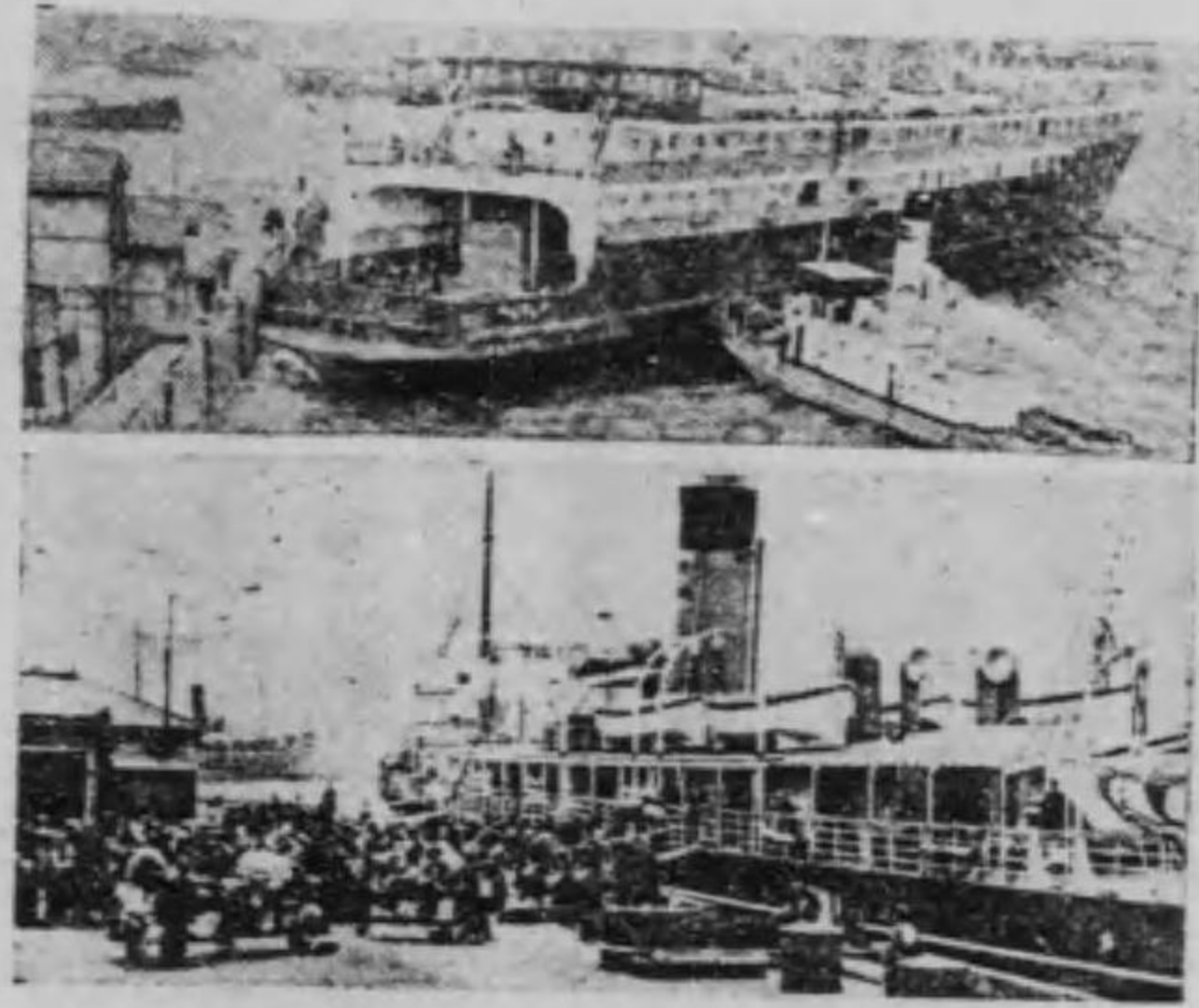
本島に於ける主要鐵道線路は函館線・宗谷線・根室線の三線で、是等は何れも我が國鐵道幹線の一部をなし、函館では鐵道連絡船の便によつて本州の鐵道との連絡が保たれて居り

函館線

又稚内と樺太の大泊との間にも鐵道連絡船が往來して、樺太の鐵道と本島の鐵道との連絡が保たれてゐる。其の他室蘭線・網走線・留萌線等も本島に於ける主な鐵道線路であり、尙ほ石狩・空知等の炭坑地方には石炭積出しのために敷設された多くの短距離鐵道もある。

函館線は函館を起點として北方に走り、小樽・札幌・岩見澤・瀧川等の都邑を経て旭川に至る延長二百六十五哩四分の本線と、手宮線・歌志内線・幌内線・岩内輕便線・上磯便線等の支線との總稱で、本線は函館を發して終點旭川に到着するまでに普通列車にて約十五時間半、急行列車にて凡そ十三時間餘を要する。

宗谷線は旭川を起點として天鹽川に沿ひて北進し、名寄を経て北見の海岸に出で更に西北に走つて稚内に達してゐる延長百七十三哩五分の本線と、名寄・湧別間約七十三哩餘の支線(名寄線)とを併せて呼ぶもので、旭川・稚内間の所要時數は約九時間、毎日一回函館より發する急行列車に乗れば凡そ二十三時間にして、本島縦貫線の終點稚内に到着することが出来る。宗谷線の沿線は從來全く荒蕪地として顧みられなかつたが、此の線の開通後は次第に開拓の緒に著き、近年では移住者も漸次増加して年とともに相當顯著なる成績を擧げてゐる。



(下)昔(上)今の船結連函青

宗谷線

根室線

根室線は函館本線の瀧川驛・旭川の西南から分れて東南に向ひ、池田に於て網走線と會し太平洋岸に出でて東進し、釧路を経て根室海岸の名邑根室に至る延長二百七十八哩の本線と、十勝岳の西南富良野より旭川に達する三十三哩餘の支線との總稱で、本線通過の所要時數は瀧川驛より約十六時間、函館よりは凡そ三十時間にして、本島横斷線の終點根室に到達することが出来る。本線が太平洋斜面の開發に寄與したことは言ふまでもなく、殊に本島東西の兩岸を連結して經濟上の連絡を保たしめるに至つたことは特筆に値すべき大なる功績である。

室蘭線は函館本線の岩見澤驛より南走して苫小牧に至り、更に太平洋岸を西南に向つて進み内浦灣頭の室蘭に達する八十六哩七分の線と、夕張線・高字輕便線等の如き運炭鐵道とを合せて呼ぶもので、起點より終點までの所要時數は約四時間、本線は元來炭田地方に於て採掘せらるゝ石炭を搬出するために運搬線として敷設されたものであるから、貨物の運送に於ては本島各線中有數の地位を占めてゐる。苫小牧・室蘭の發展が本線開通に負ふ所極めて大なるはまた説明の限りであるまい。

網走線は根室本線の要驛池田から北に向つて、千島火山脈地帯を横斷し野付牛驛を経てオホーツク海沿岸の網走に達してゐる百二十哩四分の線と、野付牛驛・湧別間四十七哩餘の支線との總稱で、池田・網走間の所要時數は約七時間餘、函館からは毎日一回の直通列車もある。此の沿線は主として常呂川と利別川(十勝川の支流)との溪谷であつて、廣大なる森林や

室蘭線

網走線



大農耕法による農園などの迎送に違なく、内地に於ては到底見る能はざる目新しい風物に富んである。

留萌線は函館本線の深川驛を起點として西北に走り、日本海沿岸の名邑留萌を経て西南増毛に至る四十一哩二分の線で、汽車は凡三時間にして終點に到達することが出来る。本線は留萌・増毛を中心とする沿海水産物の運搬を主目的として敷設したものであるから、随つて此の線の利用も其の漁期に於て最も著しいものがある。

本島の海上交通は先づ日本海沿岸方面に開けて次第に太平洋岸に及ぼしたもので、現在では何れの沿岸も大體に於て航運よく通じ船舶の往來亦頻繁であるが、元來海岸線の短い島であるから、函館・小樽・室蘭等の諸港を除けば良港灣と目すべきものが殆んどないので、船舶の碇泊・貨物の荷役に不便を感ずることが多く、殊に春夏の交には南方海上から吹いて來る暖風が寒流上の冷氣に觸れて、其の賈す水蒸氣が凝結するために東部太平洋海上は屢々濃霧俗にガスといふに鎖されて航海の杜絶することがあり、又季節によつては冬季海面に生じた氷塊が氣温の高まるにつれて離陸或は破碎して海流とともに漂ひ來ることがあるので、東北部オホーツク海並に根室の近海では、此の流水のために往々海上交通が妨害されることもあるといふ状態であるから、之を瀬戸内海や九州地方沿岸などに比較すると、未だ便利であるとは言ひ難いのである。

けれども函館・小樽・室蘭の三港は其の位置が良好である上に港もよく設備も整つてゐる

留萌線

航路

青函連絡

世界に冠する航路

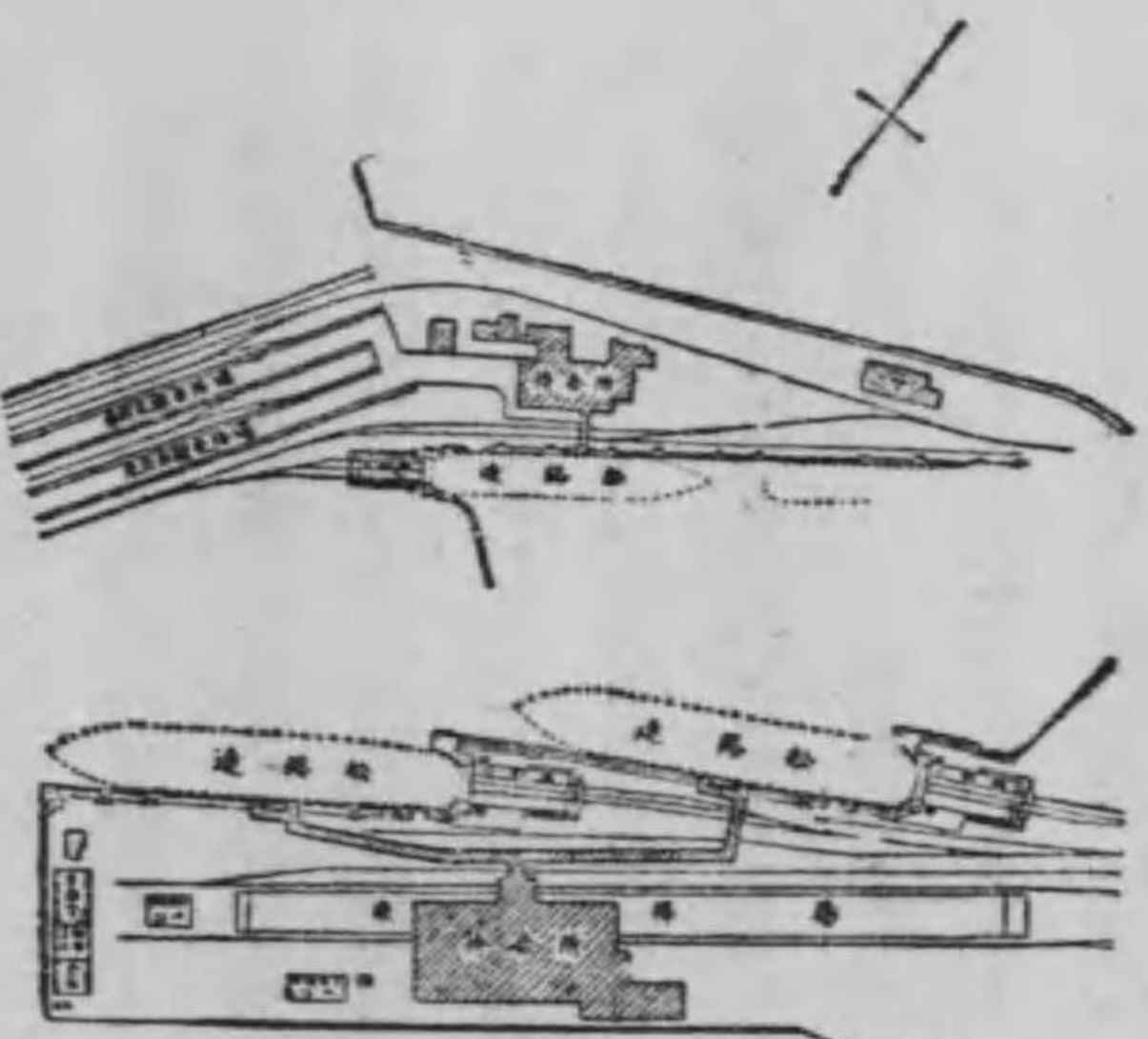
ので、四季ともに船舶の出入が自由であるから、近海航路の中心點となつて本島各港及び内地諸港との間に船舶の往來があることは勿論、函館・小樽の二港の如きは遠くウラヂボストツクとの間にも定期船を通じてゐる。

参考補説

1、青函連絡船 は本州と北海道とを連結する重大使命を帯びてゐるものであるから、鐵道が國有となるや先づ第一に日本最初のタービン式汽船比羅夫丸と田村丸とを就航せしめて、船内の設備・速力の優秀を誇つてゐたのであるが、其の後客貨の集中は年を逐ふて多きを加へ、遂に從來のまゝにては不都合を感ずるに至つたので、こゝに我が鐵道省は最近再び一千數百萬圓の巨額を投じて、此の連絡に一大改良を施したのである。今左に其の概要を掲げて置かう。

就航船はこれまで一千五百噸級のものと前記二隻に過ぎなかつたが、現在では車輛航送設備を有する三千五百噸級の客船四隻(翔鳳・飛鷺・松前・津輕)と、他に貨物船五隻とを備へ、殊に客船は米國オントナリラ湖及びミシガン湖に就航するものとともに世界に冠たるもので、長さ三百五十呎・幅五十二呎・吃水十五呎・速力十七節を有し、船客収容数は一等三十九人・二等二百八人・三等七百人、臨時收容人員約三千人の見込であり、又車輛収容量は十五噸貨物車二十五輛で、目下計畫中の車輛航送専用の貨物連絡船にあつては約四十輛を收容し得るのである。のみならず連絡回数も従來は夏期毎日二往復・冬期毎日一往復であつたのが、四季を通じて毎日五往復の多きに至つたのであるから、これがために増した便利だけでも非常なものと云はなければならぬ。

連絡方法は従來青森驛に於ては汽車・汽船間を小蒸汽船又は舢舨を以て中繼し、函館驛に於ては連絡船が直接棧橋に着いてゐたのであるが、何れも不完全な設備であつて、降雨などの際には尠からず旅客に迷惑を及ぼしてゐた。然るに改良後は兩驛とも新設の埠頭に連絡船を繋留し、直ちに廊下を以て待合所に接続せしめてあるので、晴雨・風波に對しての心配を要せず、且つ船車間の歩行距離も短縮されてゐるから複雑な停車場の乗換よりも遙に便利となつたのである。加ふるに手荷物・小荷物の如きも車輛航送によるを以て、積換の手續を省き時間を節約し汚損・破損等を絶対に防ぎ得るので、此の點のみから言つても旅客の便利は一方でない。



備設結連(下館函 函(上森青)青

十二月に着手し、大正十四年五月に至り青森驛同様に車輛航送を實現し得たのである。函館驛の設備改良工事は在來棧橋の南方海面約四千坪を埋立て、之に新連絡船を繋留する埠頭設備を施すと同時に、待合室・跨線橋・乗降場等を設置し、旅客連絡に遺憾なきを期し、又一方車輛航送設備及び地下道・エレベーター等

を設けて、手荷物・小荷物等の小運搬を迅速ならしめるやうにしたのである。青森驛の改良工事亦これと大差がない。

車輛航送設備は今回の改良工事中の最も主要なもので、其の大体は陸上の線路と連絡船内の線路とを、長さ八十呎の可動橋及び其の一端に附屬せる長さ二十呎のエプロンを以て、海面の満干差に差の應じて上下に移動接続せしめ、それによつて車輛の出入を取扱ふものである。而して可動橋は幅三十呎六吋を有し線路三條を敷設し、橋臺側は蝶鉸装置として俯仰することを得しめ、他方には可動橋を挟んで高さ三十呎の鐵塔二個を設け、其の直端に鐵桁を架渡し鐵錐を以て可動橋端を左右二ヶ所にて吊下げ、電氣モーターよりの聯動によつて上下せしめるものである。是等は總て十五噸クレーンを用ひて逐次組立てたもので、僅に一ヶ月餘の日子を以て完成したものである。(小坂鐵道省技師「青函連絡設備の完成」參照)

2、北海道に於ける主要航路

- A、函館・樺太線——函館——小樽——大泊——真岡——野田——泊居(命令航路、毎月六回函館發)
- B、函館・網走・千島線——函館——釧路——厚岸——霧多布——根室——乳呑路——斜古丹——内保——留別——蕨取——紗那——羅臼——斜里——網走(北海道廳命令航路、毎月五回函館發)以上近海郵船航路
- C、浦鹽廻航線——小樽——青森——伏木——七尾——浦鹽(命令航路、小樽發回数不詳)以上大阪商船航路
- D、函館・真岡線——函館——小樽——海馬島——武意泊——内幌——本斗——真岡(毎月三回函館發)以上

上北日本汽船航路

E、小樽・稚内線——小樽——増毛——留萌——天賣——焼尻——鬼脇——蟹泊——香深——稚内（北海道廳命令航路、毎月五回小樽發）

F、其他

青森・室蘭線（毎日一回）北日本汽船航路

室蘭・森線、函館・室蘭線、噴火灣汽船航路

概観

E、都 邑

本島は住時所謂蝦夷が島の地にして久しく王化に浴せず、僅少の内地人と數萬のアイヌ人とが各所に點在してゐたのに過ぎなかつたものであるから、明治維新以後頻に拓植に努めたといふものゝ、全人口未だ二百五十萬前後であつて、其の密度は三百九十人を超えず、内地人口平均密度二千三百六十人に比すれば尙ほ七分の一にも達せざる状態である。随つて本島に於ける主要なる都邑は産業の發達せる石狩川沿岸の平地及び半島部の海岸に多く、他は概ね地方的聚落の稍々著しいものであるのに過ぎない。其の都邑の中でも最も繁盛なのは札幌・小樽・函館の三市で、旭川・室蘭・釧路の三市また之に次いで著名である。

札幌は石狩平野の西南部に位し石狩川の支流豊平川の左岸にあり、人口十四萬五千を有し街路廣潤・市區井然まことに本島に於ける代表的都市である。此の地は明治維新當初までは森林草原相半ばした未開地であつたが、明治二年此處に開拓使を置き本島施政の中心

札幌

小樽



地と定めて以來は頻に移民を募り開墾經營に努力したので、次第に隆盛を致し今や諸般の施設備り、北海道廳・帝國大學をはじめ官衙・學校・銀行・會社・各種の工場等楮比して、本島文化の淵源地たるに恥かしからぬ發展振を見せてゐる。

第一 北海道地方

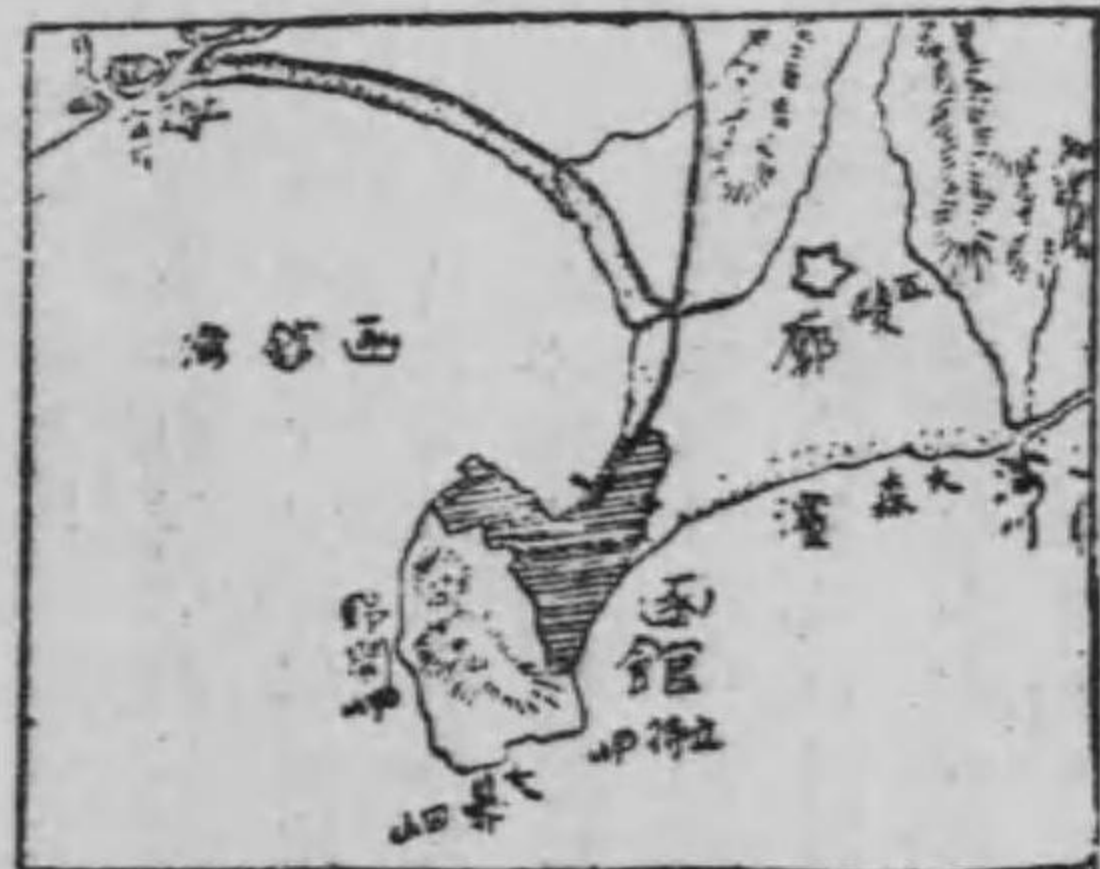


小樽港と小樽市街

市内からは麻絲・麻布・帝國製麻會社札幌工場・麥酒（大日本麥酒會社札幌工場）の他、清酒・澱粉・麥粉・煉乳・罐詰等を生産し、之を或

は鐵道により又は外港たる小樽港から各地に搬出してゐる。

小樽は小樽灣に臨み廣大にして生産の豊富なる石狩平野を背景となし、而もこれが門戸たるの位置を占めてゐるので、同平野開拓の進捗に正比して漸次繁榮を致し、曾ては寥々たる一漁村に過ぎなかつたものが、現在では人口十三萬五千・函館・札幌に



次いで本島第三の大都會となり、商業の殷盛はまさに函館を凌駕せんとする勢がある。蓋し此の地の發達原因は背後に石狩平野を有し、前面に良港灣を控へ水陸交通



函館港と函館市街

の衝に當つて百貨の集散吞吐に甚だ便が多いためであり、殊に冬期に氷結を見ず夏季に濃霧を見ない西海岸第一の良港でも近年築港工事を施しても船舶の碇繋いよく便利安全近海航路の焦點となり、且つ木材・水産物・石炭・豆类・穀物・雜詰・澱粉等の輸移出額は一億一千万圓級を超えるの盛況を呈してゐるからである。地理書の挿繪は小樽公園附近の高地から市街を隔て、小樽港を瞰俯した景で、左方から右方へ長く一線を劃するものは第一防波堤で長さ一千三百八米、更に右方には二千三百三十九米の

函館

防波堤がある。又其の第一防波堤の手前に見えるものは長さ二百八十六米を有する炭載用高架棧橋である。



函館は半島南部の中央に位して津軽海峡に面せる函館灣に臨む、人口十六萬四千、往時我が國五港の一たりし所で現に北海道第一の大都會である。此處は水深く設備完成せる良港を有する上に、本島縦貫線の起點であり水陸交通の連絡的門戸に當つてゐるので、物貨の集散に都合よく灣頭には常に帆樫林立し汽艇徂徠して其の盛況を物語つてゐる。其の主なる輸出品は乾錫・鹽鱈・昆布・貝柱・海扇等の海産物で五百三十萬圓内外に過ぎないが、内地及び道内各地への移出高は一億四千萬圓を突破して盛んに鹽魚・乾魚・乾錫・海産肥料・セメント・米・和酒・洋酒・木材等を積出してゐる。市の東北一里餘に所在する五稜廓はもと、函館の政廳に充つる目的で建築したものであるが、寧ろ榎本武揚の叛によつて名高い。

旭川

第一 北海道地方

旭川は上川盆地の中心都會で人口七萬三千に近く、函館・宗谷・富良野三線の交叉點に當り

交通上の要衝を占むると同時に、市の附近は本島第一の米産地であり、又市の内外からは酒・酒精・醬油・味噌・下駄・鉛筆等を産するので、人家楨比して商業が頗る盛んである。本市も亦其の昔は僅にアイヌ部落の點在するに過ぎなかつた所であるが、明治十九年頃から次第に移民を増し、次いで明治三十二年第七師團の設置とともに急足の進歩を遂げ、爾來年を逐ふて隆昌を致し、以て今日に至つたのである。市の西方約四里の地點にある神居古潭は石狩川が上川盆地の西壁を穿つて石狩平野に出づる所につくられた峡谷の奇勝で、峻崖兩岸にそより立つ間を奔流岩を嚙んで流れ、よどんで深淵をなす所、山色倒に影を映し、實に本島中第一の絶景と稱せられてゐる。

室蘭は内浦灣の東岸に位する本島屈指の良港で人口五萬を有し、陸は鐵道室蘭線の終點となつて炭坑地方及び平野地方の貨物を集め、海は航路の中心となつて之を函館・青森等の各港に散じ、水陸交通上の一大門戸たるの地位を占めてゐるので、汽車の發着・船舶の往還多く市況頗る活潑である。殊に其の港は水深く背後に丘陵相連つて風波の虞少く、且つ大正七年より起工して本年十五年完成の豫定たる築港工事も着々進捗してまさに竣工の期を目前に見てゐることゝて、やがて本港が我が國有数の良港とならば疑なき事實である。外國貿易は木材・石炭・洋紙等を主とする百萬圓未満の輸出があるに過ぎないが、對內的移出は洋紙・石炭・鐵製・機械をはじめとして木材・魚介・鹽魚・乾魚等甚だ多く、其の額七千五百萬圓を超えてゐる。

室蘭

釧路



釧路は釧路川の河口に位する開港場で人口四萬三千に近く、また海陸交通の衝に當り十勝・釧路に於ける物貨集散の一大市場をなしてゐる。本



室蘭港

港も亦灣内水深く南方に突出せる知人岬と岬頭より半海里の間に連接せる底礁とは自然の防波堤をなして常時は波浪甚だ靜穩、隨つて船舶の碇繋に適してゐるが、尙ほ大暴風雨には怒濤屢々底礁を超えて灣内を襲ふの憂があるので、明治四十二年以來築港工事に着手し本年十五年竣工の豫定であるが、工成るの日に六千尺の長堤よく怒濤を防いで灣内を絶對安全地帯たらしめ、いよ／＼良港たるの面目を發揮することであらう。外國への輸出は木材・洋紙・昆布等で其の額約百五十萬圓内地への移出は

札幌市街

参考補説

バルブ・洋紙・木材・石炭・豆類・燐寸軸木等で總額二千萬圓に及んでゐる。

1. 札幌市街 はアメリカ式を模して街衢の井然・街路の廣潤を特色としてゐる。其の市區は既に明治四年に之を定めて六十間に分割し、街路は表通を幅十一間・裏通を幅六間とし、又市の中央には幅八十間の防火線を劃して大通と呼び、芝生をつくり綠樹紅花を栽植して逍遙地とし、此處を境界に市街を南北に分ち、南は一條より七條に北は一條より十七條に區劃してある。更に東西は市を貫流する創成川を基準に、東は一丁目より六丁目に西は一丁目より二十丁目に至り、且つ各條・各丁は何れも六十間を限界と定め、それ〴〵方形の三千六百坪を一區劃としてゐるから、街衢基盤の目の如く劃然として直交し、まことに本島の代表的都市として耻かしからぬものである。

2. 其の他の都邑

北海道には本文に掲げた都會の外に尙ほ注目し得る多くの都邑がある。即ち苫小牧・岩見澤・夕張・留萌・増毛・稚内・網走・野付牛・根室・池田・帶廣・厚岸・俱知安・岩内等がそれである。

苫小牧は室蘭の東北約四十哩室蘭線沿線の名邑で交通上の要路に當り、南方太平洋に面せる沿岸は鯨の漁獲多く、随つて比較的早くより開けた土地であるが、鐵道開通後は一時衰頹の色を見せたこともあつた。けれども明治四十三年に王子製紙株式會社が此の地に工場を創設して以來再び發展の機運をあらはし、今や人口一萬七千に達し製紙工業の本場として天下に聞えてゐる。

岩見澤は函館本線と室蘭線及び炭坑諸線との分岐點に位し人口二萬二千、地方農産物集散の中心市場である。此の地はもと廣漠たる一原野に過ぎなかつたが、幌内炭坑の採掘開始とともに次第に發展し以て今日に至つた。

夕張は夕張炭坑の發達によつて惠まれた釧路郡邑で、三面山を繞らしながらも人口約五萬を有し頗る活氣を呈してゐる。鐵道夕張線は室蘭線の一驛追分との間二十七哩二分を走つて、毎日多量の石炭を運送してゐる。

留萌は本島西海岸の名邑で近海は鯨の豐漁帶として著はれ、人口一萬四千毎年其の漁獲期には各地から數多の漁船が集來して一時に活氣の横溢する時期がある。鐵道留萌線が賑ふのもそれ等の漁獲物を運搬する時である。目下工費七百萬圓を計上して明治四十三年より大正十九年までの豫定を以て築港工事を急ぎつゝあるから、何れ竣工の曉には日本海沿岸の要港として一層の發達を見せることであらう。

増毛は留萌の終點で留萌の南方二里の地點に位し、人口約一萬一千、秋冬の頃には北方の風波烈しく船舶の碇泊に困難であるけれども、春夏の二期は概ね平穩である上に沿岸は水産物に富んでゐるので、其の集散多く、鯨・鮭・鱈等の取引が盛んである。

稚内は本島最北端の要津で宗谷本線の終點に當り人口一萬三千、樺太の大泊との間には鐵道連絡船を通じ、小樽・網走間を航行する船舶は必ず此處に寄港するので、北海道北門の港として相當の發達を見せてゐる。

網走はオホーツク海沿岸第一の名邑で網走川の河口に位し人口二萬八千、港は東北の風を防ぎ難く且つ毎年海上漸く暖氣を催す頃には流水の危険さへあるので航運杜絶するの不便を免れないが、網走線の開通後は汽車によつて此の不便を補つてゐる。燐寸軸木・鹽鱈・鹽鮭等を此の地の主要物産とする。

其の他の都邑

苫小牧

岩見澤

夕張

留萌

増毛

稚内

網走

野付牛

根室

池田

帯廣

厚岸

倶知安

岩内

地理の學習指導

七〇

野付牛は人口約三萬網走線と湧別線との分岐點に當り常呂平野の主邑をなしてゐる。附近は廣大な原野で農園・牧場等が多く、農産物特に豆類・玉蜀黍・薄荷等の産出が少くない。此の地は其の集散地である。根室は人口約一萬五千、根室半島の中央北側に位して根室本線の終點に當り、本島中にては開明早き都邑の一つであるが、其の位置北偏せるを以て發達の速度比較的遅く未だ十分なる發展を見せてゐない。近海からは昆布及び鮭を産出することが多いので著れてゐる。

池田は十勝川の中流に位置し、根室・網走二線の分岐點に當り、西方の帶廣とともに十勝平野の名邑をなし、附近の農産物を集散する他、此の地には富士バルブ株式會社の工場があつて盛んにバルブを産出してゐる。

帶廣は十勝平野の略々中央部にあり、其の發達は明治四十年旭川・釧路間の鐵道開通後のことであつて、今日に於ては移民漸く多きを加へ人口一萬六千を算し、十勝平野の農産物を集散して市況甚だ活潑である。厚岸は厚岸灣の南部に位し、本島太平洋岸の一要港であつて人口約一萬、昆布・鮭・鱈・鯨油等の海産物の取引が盛んなので聞えてゐる。

倶知安はマツカリ岳の北麓にある倶知安平野の主邑で人口凡そ一萬五千、明治三十七年函館本線開通後に著しい進歩を見せた土地で、豆類・麥類・馬鈴薯等の産出が多い。

岩内は倶知安の西北にあり、小樽・函館間航路の重要寄港地で、又同時に本島日本海方面航運の有名な避難港である。人口一萬二千、鯨の漁獲が豊富なので知られてゐる。

F、千島列島

千島列島は北海道本島の東北端から露領カムチャツカ半島に至るまでの海上凡そ三百餘里の間に、一大彎形を描いて點々相連る大小三十一の火山質島嶼から成る列島の總稱で、面積一千一万里・四國島よりは稍々小である。氣候寒冷加ふるに全島所謂千島火山脈の連亘せるありて平地少く、海岸は絶壁多くして船舶の碇泊にも不便なため人煙甚だ稀薄、列島中の中部以北には無人島も少くないので全島の總計一萬七千・一万里の密度約十五人と報告されてゐるが唯一の産業たる漁獵の關係によつて夏季と冬季とは非常な差異があるの

で正確を期し難い。列島中の主要なものは國成・擇捉・得撫・新知・幌筵・占守・阿頼度等で、行政上之を九郡(同後色丹・得撫・新知・占守)に分ち根室支廳が管轄してゐる。

氣候は延長約三百里に亘つて點列せる島嶼であるだけに決して一様ではないが、概して北緯四十四度以北に位し、且つ寒流親潮に洗はれてゐるだけそれだけ寒冷で、嚴寒には海岸全く凍結するは勿論九月中旬には既に降雪を見、又七月頃までは残雪があるところも珍らしくないといふのであるから、如何に寒期が長く烈しいかがわかる。今紗那に於ける氣温を見るに毎年大抵最高二十九度・最低零下二十四度六分・平均温度四度二分を示してゐる。而も夏期には東南風のために各島殆んど濃霧に鎖されるので、四・五の島嶼國後・擇捉・得撫・色丹・占守等を除けば、他の大部分は先づ以て不毛の地と見て差支ない。

産業は氣候が前記の如く寒冷である上に、全島概ね千島火山脈が噴起した山岳・丘陵より成り、平地が極めて少いので農業は全く發達せず、漁業を以て唯一の産業としてゐる。即ち

概観

氣候

産業

沿海には鮭・鱒・鯉・鱒・昆布等の魚族・海藻の産が多いので其の漁業期たる夏季には毎年各地特に北海道本島からの漁業船が多く集り、此の北海の列島沿岸を賑はすのが常である。又近海には鰻鮎・鰻虎等の海獣も少くないが、これは所謂鰻鮎條約なるものによつて民間獵者の捕獲が禁止されてゐるので、官憲以外の手によつて之を捕ふることは出来ないことゝなつてゐるのである。

鰻鮎條約

鰻鮎條約といふのは明治四十四年日・英・米・露の四箇國間に於て締結した鰻鮎捕獲に關する條約、即ち東經百四十九度以東・北緯四十五度以北の海上では、大正十四年十二月十四日までの十五ヶ年間は民間獵者の鰻鮎捕獲を禁止するといふ條約であつたのである。

其の後大正三年當時の我が農商務省は省令を以て、同海面に於て民間獵者の海驢・海豹の獵獲をも禁止したのであるが、それは元來海驢・海豹は鰻鮎に對する害獣であるけれども、此の捕獲を一般人に許すときは勢ひ鰻鮎の密獵が行はれて、絶対に禁止することが困難であるからであつた。

參考補説

交換條約の千島

1、交換條約までの千島 千島列島は嚴寒不毛の地多く得撫以北の諸島は久しく其の所屬さへも分明でなかつたのであるが、正徳年間以後露ノの來住するもの漸く多きを加へ、遂には擇捉・國後にまでも其の勢力を及ぼさうとしたので、天明年間には幕吏最上常矩が千島を巡視して國後にある露人を逐ひ、又寛政年間には近藤守重が擇捉に渡つて大いに開發に努むるところがあつた。乍併當年の徳川幕府は未だ千島全

島を經營するだけの餘力をもたなかつたので、得撫以北は暫く措いて國後・擇捉二島の經營に全力を注ぎ、或は會所を設け或は番屋を置いて幕吏を駐在せしめ、兎も角も其の領有だけは之を確實にしてゐたのであつた。然るに嘉永六年に至り露國と和親條約を締結するに及び、千島境界線確定問題起りこゝに兩國協定の結果、擇捉と得撫との間を國境と定め、擇捉並にそれ以南は我が國の領有、得撫並にそれ以北は露國の領有とし、樺太は兩國共有のものとして別に境界を劃定しなかつたのであるが、其の後明治八年となつて兩比樺太境界線確定の議起り、遂に當時我が露國駐劄公使たりし榎本武揚をして同國政府に交渉せしめ、こゝに所謂樺太・千島交換條約が締結され、千島全部を我が國の版圖に入れて樺太全部は露國の領有となさしめたのである。

鰻鮎

2、鰻鮎 是は鰻鮎類中の海産哺乳獸で牡は一般に牝の二倍程の身長を有し、八歳以上になれば六尺二・三寸乃至六尺七・八寸にも達し、其の體重五・六十貫に及ぶものも珍らしくない。毎年四・五月の交、牡が先づ南方から到着して海岸に適當なる繁殖場を求め、次いで七月頃牝が到着して分娩するのが普通であるが十月下旬になると牡牝は幼兒を携へて此處を去り日本近海・遠くはカナダ・カリフォルニア沿岸までも涉つて行く。全身には紫褐色を帯びた毳毛が密生して甚だ軟かいので、其の皮は世に貴重されて價も亦頗る高い。

鰻虎

3、鰻虎 是は川獺に似て頭小さく體肥え、後肢は前肢に比して甚だ大きく且つ蹠をもつてゐる。隨つて游泳は極めて敏捷であるけれども鰻鮎の如く廻遊せず、常に波浪の荒い岬の附近に棲息してゐる。これ亦全身に暗褐色の光澤ある柔綿毛を被つてゐるので、其の毛皮は世に甚だ賞用せられてゐる。



### 2、學習環境

#### A、地圖

大日本帝國全國北海道地方地圖、同行政區分圖、北海道地方地勢圖、等溫線分布圖、海流圖、森林分布圖、開墾地及び炭田分布圖、札幌・函館・小樽・室蘭の部分圖

#### B、圖表

地方別面積比較圖表、水産物産額比較圖表、豆類・玉蜀黍・馬鈴薯産額比較圖表、洋紙産額比較圖表

#### C、實物又は標本

鯨・鮭・鱈・昆布・柔魚・鯨油・鱈油・鯨粕・鯨鱈の罐詰・燕麥・大麥・裸麥・玉蜀黍・馬鈴薯・大豆・小豆・蝦夷松・根松・ドロノキ・シナノキ・バルブ・洋紙類・亞麻・麻絲・麻布・亞麻仁油、札幌ビール、臘腸獸・臘虎・海豹・海驢

#### D、繪葉書・寫真類

アイヌ人の風俗、旭岳、駒岳と大沼、鯨の陸揚げ、森林の開墾、トラクター、苫小牧の製紙工場、室蘭製鋼所、青函連絡船、札幌・函館・小樽・室蘭・旭川・釧路の實景

#### E、其の他

アイヌ人の製作品、土人小學校兒童の成績品、旅行案内、年鑑類、參考圖書

上記のものは成るべく豫告によつて兒童自身にも準備せしめ、適當に各自が各自の環境を構成するやう指導することが大切である。就中各種の圖表の如きは實數のみを與へ兒童

の作業に訴へて工夫考案せしめる方がヨリ効果が多い。尙ほ砂地圖も前學年に準じて作らせる方がよいことは言ふまでもない。

### 三、方法要項

1、本書前巻の方法に従て學習指導を受けて來た兒童には一通り地理の研究方法はわかつてゐる筈であるから、本學年本課以後に於ては成るべく兒童の自由計畫による學習を基礎として指導に當り、一層地人相關の理を明瞭ならしめ、本邦國勢の概要を會得せしむると同時に社會識見を養ひ、世界に於ける我が國の地位を闡明せしめ、以て人類協調の精神を啓培することゝしなければならぬ。隨て教師も亦兒童の學習の伸展に伴ふ資料の研究、環境の整理をなし、更に兒童の學習方法の上に立脚して指導の計畫を樹てねばならぬことは勿論であるが、それ等の順序方法の一斑については既に前巻に於て之を詳述したことであるから、本書に於ては唯其の方法上の要點のみを述べることにしよう。

2、本課に於ても矢張北海道地方全體を一單元として學習させる方がよい。但し能力の比較的劣つてゐる兒童には教科書の地理要素に準じて學習せしめるか、又は教師が問題を與へてやらせねばならぬことは當然である。

3、教科書の講讀又は讀圖が終つて後に樹てる兒童の學習計畫には各種のものが現れるであらうが本島に多くの移民を透つてゐる地方の兒童に對しては、成るべく移住者の現狀を

中心にして出發せしめ、其の生活状態から次第に北海道地方の氣候・地勢・産業・交通・都邑等を研究させることが妥當であらう。今左に其の一例を舉げて見ると

- A、それ等の移民は多く何れの方面にゐるか
  - B、何をなしたかあるか
  - C、何故に其の方面で左様な仕事をしてゐるか
  - D、さうした産業がなぜ發達するのであらうか
  - E、其の産物は幾許程出來て何處で消費されるか
  - F、主な集散地は何といふ所だらうか
  - G、では其のために發達した聚落の有様は？
  - H、其處へ行くには如何なる道をとればよいか
  - I、それ等の移住者がどれ程ゐるのだらうか
  - J、移民と土人との關係はどうなつてゐるのだらうか
  - K、今から行つてもまだ開拓の餘地があるだらうか
  - L、農業で行くなら何處の方面が最もよいか
  - M、漁業のためにはどの地方が適當か
  - N、さうした移民の手續は如何にすればよいか
- などといふやうな問題から學習させると、興味も深く有機的にも取扱はれて甚だ面白く發

例の二

展するだらうと思ふのである。けれども斯の如き方法の缺陷としては部分に詳しく、全體に疎となり易い傾向があるから、指導者は此の點に注意して常に全體的學習の關係的連續的發展を圖る必要がある。

例の三

- 4、次にはアイヌ人の風俗・製作品・土人小學校兒童の成績品等を中心にして、縱に歴史的・沿革的に北海道の今昔を學ばしめ、民族の生存競争・優勝劣敗の理法を探らしめ、且つ現在では皇恩の餘澤此の邊土劣敗民族の上にも及んで、北海道舊土人保護法はよく彼等の生活の安全を圖り、文化の向上を促して其の兒童は既に小學教育を受け、中には相當な人物となつてゐるものもあることなどを學習せしめて、王化の無疆無窮を偲ばしめることも亦一法であらう。尤も此の場合に於ては徒に歴史的に流れしめないで、絶えず横の關係に注意させ現在を基準にして學習するやう指導しなければならぬことは言ふまでもない。

獨自學習の指導

- 5、鯉・棒鱈・鹽鮭・鱈詰・大豆・澱粉・札幌ビール・麻布・洋紙新聞用紙・雜記帳用紙等の本島産の産物は、兒童の日常生活に最も交渉の多いものであるから、是等の材料を出發點として學習せしめ、産地・産額・集散市場・移輸出状態等より何故にといふ推究的興味に訴へ、地勢・氣候・交通・都邑等に及ぼさしめることも、本課の取扱ひとしては當を得たるものと言ふべきであらう。
- 6、其の他如何なる地理要素を中心とせる學習計畫にしても、所詮各方面に關係づけて學習させねばならぬものであるから、以下便宜上教科書の要項配列に準じて、獨自學習中の指導眼目を舉げて置かう。

## A、區域

教科書に記載されてある所謂區域は單に管轄區域だけであるけれども、此の項に附帶して位置・面積・行政上の沿革・組織等をも學習すべく指導する必要がある。何故なれば此の地方の文化發達が比較的後れたことも、氣候が寒冷であり、天産物に特色があることも、交通上に兎角故障が多いことも、これ皆直接間接に位置・面積等に關係を有するものであり、又行政上の沿革・組織等の學習は膨脹的國家としての我が國々勢伸展の一端を會得せしむるに足るものであるからである。尙ほ本地方の行政上の區劃を學習させる際には、同時に國名をも學ばしめて置く方がよい。其の理由は本島内の山脈・河川・支廳名等は國名を用ひてゐるものが多いからである。更に北海道廳が管轄する各支廳は、他地方の府縣の下にある郡・市などは其の面積を異にし、最小の檜山支廳にしても百八十四方里を有し、最大の上川支廳の如きは實に六百三十九方里を有し、其の間の大小の差異は著しいものがあるが、何れも凡そ内地の府縣に相當するものであることに注意せしめねばならぬ。且つ是等の學習に描圖を必要とすることは勿論であるが、それが次ぎ／＼の學習事項を次第に記註し得るものであるやうに描かしむることを忘れてはならぬ。

## B、地勢

地勢の學習は動々もすれば山脈・河川・平野・海岸等の離在的・羅列的學習に流れ易い傾向があるから、概觀的特色に重きを置かして土地相互間の關係及び人文方面の基底たらし

むる如く有機的に學習させることが大切である。殊に此の地方の如く千島火山脈と蝦夷山系とが中央部に於て交叉し、屋梁形をなして四斜面を形造せる地方にあつては其の斜面を有する軀幹部と然らざる半島部との二つに分つて、描圖させつゝ學習せしむることが得策であらう。

## C、産業

産業の學習に於ては「本島は元、人口が至つて少く」の箇處にて、アイヌ人の風俗及び過去、現在等に及ばしめ、且つそれ以下の個處にては移民の狀況を調査せしめ、産業發達の要素には人口の多少といふことが重大なる關係を有する點を把握させねばならぬ。又本課に於て氣候のことは海上交通のところに略記されてあるに止るやうであるが、氣候は本島の農業・牧畜乃至一般の開拓事業ひいては移民の生活等にも重大なる關係をもつものであるから、便宜上産業の最初に於て住民とともに研究させて置く方が宜しからう。其の他産業の學習としては常に地勢・交通等と相關的に考察せしむることは勿論、本島の産業が未だ原料生産の域を脱せざる理由を探究させて、是等の發展を圖るためには將來益々此の地方への移民を必要とすることを知らしめ、彼等小國民の自奮を促すことが大切である。尙ほ地理書附圖第十四圖の北海道地方産業圖及び教科書六頁の此の地方の主要水産物産額比較圖表、九頁の森林分布圖等の利用を忘れてはならぬ。

## D、交通

## 第一 北海道地方

本島交通の學習としては先づ第一に鐵道の發達が開拓の進歩・産業の開發を促した理由を推究せしめ、次で地形と交通線路との關係並に我が國交通幹線上より觀たる此の地方縱横幹線の地位を考察させ、更に將來一層本島の開發を圖るためには如何なる方面に如何なる交通線路を必要とするかについても學習させるやう指導しなくてはならぬ。又海上の交通に關しては農霧・流水等に原因する危険の防止、將來益々發展を必要とする航路等について研究せしむることも亦興味ある一法であらう。地圖の描寫は最初のものに鐵道・航路等を記注させて行くと同時に交通略圖を描かして、簡單に線路・航路名・起點・終點等を記入させて置く方が、知識の統整からいつても記憶を確實ならしめる方面からいつても有効である。

## E、都 邑

都邑の學習に於ては唯單に都邑名と其の現状とを調査せしむるに止らしめず、之が發達原因並に特色を掴ましめ、且つ都邑の分布を支配する主なる地人的要素を學習させることが大切である。即ち本島の著名なる都邑は殆んど蝦夷山系以西に發達せること及び其の原因、本島の主なる都市の大部分は同時に港市を兼ねてゐることも及び其の理由を把握せしむること等がそれである。尙ほ本島六大都市の發達原因は特に之を各方面から成るべく詳細に推究せしめねばならぬ。教科書十三頁には札幌の市街地圖が出てゐる。

## F、千島列島

千島列島の學習は一つ／＼の島嶼の研究よりも全體的に眺めて、生産上・國防上に於ける地位を明瞭ならしむることが大切である。また既に九州地方に於て學習した沖繩列島と比較對照せしめることも、大いに價值あることである。

7、机間巡視により又は膝下指導によつて、大體上記の如く獨自學習をさせたなれば、いよいよ今度は相互學習に移らせるのであるが、本課に於ては先づ最初に研究方法について各自の意見をたづね、其の是非を批判せしめて衆議の一致するところに從ひ、數個の學習要項を定めて順次發表をなさしめ、互に長を採り短を補はせる方が宜しからうと思ふのである。此の場合に於て指導者たる教師は常に全體の空氣に注意し、苟も議論のための議論に流れたり、中心を脱して枝葉に走るが如きことなからしめ、而も時間の利用に努め學習能率の増進を圖ることに心掛けねばならぬのである。

8、斯くて尙ほ、且つ兒童に不足不十分の點があらば、教師は此の時に於てはじめて適當に敷衍附加すべきであるが、恐らく本課の學習に際しては次の如き諸點の補説を要するだらうと思ふのである。

## A、本島行政上の沿革

## B、アイヌ人の風俗習慣・分布地域

## C、政府の移民奨励

## D、本島海産物の現状及び其の取引

- E、所謂大農耕法による農業とトラクター
- F、麻絲・麻布・亞麻仁油・札幌ビール・洋紙等の工産物の生産過程と其の販出
- G、青函連絡船の概要
- H、千島・樺太交換問題
- 9、最後に肝要なことは整理學習の指導であるが、これは全學習の成敗に關係するものであるから餘程にまで注意を拂はねばならぬものであるにかゝはらず、兒童は往々にして之を忘れ易い傾向がある。故に指導者は此の點について十分に力を致し、絶えず自己の研究を中心にして之に學友なり教師なりの發表を附加せしめ、纏りたる一全體としての學習をなさしめることが甚だ大切である。然らば其の方法及び時機如何といふに、先づ常に他人の意見を傾聽せしめて自己の獨自研究と比較させ、虚心坦懐に採長補短の實を擧げしめることである。ところがともすれば中等兒以下のものは、自己を空しにして盲目的に他人の發表を其の儘受領しようとする傾向を現すものであるから、指導者は其處に着眼して間違つてさへるなければ自己の研究が最も價値あるものであることを會得せしめてこの弊に陥ることを防がねばならぬ。次に整理の時機は部分々々のものについては其の都度ノート上に於て行はしめ、尙ほ最後には全體としての學習事項及び學習過程を反省せしめて、成るべく簡單明瞭に表明させ知識の統整を圖らしめて置くことを忘れてはならぬのである。

## 第二 樺太地方

### 一、指導要旨

本課に於ては邦領樺太地方の區域・地勢・住民・産業・都邑・交通等につきて次の諸項の大體を會得せしめ、併せて大正十四年一月二十日を以て調印されたる日露條約に基づく北薩哈噠の概要を知らしめ、此の地方が我が北門の富源にして、將來國民の開拓を必要とする所以を理解せしむることを以て指導要旨とする。

- 1、樺太地方の位置と成立及び内地と相異なる行政上の區劃並に其の中心
- 2、東部・中部・西部の三地帯に區分されたる自然的地勢と住民・産業・都邑・交通等の人文的方面との交渉
  - A、特に其の氣候は寒冷なるには相違ないが、人間の居住に適せざる程のものではなく、而も天産豊に無盡の寶庫は開拓者の來住を待ちつゝあること
  - B、随つて近年は當局の拓地植民の獎勵と相俟つて急激に人口の増加を來し、各種の産業も次第に勃興して交通も亦漸く其の便を増さうとしてゐること
  - C、是等に關係を有する都邑の現況
- 3、北薩哈噠の概要

## 二、指導要項

### 1、資料研究

#### A、區域

樺太地方は、北海道本島の北に位する樺太島の南半及び其の屬島(海狗島)とより成り、東はオホーツク海を隔て、露領カムチャツカ半島並に我が千島列島に相對し、西は最短距離四里の間宮海峽を以て露領沿海州に相望み、南は幅員凡そ三十里の宗谷海峽を挟んで北海道本道と相應し、北は北緯五十度線を境としてソヴィエト聯邦の樺太に相接してゐる。



南北の長さ約百十六里、東西の最長四十里、最短七里、面積二千三百三十九方里と計算され、島嶼地方よりは凡そ七方里大きく、北樺太よりは稍小さく、我が國總面積の約百分の五に當つてゐる。行政上之を九支

位置

面積及び  
區分

樺太の  
地理的  
位置

北緯  
五十  
度線

廳(大泊・留多加・本斗・豐原・眞)に分ち、豐原にある樺太廳が管轄してゐる。

#### 參考補説

1、樺太地方の數理的的位置 極東は東海岸北知床岬の東端・東徑百四十四度五十五分、極西は西海岸鶴城岬の西端東徑百四十一度五十一分、極南は西能登呂岬の南端・北緯四十五度五十四分、極北は日露の國境北緯五十度〇分である。

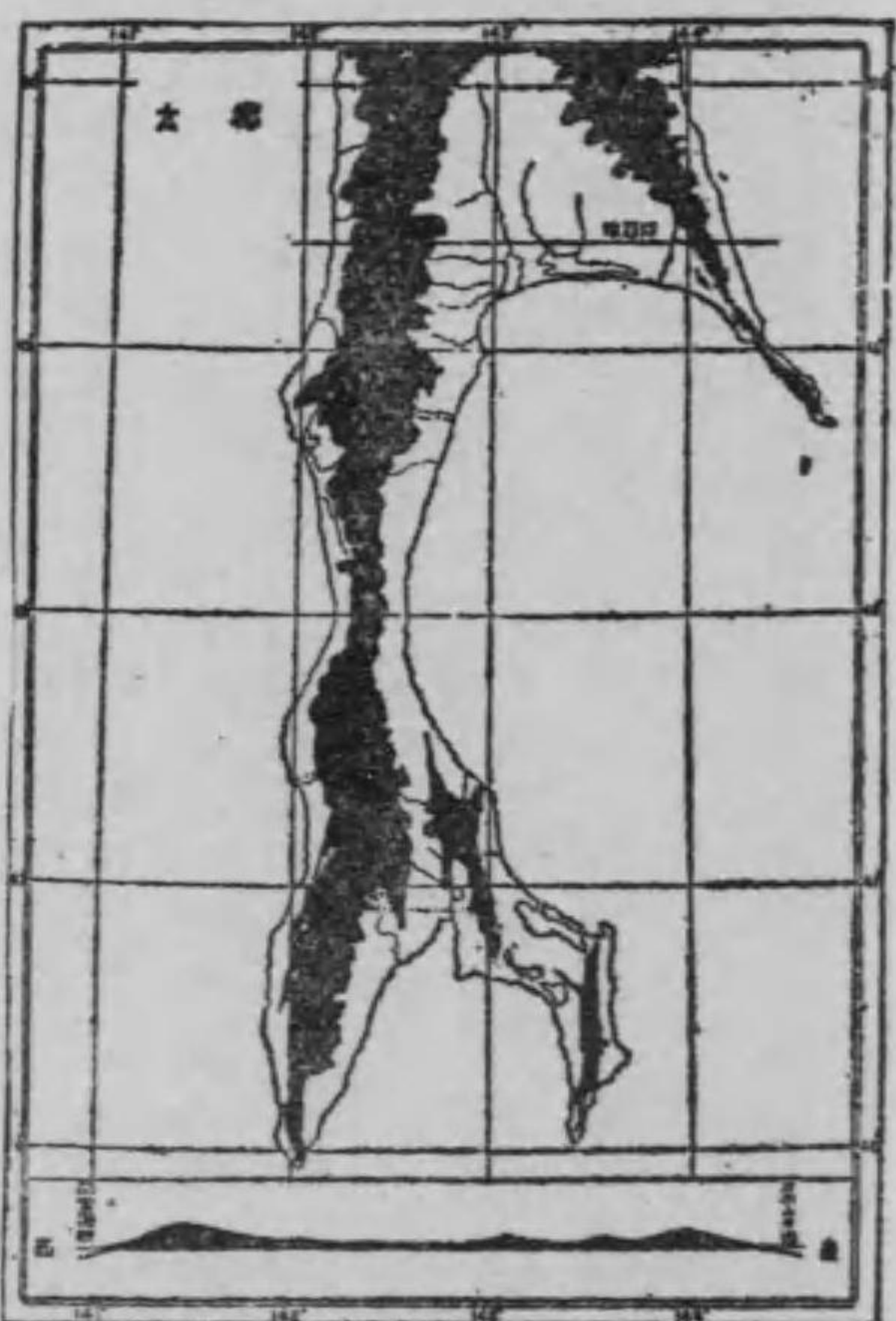
2、北緯五十度線 此の北緯五十度線は日露戰爭後兩國政府より任命を受けた境界測定委員が、明治三十九年七月から同四十年九月までの間に於て、寒威の嚴烈な冬季を除き七ヶ月餘を費して完成したもので、東西約三十三里二十町・幅凡そ五間餘を眞一文字に伐り開いて空林をつくり、中に天文學上より眺めて北緯五十度線に當る地點を地簡所(第一は東海岸に近き鳴海・第二は幌内河岬の境)程選んで、境界の基準たるべき天測境界點と定め、次に測地法によつて約一里半乃至二里半毎に十七箇所の境界標石を置いて(山上)兩國の國境を人為的に劃然と決定したものである。而して此の天測境界標は地面から七尺程掘り下げて約一米平方のベトン體數層を重ね最下のベトン層上に凡そ二尺平方の石版を置き、其の上面の中央に五十度線の通過と一致する十字を彫り、地表にある約二尺三寸のベトン層上には其の頂端が緯線と一致せる鑿基の胸形の三河産花崗岩の標石を建て、其の下にも十字を彫刻してある。教科書の挿繪は西海岸に近い網干にある第四天測境界標で、西面には菊花御紋章及び大日本帝國境界の七字を高彫とし、北面には舊露國皇帝の御紋章双頭鷲と露西亞帝國境界といふ意味の露西亞文字を現し、東側には天第四號明治三十九年西側には露西亞文字でアストロ四號一九〇六年と彫つてある。

3. 行政上の沿革 此の地方は昔より我が北海道土人が來往してゐたことは事實であるらしいが、邦領と認められるに至つたのは慶安年間に松前氏が此の地を探検してからのことと爾來徳川幕府の時代にも視察・經營・保護・取締の任に當つたことがあるが、未だ十分に我が主權が確立するには至らなかつた。其の後明治の初年まで絶えず紛擾があつたことや、明治八年に、樺太・千島交換問題があつたことなどは北海道地方の沿革で述べた通りであるが、明治三十七八年戦役の結果、其の北緯五十度以南は再び我が手に歸したので、當時はこゝに民政署を置いて之を統治したが、明治四十三年三月からは其の民政署を廢して豊原に樺太廳を置いて之を治めることにしたのである。其の頃は此の地方を大泊・豊原・眞岡・泊居・敷香の五支廳に分管させてあつたが、大正十一年十月には更に留多加・元泊・本斗・鶴城の四支廳を増設して全土を九支廳とし、各支廳に支廳長を置いて分管せしめ、樺太廳長官が之を總轄することとなり、以て今日に及んだのである。

B. 地勢

樺太地方は其の自然的地形が南北に長く東西に狭い上に、西部には島形に沿つて樺太山脈が南北に連亘し、又東北部には東北山脈・東南部には鈴谷山脈がそれ／＼南北に走つてゐるので、河川も亦此の山脈に並行して流れ、中に狭長な平野をつくつてゐるから地勢は自ら西部・中部・東部の三つに分れてゐる。海岸は頗る單調であつて、僅に北に多來加南に亞庭の二灣があるに過ぎない。

樺太山脈は此の地方の南端西能登呂岬からソグイェト聯邦領の北端エリザベス岬にか



樺太地方地勢圖

けて、南北に縦走する本島主要の分水嶺をなす山脈であるが、地勢概ね低山性を帯びて高度一般に大ならず、邦領中の最高峰敷香山にして尙ほ一千三百二十一米に過ぎない位である。即ち能登呂半島に於ては三百米内外の白主・遠知志・稍穂・雨龍等の諸山を起し、眞岡・豊原兩支廳の境上では留多加山、豊原・泊居二支廳の境上では野田寒岳等(何れも五・六百米)を起し、本島の最狭部眞

鱈・久春内の中央轟峠附近では百四・五十米を超えず、これより次第に北進するに従つて稍々高度を増し、西海岸鶴城の南方伊血山に至つては千七十六米を示し、更に鶴城山・釜伏山・惠須取山等を経て遂に敷香山・幌登山等の高峰を峙立せしめて邦領を北に走り露領にはいつてゐる。此の脈中には石炭の埋藏が多く、本島の主要炭田を分布せしめてゐる。

東北山脈は本島の東北部の海岸附近を略々南北に縦走する山脈で、國境上に位する沖見山(八一五米)を以て最高峰とし、其の南方に振戸山を起し漸次南下するに伴れて高度を減じ、遂に北知床半島をつくつて法華山等の小山を見せながら、餘脈一旦海に没し、海約島に至つ

鈴谷山脈

鈴谷山脈は本島南部中央凹地帯の東を南北に走る山脈で、脈中の最高峰鈴谷山は高度約一千米に及び、小支脈を出すことも少くないが、其の他は一般に山勢が峻夷して殆んど高山を見ることが出来ない。

河川

此の地方は南北に狭長な地形に沿ふて其の東西に山地帯が相對的に縦走してゐるので、稍長大なる河川は自ら中央部の低地に多く集り南北に流れてゐる。山地帯に源を發して東西に流走してゐるものも少くないが、それ等は何れも地形との關係上極めて短小であつて且つ急流が多い。

幌内川

幌内川は露領樺太の中部に發して、ツンドラ地帯を南に曲流すること七・八十里(邦領約にして多來加灣に注いでゐる。河幅は國境附近に於て約三十間、河口では百五十間にも及び本島第一の長流であるけれども、水深が概して浅く殊に河口附近に於ては僅に四・五尺を保つに過ぎないといふ状態であるから、とても大船の溯航は許されない。乍併此の淺瀬を過ぐれば十五尺乃至二十尺の水深があるので、滿潮時を利用すれば百噸内外の帆船は自由に溯航することが出来、又獨木舟なれば國境附近までも溯ることが出来る。此の川には鮭、鱒の産が甚だ多い。

内淵川

内淵川は樺太山脈の野田寒岳に源を發し、落合の西北方附近から北流してオホーツク海に注いでゐる。全長凡そ二十五里餘、舟楫の便に富み、其の流域には本島有数の農牧地内淵

鈴谷川

平野を展開してゐる。此の川も亦鮭、鱒等の産が多く、幌内川に次ぐ漁獲場として知られてゐる。

鈴谷川は豊原・真岡支廳の境上に峙立する留多加山に發し、南部中央凹地帯を南下して千歲灣に入つてゐる。流程約二十里に達する地方屈指の長流であるが、水深淺く舟運の便は極めて少い。けれども水路が縦横に曲折してゐるので、流域には所謂鈴谷平野をつくり廣大なる農牧好適地を發達させてゐる。

留多加川

留多加川は亞庭灣斜面第一の長流で、水源を前記留多加山の南麓附近に發し、鈴谷平野の西線を流れて千歲灣に注いでゐる。全長五十里、此の川も河口が淺いので船舶の溯航は許されないが、風波を避難することが出来るから、秋冬の時期には帆船、汽船の來避するものが少くない。此の川にも亦鱒を産することが多い。

低地

本島の低地は東西兩山脈の間にある中央凹地帯が大部分を占めてゐる。此の凹地は地盤の陥落によつて生成したものであるが、多來加灣の陥没が原因して南北の二部に分れ、同時に東部山脈をも兩斷して東北山脈(北)、鈴谷山脈、知床山脈(南等)としたものである。

北部低地

北部低地は幌内川とソヴィエト聯邦領ツイミ河流域とを連ねた低地で、邦領に屬するものゝみにても延長約二十八里、幅五里乃至八里にわたる廣大な低濕地である。其の殆んど大部分は所謂ツンドラ地帯で、而も夏季尙ほ溫度低く且つ泥炭質の地質上に蘚苔類が密生してゐるといふ状態であるから、到底農牧發達の見込みは立たない。けれども、住めば都よ



南部低地

我が里よて唯見る寂寞荒涼な此の低濕地にもツンドラ地帯に茂生する蘚苔類に馴鹿を養つて其の日くの生活を享樂してゐるギリヤクやオロツコ人などもある。  
南部低地は樺太山脈と鈴谷山脈との中央凹地帯に展開せる内淵平野・鈴谷平野及び留多加川河口の平野等で、南北の延長凡そ二十五里に亘り地味肥え交通亦便利なために早くより農牧の業も開け本島に於ける重要な繁榮地域となつてゐる。随つて此の地方の行政の中心たる豊原をはじめ留多加・榮濱・落合等の大小の聚落が各所に散在してゐる。

海岸

海岸は地形上之を東西南の三方に區別することが出来るが、北知床・中知床・能登呂の三半島によつて擁せらるゝ多來加・亞庭の二灣を除く外は極めて單調であつて、良港灣と目すべきものが甚だ少い。

東海岸

東海岸には北知床半島の北知床岬と中知床半島の愛郎岬との一線を劃する一大灣入があり、中に多來加灣などの大灣を抱いてゐるが、幌内川・内淵川附近の凹地帯を除けば概ね山岳海岸に迫つて絶壁・段丘をつくるどころが多く、榮濱・元泊・敷香等の三四港以外には適當な錨地が殆んどないといつてもよい。又北知床岬から國境に至る間の海岸も至つて平板である上に、東北山脈が海に迫つて斷崖をなせるところが多く、其の他は砂濱であるから到底船舶の出入は許されない。

西海岸

西海岸は延長約百三十里に達する海岸であるけれども、其の線は殆んど東徑百四十二度の子午線と並行して南北に縦走する有様で、屈曲甚だしく眞岡の外には良港と稱すべきものがないが、尙ほ小灣を控えて漁船を碇繋せしむるものには名好・鶴城・久春内・泊居野田寒・本斗等の諸港がある。乍併それ等は全く小灣入であつて暴風雨等の荒天の際には所詮船舶の碇泊が出来る港ではない。けれども前記眞岡港のみは本島唯一の不凍港で、冬季にも航運が杜絶することなく、且つ沿岸漁場の中心地をなしてゐるので、繁榮年とも加はり今や南海岸の良港大泊を凌がうとしてゐる。

南海岸

南海岸は中知床岬と西能登呂岬との間に彎入せる亞庭灣によつて占領せられ、内に大泊の南方對馬岬の西には千歲灣を劃してゐる。此の方面にも大泊の外には良港と目すべきものがないが、沿岸には鯨・鱒等の漁場として知られてゐるところが少くない。大泊は内地との交通上の重要港であるが、冬季には海面が氷結するので碎氷船を使用するの不便がある。

概観

C. 住民

邦領樺太の全人口は第一回國勢調査當時までは十萬前後であつたが、大正十四年十月一日第二回國勢調査の現在では二十萬三千五百四人となり、前回よりも實數に於て九萬七千六百五人歩合に於て九割二分二厘といふ殆んど倍數の増加を示してゐる。其の中の大部分は言ふまでもなく内地からの移住者で、之に約千四百の朝鮮人と二百餘の外國人と千八百の土人とが含まれてゐる。土人の中ではアイヌが最も多く、其の數千五百を算し、之に次ぐものはオロツコの二百餘・ニクブン即ちギリヤクの七十餘・キーリンの六・サンダーの一等で

内地人

あるが、一方里の人口密度は未だ九十人に達せず、北海道の三百九十人に比しても尙ほ四分の一に及んでゐない。

内地人は歴史的に相當早くから此の地方と來往してゐたが、多くは漁業を目的とする出稼者であつたから、冬季になれば大抵歸國して此處に永住するものは極めて稀であつた。けれども明治三十七八年戰役後其の南半が確實に我が領土となつてからは毎年永住者を増し、今や内地人のみにて十九萬六千を超え、之を南半領有當時に比較すれば約二十倍となつてゐる。これは、もとより政府當局の移民奨励に對する努力の効が現れたのには相違ないが、また以て一面此の地方の氣候風土が人間の居住に絶對に不適當ではなく、嚴寒も尙ほ之を凌ぎ得るばかりか、天産豊にして勤勞に正比する報酬を得ることが出來、生活上の脅威を感じざることを物語つてゐるものとも言へる。

アイヌ人

アイヌ人は東・西南の海岸地方に住み、其の數土人中の絶對多數を占めて一千五百人に近く、全土人の約八割に達してゐる。其の家屋は狹隘なアイヌ式が多く稀には露西亞式の丸太造に棲むものもあるが、概して卑陋不清潔なものである。彼等には文字なく曆日なく暑氣を感じれば夏の來れることを知つて河畔に鮭・鱒等を漁り、寒氣を覺ゆれば冬の近きことを思つて山野に狩獵する位である。随つて未だ農耕の法を知らず、其の生活程度は至つて低級である。

オロツコ人

オロツコ人は、中部凹地帯の幌内低地々方を中心として住居し、其の數は二百四・五十人に

ギリヤク人

過ぎない。彼等は主として馴鹿を牧養することを生業とし、中には一戸約百頭以上を飼養してゐるものもある。所謂水草を逐ふて轉住する遊牧の民で、馴鹿の放牧に適する土地に従つて住み常に一定の生活の本據といふものをもつてゐない。故に其の生活の程度はアイヌ人に比して一層低く、馴鹿を使用して糶を鞆かしめ又は貨物を運搬せしめ、野生馴鹿の肉を食用とし其の毛皮を以て衣服や靴をつくつてゐる。

ギリヤク人は主として北部地方に住み、現在の總數は七十餘人に過ぎないが、曾ては大陸内部にあつて相當の人數をもつてゐたらしい。今尙ほ黒龍江下流地方及びオホーツク海沿岸地方に此の種族の散居せることによつても之を證據立てることが出来る。彼等の主生業は漁業を營むことであつて、魚類をもつて常食とし魚皮又は海豹の皮でつくつた衣服を纏つてゐる。オロツコ人と同様に智慮乏しく一般に遲鈍であるが、巧みに馴鹿糶を操縦してよく勞働に堪える。

参考補説

1、農牧移民地の面積及び地味

本島領有以來農牧適地として既に選定調査を終へたる面積は十數萬町歩に達してゐるが、之に區別を測設し一區別は方三百間毎に六間幅の道路を設け、之を四分したるもの即ち百五十間四方(七町五反歩)を一戸分の標準としてあるけれども、地方によつては四町歩乃至六町歩のところもある。其の農牧適地といふのは各河川の沿岸でアカダモ・ヤチダモ・ヤナギ・ハンノキ等の下にボウナ・ナツバ・アザミ・ヨモギ等が茂生してゐる地で、上層は沖積壤土・下層は壤質粘土又は砂質粘土からな

農牧移民地の面積及地味

つてゐるから最もよく農牧に適し、而も全島到處の河川沿岸に分布されてゐる。次に針濶兩樹の混生せる平地若しくは傾斜地は、其の下生草木の種類により地味前者に比して多少劣つてゐるが、上層は腐植壤土又は壤土・下層は粘土若しくは砂礫からなつてゐて、またともに農耕・牧畜用地に適してゐる。其の他赤楊・落葉松等の生ずる樹林濕地及びアイヌワラ所生の草原濕地などもあるので、其の状態により改良を加へさへすれば益農牧地を増すことが出来る。斯くて是等の土地は移住者の希望により制規の許す限りは貸與して呉れることゝなつてゐるのである。

### 2、移住の手續と心得

樺太地方に移住しようと思ふものは樺太廳又は其の移住見込地所轄の樺太廳支廳に出頭又は問合せをなして指示を受ければよいのであるが、移住者はなるべく數戸の小團體を組織し、前記の諸廳に申し出で豫め承認を受けて渡航する方が便利である。何故なれば一時に多數移住する時は貸付地收容戸數に限りがあるので、規定の保護を受け得ざる場合を生ずるからである。又移住に際しては土地貸付出願に必要なので、戸籍謄本一通だけは携帯しなければならぬが、其の他の移住證明等の書類は入用としない。而して移住者の資格は大體本島に移住して開墾に従事するものとし、左の如き規定がある。

樺太ニ永住ノ決心ヲナシ家族ヲ携帶移住シ、家族中二人以上ハ農事ノ勞働ニ適スルモノアルコト。但シ單獨者ト雖モ志望確實ナルモノハ此ノ限りニアラズ。

旅費ヲ自辨シ移住後少クトモ一ケ年ノ糧食及ビ開墾ニ必要ナル費用ヲ支辨スルノ準備アルコト。

尙ほ樺太に於ける春期の耕種は四月下旬乃至五月上旬より着手するを以て、移住者はそれ以前に到着する必要があるけれども、三月までは航海が不便であるから成るべく早く準備を整へ置き、四月上旬航海の安

全になるのを待つて渡航する方がよい。けれども春期の移住は往々にして播種期に遅れることがあるから、資本の豊なものは前年の秋期に移住して小屋掛を造り、冬期は伐木等に從事して翌春の開墾に着手したならば事業の進捗上一段の利益がある。

又本島は四五月に至るも寒氣なほ嚴烈であるから、旅装は十分にして男女老幼とも足袋・脚絆・股引等を用意してなければならぬ。携帶荷物は衣服・家具・農具は勿論食料等もなるべく小嵩に而も堅固に荷造して、之に差出人・受取人の住所氏名を明記し、其の上姓名を記したる布切を荷物の中に入れて置く方がよい。渡航の道順は出發地によつて差異があるけれども、本島への直航船がある場合を除く外は便宜汽船又は汽車にて、北海道函館・小樽若しくは稚内に来り、同地より郵船會社の定期船・樺太廳の命令船又は鐵道連絡船等によつて、移住目的地により西海岸移住者は眞岡・野田寒・本斗等に、亞庭灣内・鈴谷・内淵原野移住者は大泊に上陸し、更に各目的地に陸行又は便船にて移住すればよい。其の族費は規定の汽車・汽船割引券がついてゐる筈であるから、豫め原籍地で下附を受け之を利用すればよいのであるが、本島内大泊・榮濱間五十七哩の鐵道だけは無賃乗車が出来ぬ。

### 3、移住後の保護及び特典

政府當局は此の地方への移民を奨励するために從來未開墾地は一戸につき五町歩乃至七町五反歩を無償貸付し、五箇年以内に牛馬一頭乃至二頭を所有して其の土地に居住し貸付地の十分の七から十分の八以上を成墾すれば、其の全部を無償で附與するとか、牛馬等の家畜を貸付し牛馬は五箇年以内に其の仔畜一頭を納付すれば母畜は借受人に附與するとか、其の他種畜の無料種付・買入補助、農具・種子・住宅の購入又は建築補助、共同牧場の無料使用等のあらゆる勸奨法を講じてゐるが、大正

地理の學習指導

八年以來は更に移住後六ヶ月以内に國有未開墾地貸付を受け、且つ其の貸付地内に一定の住居を構へて農業に着手したるものには移住費の補助を與へるとか、又移住の翌年八月末日までに其の貸付を受けた國有未開墾土地一町歩以上を開墾し、且つ作物を栽培したるものには開墾地を補助するとかと、移住者に對しては移住後も各種の保護と特典とを與へることにしてゐるのである。

D、産業

本島は其の位置が高緯度の處にあり、地形が南北に狭長である上に海流・風位等の關係によつて氣候に著しい變化がある。即ち夏季は比較的溫暖で百花一時に咲き亂れるの光景を呈し、農牧・漁撈・採木・採鑛の業亦一時に盛んとなるが、冬季は著しく寒冷なので海岸・地表の悉く凍結し航運は杜絶され産業は殆んど中絶の姿となる。其の年平均温度は氣温最も高き眞岡に於て攝氏三度二分、最も低き數香に於て氷點下零度八分の間にあり、概ね西南部より東北部に向つて温度が次第に遞降するので、西海岸地方が最も暖く、亞庭灣内地方・内部低地地方之に亞ぎ、東海岸が最も寒冷である。而して各地を通じて最も寒いのは一月で氷點下四十度以下に降ることもあり、最も暑いのは八月で三十二三度に昇ることもある。

參考補説

1、棒太に於ける平均氣温及び霜雪期節 本島に於ける各地の平均氣温は左の通りである。

第二 棒太地方

地名	種別	平均氣温				
		數	落	眞	大	豐
香	終	-20.6	-18.2	-11.1	-12.4	-16.0
合	終	-16.7	-15.0	-9.6	-10.8	-14.2
岡	終	-9.2	-8.2	-5.0	-5.7	-8.0
泊	終	-0.1	1.0	2.5	1.5	1.5
原	終	7.3	6.0	6.3	5.6	6.8
豐	終	8.2	16.3	11.1	9.7	11.0
大	終	12.5	10.1	14.6	14.2	15.1
眞	終	12.0	16.2	17.1	16.8	17.4
落	終	21.8	12.0	13.6	13.2	12.5
數	終	4.8	5.5	7.1	6.9	5.8
香	初	4.6	-2.1	-0.1	-0.8	-2.3
合	初	-14.0	-10.4	-6.5	-7.3	-9.9
岡	初	-0.8	1.0	3.3	2.6	1.6
泊	初					
原	初					
豐	初					
大	初					
眞	初					
落	初					
數	初					

尚ほ右の中大泊に於ける平均氣温を北海道の最寒地旭川と比較して見ると大體次のやうである。

比較表		地名 日別	平均 雨量(耗)
旭川	大泊		
1	-9.9	1	6.1
2	-8.9	2	
3	-4.2	3	
4	3.3	4	
5	10.0	5	
6	15.3	6	
7	19.2	7	
8	20.0	8	
9	14.5	9	
10	7.4	10	
11	8.0	11	
12	6.1	12	
平均		7.0	1,012
大泊		2.6	750

前表によつて見るときは樺太に於ける夏季は六・七・八・九の四ヶ月で、其の他は大略冬季となつてゐる。又雨量は概して少く我が國の最寡雨地に屬してゐることがわかる。

### 2. 海流及び風位と氣候

本島の近海には寒暖の二流が流れて氣候に多大なる影響を及ぼしてゐる。

暖流は日本海流の支流たる對馬海流が北海道の西岸に於て二つに分れ、一つは宗谷海峡に入つて又二派に分れ、東進して北見の海岸を洗ふものと、西能登呂岬の東方に於て亞庭灣に入り中知床岬を繞つて本島の東海岸を北上し北知床岬附近にて樺太寒流と遭遇するものとなり、他の一は北海道の利尻、禮文二島の西縁を洗ひ、直ちに海馬島近海から西海岸に沿ふて北流し、間宮海峡に入つて北西から流下し來るリマン寒流と會合してゐる。而して此の二派の暖流中東南を洗ふものは其の勢微弱であるけれども、ために以て夏季に於て濃霧を發生せしめ、航海者を苦しめることが少々でない。殊に中知床岬附近より亞庭灣頭に至る海面が甚だしく、海豹島の如きは夏期中濃霧を見ざる日は二分の一に過ぎないさうである。これ寒暖の二海流が其の近海に於て衝突することが主なる原因と見なければならぬ。之に反して西海岸を洗ふ暖

海流及び  
風位と氣  
候

寒流

流の勢力は極めて強く、リマン寒流を壓倒して沿岸一帯の氣温を高め、氷結を防ぐことが甚だ大であるから、彼の眞岡港の如き本島唯一の不凍港をさへも見せてゐる。

寒流はオホツク海方面から南下して本島の東岸を洗ひ、中知床岬近傍に於て二つに分れ、一つは南流して北海道北見沿海に下り、一つは西方に轉じて亞庭灣沖合を過ぎ西能登呂岬方面に向つてゐるが、殆んど本島の陸岸には接近してゐない。又オホツク海の西北部から流下するリマン海流は間宮海峡を通つて日本海にはいつてゐるが、主として底流となつて沖合を走り、而も大陸に沿ふて流れてゐるので、本島の西海岸に及ぼす影響は比較的に少い。これ此の地方の西海岸が東海岸に比して一般に氣温が高く、眞岡港などの不凍港を發達せしめてゐる原因の一つである。

風位が氣候に關係することも亦頗る大きいものであるが、特に此の地方に於て然りとす。即ち本島の東海岸の寒氣が激烈なのは單に寒流の影響ばかりでなく、冬期に於ける此の卓越風が北の地方の海岸で猛威をたくましくし、海洋的氣候と大陸的氣候との兩缺點をあらはすからである。此の寒風は管に東海岸のみならず西海岸にも吹き荒ぶものであるから、眞岡港附近こそ堅氷を結ぶことが少いが、北部間宮海峡近邊にあつては凍結の状態東海岸に譲らず、一・二月の頃には堅氷海を鎖して對岸の大陸と氷上を渡つて往來することが出来ることもあるさうである。

風位

産業概観

本島は上記の如く其の位置が北に偏在して冬季の期間が長く、且つ氣温が一般に低い上に人口密度も稀薄であり交通も不便なので、隨つて産業は未だ不振の域を脱してゐない。けれども近年は漸く移住者の數を増加し、開拓の專業も進んで來たので、農牧の業をはじめと

地理の學習指導

して林業・工業・鑛業等も稍見るべき發達を示し、特に水産業は此の地方第一の進歩を見せてゐる。

農業は露領時代から夙に意を用ひて保護と奨励とに力を盡してゐたのであるが、當時の農民は主として其の本國から追放された刑餘の徒であつたから、堅實の氣風少く土地を愛するの念を缺いでゐたため、自家用の麥類・馬鈴薯等を栽培する外は殆んど農業として見るべきものがなかつた。然るに我が版圖となつて以來は大いに移民を奨励し、開墾・耕作上の特典を與へて頗る勸奨に努めたものであるから急速の進歩を遂げ、今や鈴谷川・内淵川の流域・亞庭灣海岸地方及び西海岸の各地には耕地著しく増加し、其の面積既に二萬町歩に近く、麥類・馬鈴薯・豆類・蔬菜等の主要農産物を産出してゐる。之を領有當時の茫々たる草原又は森林地に比較し、或は大正二年の約五千町歩に對照したなれば、まさに長足の進歩と言つて差支がないのである。

左に最近に於ける本島主要産物の作付反別と收穫高とを掲げて置かう。

種類	作付反別	收穫高	價額
燕麥	四八、三三三反	一〇五、六二〇石	六七四、三二二圓
裸麥	六、四八一反	七、三四六石	一〇三、七七二圓
小麥	一、六五九反	一、四二一石	四三、四二四圓
大麥	六八八反	八三七石	一一、五九四圓

馬鈴薯	一四、六九四反	三、八一六、五五八貫	五四六、六四〇圓
豌豆	二、六九二反	二、七〇一石	四九、三四八圓
菜豆	一、五八二反	一、二八一石	三一、〇八八圓
蘿蔔	三、二七三反	一、七八六、四五四貫	二五四、三〇四圓

參考補説

1、開墾 は樹林地・草原地・濕地等によつて多少の難易があるが、樹林地では先づ伐木した後を唐鍬で手起しにし、樹根の漸く腐朽する頃となつて馬耕を行つてゐる。此の伐木は冬季を最も適當とするやうであるが、業務の閑散な時を見計つても行ひ、薪炭・木材等に供するもの、外は適宜に之を積み重ね小枝を交へて焼棄してゐる。又春季に移住したもので伐木の邊がなかつたものなどは立枯法を行つて耕作してゐるものもある。草原地は伐木の必要もなく根起しの手間もいらす直ちに馬耕が出来るので最も有利である。濕地の開墾は第一排水を施した後に馬耕を行つてゐるが、其の濕度が甚だしくないものは高畦をつくつて播種をしてゐる。併し本島は農作期間が短いので開墾當初には勝手不案内のため、往々にして播種の時期を失するものもあるやうである。而して開墾に要する努力は普通樹林地は一段歩十人乃至十五人、草原地は馬耕一日三・四段歩である。

2、耕鋤及び手入 の方法は新墾と再墾とによつて多少の相違があるけれども、融雪期後土地の濕度を見計つて直ちに着手し、馬力・農具を使用して古い畑地程丁寧になし、又秋期降雪前に翌年用ふべき畑地を耕鋤して置く方がよいやうである。春期は霜害の憂の少い作物から期節に遅れないやうに漸次播種し、播種が

種子

終つたならば除草・培土等の手入を怠ることなく、又病虫害の發生豫防・驅除等にも注意を拂はねばならぬ。  
3、種子 は總て氣候風土の甚だしく異なつてゐる地方のものを直ちに用ひても十分に生育を遂げないから一部の蔬菜を除く外は本島産の麥類・馬鈴薯・豆類を、鹽水選其の他の方法によつて能く精選した後用ひてゐる。

肥料

4、肥料 は地味の肥沃な新墾地では數年間無施肥のままに耕作しても相當の收穫があるが、漸次年を経るに従つて地力が減退するので施肥の必要を感じ、開墾後六・七年を経れば厩肥・堆肥等をつくつて肥料小舎に堆積貯藏し、必要に応じて其の都度之を用ひてゐるやうである。

牧畜業

牧畜業は未だ遅々として進まないが、元來開墾には牛馬等の動力が必要である上に、厩肥・堆肥等を取るのにも大切であるから、樺太廳に於ては最初から家畜の牧養を奨励し、前述の如く或は無料貸付・無料種付を行ひ、又は種畜の購入に補助を與へる等専ら牧畜業の普及に努力して來たので、逐年其の數を増し、現在では馬約四千頭、牛・豚各凡そ二千頭に及び、尙ほ次第に増加の傾向を示してゐる。其の他本島には舊土人の飼養せる馴鹿がある。馴鹿は卑濕低地に生ずる地衣類を食料とするので放牧に適し、性質は温順であるが力が強く貨物の運搬や橇を引かしの都合がよければかりでなく、其の肉は食用となり毛皮は被服材料となる貴重な動物である。

林業概説

林業は本島の重要財源をなすものゝ一つで、其の林野面積は頗る廣く三百三十五萬町歩を起し、總面積の約九割を占めてゐる。即ち海岸・河畔の一部・市街地・農牧地・湖沼地方等を除

けば全島悉く森林地帯といつて然るべきである。これ此の地方の氣候は寒冷であつて一



樺太の森林

般的にいへば樹木の發育に適しないが、濃霧多く濕氣の供給が十分である上に夏季は日が長く、随つて日照時間が多いのに加へて、毎年五月頃の融雪期後は溫度俄に上昇する等の原因で樹木の繁茂が著しいのである。林相は針葉樹林が第一で主に蝦夷松・椴松の混生林及び是等と落葉松との混生林で、又中には落葉松のみの單純林もあるが、概して針葉樹林は海岸より海拔四・五百米の間に亘り、森林全面積の約七割二分を占めてゐる。潤葉樹林は白樺・楊類・ヤマハンノキ・楡・ナ、カマド等が主なもので、白樺は主に山地の上部に多く、楊類・ヤマハンノキ・楡等は低地及び河岸に多い。其の面積は曾て森林總面積の約一割六分を占めてゐるが、低地の潤葉樹林は農牧地として開拓に適してゐるので、次第に伐採されて毎年其の面積を遞減しつゝある。又針潤混生地は潤

蝦夷松

蝦夷松及び蝦松は本島に於ける主要林木で、常に兩者相混生して到る處に其の美林を見せてゐる。直径八寸より一尺一・二寸に至るものが最も多く、中には高さ十八間・直径三尺に達するといふ大木をも往々にして見出すことがある。材質は稍柔軟で木理亦多少疎であるけれども、白色・帯紅白色等の光澤に富み、割り易く且つ工作を施し易いので、内地の杉若しくは扁柏の代用として建築用材・箱板・三方・木具・膳・折箱・箸・附木・經木・曲物・燐寸小箱・燐寸軸木及び製紙原料等として大いに賞用せられてゐる。

落葉松

落葉松は此の地方の各處に産するが、就中亞庭灣内地方の長濱より多蘭内に至る間、鈴谷・内淵の兩平原及び富内地方に最も多く、概ね單純林をなしてゐるが白樺・榎松・蝦夷松等と混生してゐることも少くない。樹幹十數間直径は四寸位より二尺餘に及ぶものもあるが、尺内外のものが一番澤山にあるやうである。枝少く材質稍々堅く木理も亦密であり、帯黃褐色をなし脂氣に富みよく水濕に耐え、而も光澤が美しいので、柱・長押等の裝飾的用材、船艦・橋梁・鐵道枕木・土工用材其他電柱等に用ひられる。(地理書十八頁下段のからまつの林參照)

白樺は本島潤葉樹中では其の分布蓄積の最も多いもので、材質が緻密・堅靱なので指物又は挽物材に供せられ、樹皮からは鞣革用の樺油を製出することが出来るが、此の地方では主に薪炭材に使用してゐる。尤も樺太廳では本樹を材料として木醋・木精を製する乾餾工場を有し、盛んにそれ等を生産しつゝある。

白樺

楊類

伐木及び運搬

楊類は河川沿岸の低濕地に生じ其の種類が甚だ多いが、中でもドロノキ・バツコヤナギ等が主なもので、是等は燐寸の軸木に適し又經木・下駄材等にも使はれてゐる。

伐木及び運搬は地勢が一般に緩かで伐出しが容易である上に河川が多いので筏流の便もある。但し冬期は河川が悉く凍結するけれども其の時はまた積雪堅氷を利用して撻出をなすことが出来、且つ地形上山元と海岸との距離が比較的近いので運材上の利便は極めて多い。乍併其の木材の輸送に關しては時期によつて積出に多少の不便があることを免れない。即ち春季四月から夏季一杯の間はさしたる影響もないが、冬季は風波が烈しく海水も凍結するので積出を見合せねばならぬことも屢あるのである。

工業概説

製材業

工業の主なものは製材業及びバルブ其他の木材利用工業と、水産物加工業等である。

製材業は大泊・豊原を中心として最も盛んに行はれ、中でも三井物産會社の大泊工場は新式機械を据ゑ、附け蒸氣動力を用ひる等施設完備してゐるので、多量の用材を豊富に産出して内地及び海外にまで移輸出してゐる。

バルブ

バルブは其の原料に適する木材が殆んど無限にあるので、それを利用して大泊・豊原・落合・其他の各地で盛んに之を製造してゐる。就中樺太工業會社・三井物産會社所屬の工場は何れも大規模であつて、其の生産額多く頗る將來を囑目されてゐる。

木材乾餾

木材乾餾は樺太廳經營の豊原乾餾工場に於て行はれ、白樺を主要原料としてゐるが、其他の針・潤兩樹木をも用ひ、これよりメチール・醋酸・石灰木タール等を製造してゐる。メチール



ル即ち木精はホルマリンの原料・消毒剤及び各種工業に用ひられ、醋酸は醫藥・染料として需要が多く、木タールはクレオソート・其の他の醫藥に使用せられるので、本島に於ける是等の木材乾餾工業も亦大いに前途有望とせられてゐる。

(水産加工業については水産業の箇處参照)

鑛業概説

本島が我が國の領有に歸するや政府は直ちに全島に亘つて地質鑛床の調査に着手し、重要鑛床並に鑛産物分布の調査を開始したるに、此の地方は鑛物の埋藏頗る多種豊富であることがわかつた。而して當時の發見にかゝるものは石炭・石油・砂金・硫化鐵の四種であつたけれども、爾後精査の結果は更に銀・銅等の鑛物が伏在することをも確めた。乍併現在採掘に従事してゐるものは石炭だけである。

石炭の埋藏は殆んど全島にわたり其の地域が頗る廣大で蓄藏の饒多なることはまことに無盡藏と稱すべきである。即ち曾て樺太廳の調査によれば鑛區總面積二億一千四百萬坪・炭層四尺乃至二十尺に及び、其の埋炭量は水準上一億七千萬噸・水準下三億五千七百萬噸といふのであつたが、實際近時に於ける推算定では十六億噸以上に達するだらうといふのであるから、如何に石炭が多量豊富であるかを知ることが出来る。のみならず其の炭質亦頗る良好であつて、採炭後の各種試験によれば九州炭・北海道炭に比して毫も遜色のないものが多いとのことである。即ち内淵・川上・北名好・泊居等の諸炭田から採掘した半噸乃至二噸の石炭については、骸炭製造・瓦斯製造及び汽機燃料試験を行つて見たが、其の結果は極

石炭

めて良好で北海道夕張炭に劣らないといふことであつた。惜しいかな採炭の實未だ舉がらず現今では此の無盡の寶藏から産出するものも僅に年額十六・七萬噸にしか達してゐない。左に此の地方の主要炭坑と其の經營者及び最近産出額の大要を掲げて見よう。

名稱	所在地	經營者	産額
川上	豊原郡川上村三井	三井鑛山株式会社	八五、五五二噸
泊居	泊居郡泊居町元澤	樺太鑛業株式会社	八、五三〇噸
東白浦	榮濱郡白糠村車白浦	樺太炭鑛株式会社	一、〇六一噸
登帆	元泊郡帆寄村登帆	登幕炭鑛株式会社	一四、五二〇噸
大榮	泊居郡名寄村大榮	樺太工業株式会社	五一、二八二噸
野田	野田郡野田町野田	王子製紙株式会社	六、〇四一噸

砂金

砂金は亞庭灣沿岸地方の鈴谷山脈・中知床山脈より流出する河川の礫床及びオホーツク海沿岸地方の東北山脈より流出する河川の礫床並に國境地方幌内川の上流から産出するが、中でも國境地方が最も多いやうである。一般に其の粒は小さいが採收が比較的容易なので、近年採收出願者の數を次第に増加しつゝある。其の他中知床山脈・東北山脈等の石英脈に屬する古生層地帯の所々には金鑛脈も散見するけれども、含金量が少く且つ未だ採掘の價値ある程の大金鑛は發見されてゐない。

石油の含油層が南吐鯤保・鳥舞地方を中心に全島に亘つて存在することは夙に専門家の

石油

認めてゐたところであるが、大正元年に至り本斗港を起點とする西海岸一帯に石油脊斜軸

の連続せるを發見し、本斗附近に其の優良な露頭を認めためたので、爾來試掘中のところ掘進百四十九間の箇處に於て油層に達着し、日産三十石内外の噴油を見頗る有望なので、最近議會の協賛を経て經費を整へ直ちに採油に着手してゐるが、含油量甚だ多く引續き掘進中である。尙ほ本島には本斗油田以外に野田寒・十和田地方にも優良な露頭が散在してゐるので、樺太廳當局では是等についても試掘中であると聞いてゐる。

水産業は林・工業ともに此の地方重要な産業で之が豊凶は直ちに一般經濟の消長に關し、延いては拓植行政上に及ぼす影響も少くないので、我が國領有以來は大いに之が保護獎勵に努め鋭意其の發展を企劃して來たのである。随つて現在では頗る盛況を呈し夏時の漁期には内地各地方から此處に來集して漁業に従事するもの甚だ多く、水産物總額は殆んど一千三百三十萬圓に達してゐる。



樺太に於ける鮭の漁場

其の種類は北海道と略々同様で鮭を筆頭に鱈・鱈等が多く漁獲され、又鱈・蟹・昆布等の産額も少くない。

鮭は本島水産物中の首位を占め全島の沿岸到る處で漁獲され漁場の數も甚だ多いが、就中西海岸名好附近を最も主要なる産地とする。是等の鮭は身缺鮭・鮭粕・鮭油等の水産製造物として、内地及び支那等に移輸出してゐるが、其の産額は實に五百萬圓に及んでゐる。

鮭は東海岸の敷香附近と西海岸の南名好近海が其の主要産地で、前者は多く夏鮭を後者は多く秋鮭を産出する。従來は之を大部分鹽鮭として販出してゐたが、近年に至つては秋鮭に限り生魚のまま冷蔵船に積載して北海道方面に搬出する途も開けたので、其の産額は次第に増加し今年産總額五十萬圓に達してゐる。鹽鮭は此の中の約三十萬圓である。

鱈は幌内川・内淵川等の本島東海岸に漁場が多く、大抵は鮭漁業者の兼營になるものである。産額は年の凶豊によつて著しい變化があるので確實に知り難いが、最近では一般に減少し略々鮭と同額の約三十萬圓位である。而もこれは現在では殆んど全く鹽鱈として内地へ移出してゐる。

鱈は西海岸真岡附近を中心に南方藻白に至る間を主産地とするが、東海岸内淵川々口の榮濱近海及び南海岸亞庭灣内にも多く棲み、其の分布は全島沿岸にわたつてゐる。これは主として棒鱈に製造して内地に移出するのであるが、産額は凡そ百二十萬圓を超えて本島水産物中の重要な地位を占めてゐる。

其他

其他蠔は中部の東西兩海岸並に多來加灣に産し、蟹は西南海岸から西海岸一帶に之を出し、又昆布は中部以南の海岸及び海馬島近海から多く産出する。中でも蟹は本島の特産水産物で主に之を罐詰に製造してゐるのであるが、其の産額甚だ多く年産約三百四十萬圓に達してゐる。

水産製造物については大體前記水産物の各項に述べた通りであるが、尙ほ此處にそれ等を一括して數量・價額とともに表掲して置かう。

種別	數量	價額	種別	數量	價額
鯨粕	六、三三、〇〇〇貫	一、三三、〇〇〇圓	鹽鮭	三、三六、〇〇〇貫	三、九六、〇〇〇圓
鯨油	—	—	棒鱈	八、三三、〇〇〇貫	一、一〇六、〇〇〇圓
身缺鯨	三、三三、〇〇〇貫	三、三三、〇〇〇圓	昆布	四、三三、〇〇〇貫	三、三三、〇〇〇圓
胴鯨	六、八、〇〇〇貫	三、三三、〇〇〇圓	鯨粕	三、〇一、〇〇〇貫	一、〇一、〇〇〇圓
鯨鱈	一、七、〇〇〇貫	五、〇〇、〇〇〇圓	罐詰	六、〇〇、〇〇〇貫	三、九六、〇〇〇圓
鹽鮭	三、三六、〇〇〇貫	三、九六、〇〇〇圓			

臘納獸

臘納獸は北知床岬の西南約十哩の海中、同半島の散江港から三十六哩の地點にある海約島に多く棲息してゐる。此の島は長さ六町幅一町・周圍九町の岩礁で、樹木もなく、飲料水もないが毎年夥しい約一萬頭臘納獸が此處に群集するので、米領のビルブロック群島及び露領のコンマンドルスキー群島とともに北太平洋に於ける臘納獸の三大棲息場として早く

から知られてゐる。毎年六月頃から十月頃まで此の島に集り、冬季寒冷の時期にはいと暖流につれて南下し福島・茨城諸縣の沖合から千葉縣の東海岸近海、さてはカリフォルニア・カナダの沿岸までも遠遊するものがある。尙ほ此處に明治四十四年日・英・米・露四國間に締結された臘納獸條約が適用されてゐることは言ふまでもない。(地理書二十頁上段の海約島のおつとせい参照)

參考補説

1、棒太の漁業制限 鯨・鮭は本島の重要水産物であるから、濫獲酷漁を防ぐために漁場を一定し免許を受けたものでなければ漁業を営むことが出来ないこととなつてゐる。其の漁具は建網と定め刺網其他の漁具は一切之を用ふることを許されない。又以上三種の他の漁業については明治四十二年までは漁業鑑札規則を以て鑑札を下附すべき漁業の種類を限定し、それ以外の漁業には全然従事することが出来なかつたが、明治四十三年の取締規則の改正とともに、釣・延縄・手繰網・曳網等は自由漁業とし、其他は許可を受くるの制となり、而して別に鑑札規則により許可及び自由漁業の二者ともに漁撈に従事するものは漁撈鑑札の下附を乞ひ、漁船には船鑑札を釘付しなければならぬこととなつた。更に本島に於ては各種漁業者の特別利益を増進するために水産組合を設け、建網漁業者間には建網漁業水産組合(亞庭灣・東海岸・西海岸聯合會)があり、雜漁業者間には西海岸南部水産組合・亞庭灣水産組合があり、罐詰業者間には西海岸罐詰業水産組合なるものがあり、以てそれら生産品の検査を行ひ之が改良發達を圖つてゐる。

2、棒鱈の製法と鱈肝油 棒鱈を製造するには先づ脊から三枚に卸し、頸を残して頭部及び脊部臟腑等

油法棒  
と鱈の  
肝製

業棒太の  
製鱈の  
漁

を除去して之を清水で洗ひ、腹部の上端を竿にかけて日光に晒し、乾燥すること約四十日にして多少彎曲した圓い棒状のものとなる頃にとりおろし、之を荷造りして市場に出すのであるが、食膳に上せるには一二時間水に漬けて後に調味しなければならぬ。支那人は之を柴魚と呼んで賞美してゐる。教科書十九頁の挿繪は本島西海岸に於ける棒鱈の乾燥場を示したものである。(取引については北海道地方水産業参照)、尙ほ此の鱈の臍中にある肝臓から製造した油は鱈肝油と稱して醫藥に用ひられてゐる。

概観

E、都 邑

本島は林産・鑛産・水産等の天産物を無限に包蔵する天然の一大寶庫であり無盡の富源でありながら、我が領有後の日尙ほ淺きと、其の位置の北に偏在して氣候が寒冷であり交通が不便であること等によつて、人口未だ二十萬内外に過ぎず我が國繁榮地域に所在する一都會のそれにも及ばないといふ状態であるから、随つて都邑の數も少くまた現況の殷盛でないことは當然であるが、中でも大泊・豊原・真岡などを以て稍々見るべきものとしなければならぬ。

大泊は亞庭灣に臨んで人口約一萬三千、本島第一の都邑で又最も重要な門戸に當つてゐる。北海道の稚内・小樽・函館の諸港との間に船舶が往來(稚内へ九十哩・小樽へ二百二)してゐるが、港内は遠淺であり且つ毎年一月以降は海面が全く結氷するので碎氷船を用ひなければならぬといふ不便がある。けれども近年樺太廳は巨費を投じて港灣を改修し、また碎氷船の使用を勵行してゐるので、結氷期間と雖も船舶の出入に妨げがない程度にまではな

大泊

豊原

つてゐる。のみならず樺太鐵道は此處を起點として内淵川河口の榮濱に達してゐるので、海陸交通の連絡に便が多く物貨の集散に都合がよい。市街は露領時代のコルサコフ(今の楠溪町)とポロアントマリ(今の榮町)との總稱で、街路廣潤且つ整然たるものがある。

豊原は元ウラジミロフカと稱した所で大泊の北方約十里・鈴谷平野の中央に位し人口約九千、附近には本島中最も廣大肥沃な原野があるので、明治三十九年市區設定以來次第に移住者の數を増して繁盛に趣いて來た土地である。此處から東海岸榮濱・南海岸大泊に通ずる鐵道あり、又西海岸真岡に達する道路があるので自ら形勝の位置を占めてゐる。樺太廳地方裁判所等あり、市街は新開地であるだけに先づ道路を定めた後に家屋を建てたので、大通は幅十三間に及び街衢井然規模が頗る壯大である。(地理書二十一頁挿畫參照)

真岡

市内から製材・バルブ・木精・醋酸石灰等の工産物を出してゐることは既に前にも述べた通りである。尙ほ市の東方郊外には全島鎮守の神として大國魂命・大己貴命・少彥名命の三神を祀れる官幣大社樺太神社が鎮座してゐる。

真岡は本島唯一の不凍港で豊原の西方約十九里の地點にあり、樺太西岸鐵道の間中に位してゐるので海陸交通の便に富み、水産物の取引が甚だ盛んである。人口八千餘、漁期には各地からの出稼人が多く來集するので、市況俄に殷盛を呈するに至る。

樺太には前記の都邑の外、敷香・元泊・榮濱・落合・留多加・本斗・野田寒・久春内・泊居・鶴城・名好等の小邑がある。中でも敷香・落合・野田寒・泊居・久春内・名好等は此の地方の名邑である。

其の他の都邑

第二 樺太地方

敷香

落合

野田寒

泊居

久春内

名好

概観

道路

敷香は東海岸北部に於ける唯一の物資供給地で、幌内川流域及び國境附近の獸獵者並に土人との特別市場である。

落合は樺太鐵道沿線の要驛で豊原の北方約十一里の所にあり、附近農牧地の中心であり殊に近く内淵炭田を控へてゐるので、其の採掘の進捗に伴つて大いに發展するであらうと豫想されてゐる。

野田寒は真岡の北方十二里、附近漁農部落物資の供給地である。

泊居は野田寒の北方十里の地點にあり、明治四十二年採炭試験場設置以來頓に發達した所で、灣内水深く暗礁却つて波浪を防ぎ、漁船の避難港として知られてゐる。

久春内は東西兩岸に通ずる最短距離の要地で、真岡の北方三十里餘、附近に於ける物資の集散地である。

名好は西海岸國境に近い要地で、秋鮭の主産地として有名である。

### F、交通

此の地方は人口が稀薄であつて産業も十分に發達せず、且つ地形が甚だ單調で良港灣に乏しい上に、氣候が寒冷なために冬季は海灣が凍結するので、海陸ともに交通は未だ不便であることを免れない。

露領時代に於て本島道路の稍々見るべきものは大泊・豊原を経て内淵川河口の榮濱に達する一線に過ぎなかつたが、我が版圖に歸して以來豊原・大泊・真岡等の市區設置に伴ひ、是等

の都邑を起點に道路の開鑿・修繕を企て、先づ樺太山脈を横斷して豊原・真岡間を連絡する道路の開鑿に着手し、明治四十一年に之が竣功を見て車馬を通ずるに至り、又大泊・豊原間・榮濱間の道路は一部の開鑿或は修繕を加へて、爰に三市區の連絡を取ると同時に、東・北・南・三海岸への交通を開き、次で大泊・富内間の道路の大部分を開鑿し、内部幹線道路・鐵道沿線道路・部落相互間道路の開鑿並に修繕を行ひ、又真縫・久春内間の道路を改修して中部に於ける東西横斷交通の便を開いたのである。其の後に至つても當局は尙ほ着々として此の事業を繼續斷行し、遂に現在の如く榮濱・敷香間・豊原・留多加間は言ふに及ばず、西海岸南北縦貫線の開鑿或は改修にも手を染めて、既に殆んど其の全通を見るに至つたのである。又此の地方の陸上交通には他地方に於ては見ることの少ない犬橋・馴鹿橋・驛遞・渡船等がある。

### 参考補説

- 1、橋類 本島は冬期の氣候が嚴烈で冰雪山野を鎖すことが多いので、陸上の交通機關には此の地方特有の大橋・馴鹿橋などの橋類がある。二者は其の構造に多少の相違はあるが大抵長さ十尺前後・幅一尺五寸内外の細長形なもので、旅行者は之に跨つて乗り、馱者は數頭乃至十數頭の犬や馴鹿に曳かしめ冰雪上を疾走するのである。積雪數尺に及び馱者と雖も容易に進路を定め難い時に於ても、彼等はよく方向を辨へ一定の道路を誤ることなく進行するので、之がために旅行者が得る利便は一通でないことである。
- 2、驛遞と渡船 本島は從來道路が不完全であつた、めに明治三十八年以來主要道路線には驛遞の開設を許可し、驛遞業者には土地の狀況によつて一定の補助を與へ、旅人の宿泊・人馬の繼立等を取扱はしめる

船運と渡

橋類

鐵道

こととしたので、今や全島此の設備の出來てゐないところは殆んどないやうになつてゐる。又主要道路線の河川にして橋のないところには補助金を支給して渡船場を設け、無賃或は低賃銀を以て旅行者を渡す等専ら陸上交通の便を圖つてゐる。

此の地方の鐵道は元軍用に供することを目的として敷設した輕便鐵道であつたが、明治四十三年六月三呎六吋式の本鐵道改設に着手し、同四十四年十二月大泊・榮濱間約五十八哩が全通したのである。而して曾ては此の外に本線の一驛小沼から川上炭山に至る約八哩の支線を有するのみであつたが、近年になつて漸く西海岸に本斗を起點として北方眞岡を經、野田に至る樺太西海岸線五十八哩四分が開通したが、中部以北には未だ一哩の鐵道もなく、我が國領土中に於て鐵道延長の最も短い地方である。

本島の航路は夏期に於ては海上比較的安全であり、且つ時恰も漁業期に當るので相當活氣を呈するが、冬期に至つては沿岸殆んど凍結し海上流氷の浮動をさへ見ることが多いので、西海岸眞岡港と碎氷船を使用する南海岸大泊以外の航運は殆んど杜絶の姿となるのである。今此の地方航路の主なるものを擧げて見ると大體左の通である。

- A、樺太廳命令航路
  - イ、東海岸線——小樽——亞庭灣内及び東海岸各地——敷香——敷江——海約島又は國境遠内（毎年五月より十月まで、船によつて毎月一回・二回・三回の別あり）
  - ロ、西海岸線——小樽——久春内——北名好又は國境安別（毎年四月より十月まで、船によつて毎月一回・

三回・六回の別あり）

ハ、大泊・稚内線——大泊——稚内（毎年五月より十月まで、毎月二回）

ニ、冬季線——小樽——大泊——眞岡——海馬島（碎氷裝置あり、毎年十二月より翌年三月まで、毎月三回）

B、遞信省命令航路

イ、函館・樺太線——函館——小樽——大泊——眞岡——野田——泊居

ロ、ニコライエフスク線——函館——小樽——大泊——眞岡——亞港——デカストリ——ニコライエフスク

ハ、函館・眞岡直航線——函館——小樽——海馬島——武意泊内幌——本斗——眞岡（毎月三回）

C、鐵道省連絡航路

稚内・大泊線——稚内——大泊（毎日一回）

D、社外商船航路

不定期であつて多くは函館・小樽を起點として眞岡・大泊等に至るも、漁期又は航海安全期には東西兩海岸の各地に航行し、特別の物資を移入し又は島産の木材・海産物等を移出するものが少くない。

G、北薩哈噠

北薩哈噠とは即ち北緯五十度以北の樺太地方で、一時我が保障占領地であつたが大正十四年一月廿日在北京日本公使館に於て開かれた日露條約の調印により、主權は確實にソビエ

概観

第二 樺太地方

地勢

エト聯邦のものとなり、我が國は此の地から撤兵することとなつたが同時に多くの利権を設定した地方である。南北約百四十里、面積凡そ二千六百三十万里、邦領樺太よりは稍々(約四百二十万里)大である。



地勢は此の地方も亦西部には樺太山脈が連亘し、東部には東北山脈があつて中部は一大凹地帯をなし、ツイミ河が兩側の水を集めて北流してゐる。全島概ね蝦夷松、白樺、落葉松、白樺等の森林に蔽はれてゐるか、又は卑湿なツンドラ地帯であるが、此の河の沿岸のみは地味が肥沃であつて農牧に適し、且つ交

氣候

通の便が多いばかりでなく、河中には鱒、鮭等の魚族が多い。氣候は其の位置が邦領樺太よりも北偏してゐるだけ、それだけ寒気が激烈であつて、而も寒暑の差が多く大陸的の氣候である。即ち一年中の最寒は一月頃で最低は零下四十五六

度を示し、地下六尺以上も凍結し、極暑は八月頃で最高九十度に達することも珍らしくないとのことである。

住民

住民の大部分は露西亞人で他にギリヤク・トングース・オロッコ等の土人と、日本人・支那人等が住み、土人の中ではギリヤク人が約四千を超えて最も勢力を有してゐる。露西亞人は少數の順良な本國移民も居るが、概ね帝政時代の受刑者又は其の子孫で、中には頗る不逞なものも交つてゐる。而も其の人口密度は僅に三人に過ぎないといふ状態である。

産業

産業は右の如く氣候が寒冷である上に人口が稀薄なので、地積が廣大であり地味が肥沃である割合には一般に發達せず、農業の如きは現在では唯馬鈴薯・野菜類の栽培が相當に行はれてゐるといふのに過ぎない位である。けれども野生の牧草は到る處の原野を蔽ふてゐるので、本島牧畜業の將來は甚だ有望視せられてゐる。乍併北樺太に於ける現在及び將來の産業は何といつても、林業・鑛業・漁業の三種である。故に我が國が這般日露條約に於て設定した主要利権も亦多く是等の上にかゝつてゐる。

林産物

林産物は森林面積が殆んど全面積の三分の二(二百五十萬町歩)にも及び、殊に西部山地々方には千古斧鉞の入らざる大森林も少くないので、木材の産出は極めて多い。其の樹種は落葉松を筆頭に蝦夷松・榎松・樅等之に次ぎ、白樺・赤樺・白楊・楡等の良林もある。

鑛産物

鑛産物は地質調査が不十分なために未だ十分にはわからないが、石炭・石油・砂金等が豊富に埋藏されてゐることだけは確實であるので、我が國も昨年の條約によつて其の中の石炭

水産物

都邑

アレキサンデル

ルイコフ

と石油との採掘権を得たのである。即ち石油は坑區の五十パーセント、石炭は封鎖區々域の二十パーセントを提供せしめたのである。

水産物は大體邦領樺太と同じく鯨を第一とし、鮭・鱒等の魚族が之に次である。而してそれ等の魚族には一定の漁期（鮭は六月・鮭は七月・鱒は五月より三期）があるので、之を數十の漁區に分けて毎年入札によつて日露兩國人に貸下けてゐる。

都邑は人口が稀少であり、氣候が寒冷な上に、産業も天産物に富みながら未だ十分に發達してゐないので、見るべきものが至つて少いが、唯本島の首都アレキサンデルと、ツイミ河沿岸のルイコフとは稍々繁盛な都邑をなしてゐる。

アレキサンデルは人口約三萬、北樺太第一の都會で、サガレン中央政府の所在地である。隨つて官衙・學校・博物館・監獄・漁船等の設備よく整ひ、又附近には石炭を多く産出する所があるので、其の取引が甚だ盛んである。邦人の此處に在留するもの約四千、殊に對岸のアレキザンドロウスキー港は大陸沿岸のニコライエフスク・デカストリー港と、ともにサガレン州の三良港の一つで、船舶の往來繁く、我が北日本汽船會社の函館・ニコライエフスク航路の寄港地となつてゐる。

ルイコフはツイミ河上流沿岸の都邑で、此の川の恩恵に浴して交通の便多く、附近の拓地植民大いに進み、人口も次第に増加して、今は内陸都市としての面目を保ち得るに至つてゐる。市内には河流を利用せる大規模の麥粉製造所があるので、著名である。

參考補説

1. 尼港事件と北薩哈噠

大正九年四月ニコライエフスク在留の我が同胞七百餘名が、彼の慘忍無道なるバルチザンのために虐殺されたことは未だ國民の記憶に新なるものであらう。當時内外の義憤公憤は燃えて再び日露の國交を危殆に頻せしめたが、我が國は無援の状況にある隣國の虚に乗じて事を構ふるを潔しとせず、遂に忍ぶべからざるを忍んで露領薩哈噠の或る地點即ち北樺太を臨時保障占領地域となし、帝國軍政の下に各種の政務を施行したのであつた。乍併こは全く秩序ある露國政府が成立して、尼港事件に關する満足なる解決を見るまでの一時的手段であつたので、我が國の利己的野心を遂行しようがためではなかつたのである。故に其の保障占領中に於ても露國領土の保全を尊重し、内政に對しては絶対に干渉せず、また露國領土内に於ける各國民の商工業に對しては常に機會の均等を遵守してゐたのである。隨つて最初占領の當時は過激派の殘留者も混入して物情自ら騒然たるものがあつたが、次第に日を重ぬるに従つて我が國の誠意を了解し、炭坑にも油田にも農場にも日露兩國國民が相提携して快く働くといふ状態にまでなつてゐたのである。然るに其の後露國には今の勞農政府が成立したので、我が國は勞澤全權を以て本事件の解決を促すべく其の折衝に當らしめ、こゝに勞澤全權は大正十三年五月より十四年一月二十日に至るまで約九ヶ月間七十七回（公式六十一回非公式十六回延時間五百時）にわたつて勞農政府カラハン全權と會見して交渉を重ね其の結果として漸く事件は落着し日露の國交は恢復して條約調印を見ることとなつたのである。

2. 日露條約と其の内容

日露兩國間の關係を律する基本的法則を包含する條約は大體左の通りである。

日露條約  
其の内容

尼港事件  
北薩哈噠



前文

日本帝國とサウエート社會主義聯邦共和國とは國交を回復せんことを冀ひ兩國間の懸案解決の大綱決定の爲め日本側は芳澤公使を、露國側はカラハン大使を各其全權委員に任じ各全權委員は相互に其委任狀を提示し其良好妥當なるを認め左の如く協定す

本文

第一條 本條約効力發生と共に兩締約國間の外交及領事關係を回復す

第二條 勞農政府は一九〇五年のポーツマス條約を完全有効と認めたる條約を除く以外一九一七年十一月七日以前に日露兩國間に締結せられたる諸條約は機宜に應じ後日の交渉に於て商議し其改訂、存續又は無効を決定す

第三條 本條約効力發生と同時に一九〇七年の漁業協約は同締結後に於て變遷したる事態を斟酌して改訂することを約す、改訂に至るまでの間は現行方法を適用するものとす

(註) 本條に關しては二通りの案が日本側から提出されて居たが其何れが採用されたるか未だ公電がない併し多分前掲のものが採用されたものではあるまいかと觀測される、又「變遷したる事態」の文字は種々の解釋を下し得る文字であり又「現行の方法」とは昨年四月締結した漁區貸貸契約の事である。

第四條 兩締約國は左の原則に依り後日の交渉に於て通商航海條約を締結することを約す、同條約締結までの間兩國間の通商關係も亦同則に依るものとす

一、締約國一方の國民は他方の國內に於て當該國の法律に依り

(イ)入國、旅行及び居住の完全なる權利を有し

(ロ)私有財産に對する完全なる保護を享受す

二、兩締約國一方の國民は他方國內に於て當該國の法律により私有權及商業、航行、産業其他の平和的業務に従事する自由を最大限度に於て享有す

三、兩締約國は當該國の法律により貿易關係を設定するに當り他方の國民に對し兩國間の經濟其他の關係を阻礙するが如き不當なる待遇禁止制限若しくは賦課税を適用せず

四、兩締約國は各相手國の商業航行及産業に對し出來得る限り最惠國民の地位に於ける待遇を與ふ

兩締約國相互の經濟關係を調整増進する爲め通商及航海に關する特殊の協定を爲す爲め機宜に應じ交渉を行ふことを約す

第五條 兩締約國は相互に相手國の治安を危殆ならしむるが如きことを差控ふるは勿論兩國政府直接支配の下にある總てのものをして(政府より何等かの財政的援助を受くる團體を含む)前記の行爲を抑制せしむ

兩締約國は相手國の全部に就て又は領土の何れの部分に於ても政府と僭稱する團體及其エージェントが現實に政治上の活動を爲すに於ては相互に之を其領域内に存立せしむることを許さず

第六條 兩締約國間の經濟關係増進の目的を以て勞農政府は露國領土内の資源に對する日本の必要に應じ日本政府、國民又は法人に對し鑛物、森林及其他の資源の開發を許與す

第七條 兩締約國政府は遲滞なく本條約批准の手續を執り相互に批准の旨を通告したる日より本條約の効

力を發生す

右證據として兩全權は本條約に署名す

附屬議定書

A 兩締約國は基本條約に基き一定の問題を處理せんがため左の通り約定す

一、日露兩國は相互に大使館及び領事館の建物、敷地其他附屬動産、不動産を交換す

但し勞農政府は日本に於ける露國大使館の敷地及び建物は市區改正の必要上其位置を變更するも異議なし

露國に於ける日本大使館及び領事館の建物及び敷地の選定については勞農政府は充分の便宜を與ふ

二、前帝政露國政府より繼承されたる日本政府及び國民に對して支拂はるべき公共借款及び國庫債券に對する債務は後日の交渉に於て商議す、日本は他の條約と同一にして特に該問題につき他の第三國よりも不利なる地位に置かれざるべし

締約國一方の政府若しくは國民の相手國の政府に對する請求權に關する問題も後日の交渉に委す

三、本條約が千九百二十五年二月中旬に効力を發生するものとして四月中旬より日本軍は北薩哈噠より撤兵を開始す、撤兵は區間を分ち露國官憲の到着次第第一區毎に之れを行ひ一箇月間に完了するものとす撤兵に關する諸般の手續については露國代表官憲と日本軍司令官とがアレキサンドルフスクに於て會商すべし

四、兩締約國は相手國の主權、領土 又は國民の安全を侵害又は脅威するが如き條約、同盟又は秘密條

約を第三者との間に現在締結し居らざることを聲明す

本議定書は基本條約の批准と同時に批准せらるべきものとす

右證據として兩國全權は本議定書に署名す

B 締約國は利權契約の基礎の中に左記條項を速に協議し日本軍の北薩哈噠撤兵完了の日より五箇月以内に協定を遂ぐることに同意す

一、勞農政府は日本政府指定の企業團體に日本全權の提出せる八月二十九日附覺書所載の北薩哈噠に於ける各油田地域五割の開拓權を賃貸すべく油田地域確定の爲め各油田は基盤形方形に分割し各方形區の全面積の五割を以て賃貸區域とす、各方形地域面積は十五デシヤチン乃至四十デシヤチンとす

賃貸方形地は相互に接続するを許さず又勞農政府保有の油田を賃貸する場合日本人は機會均等權を有す  
二、右の外薩哈噠東海岸に於ける一千平方露里地域に於て日本政府指定の企業團體に五箇年間開拓權を與へ開拓の結果發見したる油田は全面積の五割を前記企業團體に本議定書第一項と同様の計畫方法を以て賃貸す

三、日本政府指定の企業團體にゾーエ炭坑の採掘權を許與す

右以外北薩哈噠の地域に於て外國人に石炭採掘權を許與する場合は日本人に機會均等權を許與す

四、右石油石炭地域開拓の租借期限は四十年乃至五十年とす

五、前記日本人企業團體は勞農政府に對し石油については總產出額の一割乃至一割五分、噴出油井については四割五分、石炭については五分乃至八分の報償金を納附すべし、右報償金の具體的協定は後日の利

權契約に於て決定す

六、前記日本企業團は企業に必要な材木を伐採し且つ交通及び材料並に生産物の運搬を便にするため必要なる施設をなすことを得

七、前記企業團は物資及び生産品に對しては輸出入税及び其他の課税及び制限を免す

八、右企業團に對し露國官憲は凡ゆる援助を與ふべし

附屬公勞文

第一 下名の勞農政府全權は本春を以て千九百二十年沿海州ニコライエフスク市に起れる事件に對し勞農政府は深甚なる遺憾の意を表するの光榮を有し候也

月 日

カ ラ ハ ン

芳澤公使殿

第二 勞農政府は昨年八月廿九日附日本全權の覺書所載北薩哈噠の油田及び炭坑について日本政府の指定する企業團は日本軍の北薩哈噠より撤兵完了せる後五箇月間作業を繼續することを承認致し候也但し(一)右作業繼續については地域及び従業勞動者、技師及び機械の數等は八月廿九日附日本全權の覺書を嚴に決定すべきものなり(二)採掘したる石油石炭ば之を輸出又は賣却することを許さず其儘保存すべきものなり(三)右作業繼續の承認は將來の利權契約と關係なく後者に對し何等の影響を及ぼすべきにあらず(四)北薩哈噠に於ける日本の無線電信は使用を許さず

月 日

カ ラ ハ ン

芳澤公使殿

宣言書

勞農政府が一九〇七年九月締結のポーツマス條約の有効なることを認めたるは決して勞農政府が同條約を締結した前帝政々府と政治的責任を分つことを意味するものにあらず右勞農政府の名に於て宣言す

勞農全權カラハン

2、學習環境

A、地圖

大日本帝國全圖、樺太地方地圖、同上行政區分圖、樺太地方地勢圖、極東地圖、北薩哈噠地圖、等溫線分布圖、海流圖、樺太地方產業圖、大泊豐原・真岡の部分圖、開墾地分布圖

B、圖表

地方別面積比較圖表、水産物産額比較圖表、溫度比較圖表、人口密度圖表

C、實物又は標本

蝦夷松・櫻松・落葉松・バルブ・木精・木タール・醋酸石灰・ホルマリン・クレオソート・鮭・鱒・鱈・樺鱈・鯨・鯨・鯨・鯨・砂金・花崗岩・安山岩・流紋岩

第二 樺太地方

D、繪葉書・寫真類

日露境界標、落葉松・蝦夷櫻松等の森林、樺鱈の乾燥場、海釣島、鹽貯獸、ツンドラ地帯・流水、ギリヤク・オロツコ・トンクス等の土人の風俗、馴鹿、大橋、氷碎船、大泊、豊岡、真岡、アレキサンドル・ルイコフ・ニコライエフスク・デカストリーの實景を示すもの

E、其他

旅行案内、年鑑類、砂地圖、參考圖書

三、方法要項

- 1、此の地方は從來甚だ簡單に取扱はれてゐた傾向があるが、人口過剩問題で八釜敷い今日、此の自然の恩寵豊かな我が樺太は實に其のよいはけ、くちで、天然無盡の寶庫は移民者の來住を待つてゐるばかりでなく、日露條約の結果兩國の國交が恢復して、北薩哈嚙にも鑛産・水産・林産等の上に多くの優越權を掌握した現在では、此の地方も亦非常に有望多事となつてゐるのであるから、地理の學習に於ても相當精細に指導すべき必要があると思ふのである。
- 2、一課を一單元として自由に學習計畫を樹てしめることは前課の通りであるが、尙ほ此の地方に於ても北海道に準じて本島に多くの移民を送つてゐる地方の兒童に對しては、成るべくそれ等移住者の現況を中心に學習させる方がよいことは言ふまでもない。左に本課指導上の要點を羅列して置かう。

A、區域

區域の學習に於ては略圖を描寫せしめて、特色ある地形・四周・九支廳名等を記入させ、又地理書附圖によつて海岸線の測定・面積の算出等をなさしめて置く必要がある。特に本島現在の行政組織は大正十一年四月から實施されたもので、廳の下に支廳あり支廳の下に郡・町村を置くことは他の地方行政制度と殆んど同様であるが、其の機關たる町村長及び町村評議員なるものは、他の地方自治團體と大いに趣を異にし、町村長は廳長官の任命により、又町村評議員は支廳長が該町村在住者について命ずるものであり、且つそれ等は單に町村長の諮問機關に過ぎないものであるといふことなどを學習せしめて置かねばなるまい。

B、地勢

地勢は前記區分の略圖に色鉛筆を以て東西の兩山地帯と中央凹地帯とを描かしめ、水系・水系・低地・平野・海岸等の地相の概觀を把握せしむる位でよいと思ふが、幌内川沿岸の如き卑濕なツンドラ地帯も、鈴谷川・内淵川沿岸の如き肥沃な農牧平地も、地理書附圖には同一色彩を用ひてあるので、讀圖からはいる兒童達には動もすれば誤を來すことがあるかも知れない。故に指導者は此の邊にも注意を拂つてゐることが大切である。

C、住民・産業

住民と産業といふ人文方面の學習には位置と地勢と今一つは、其の位置・地勢等の自然方面の要素から必然的に影響して來る氣候といふものが重大な關係をもつてゐるもので

あるから、此の項の學習をするものには先づ位置・地勢等より氣候を研究せしめ、其の三者の上に立つて住民の稀少なる所以、天産物の豊なる割合には産業の未だ十分に發達せざる理由等の地人相關の理を掴ましめ、延いては内國的移民に最も好適する地方であることを會得せしめねばならぬ。随つてまた其のためには資料を與へて本島移住者に對する保護・特典乃至現在移住者の生活狀態等をも探究させ、兒童をして拓地植民の急務を知らしめる必要がある。尙ほ此の項の學習には地理書附圖第十四圖の樺太地方産業圖を活用させることを忘れてはならぬ。

#### D、都邑・交通

都邑の發生は必ず何等かの意義に於て人間生活の便利と交渉をもつものであるから本課の學習指導に際しても大泊・豊原・眞岡等の都邑については、其の現況を學ばしめると同時に各種の地理要素の上から之が發達原因を研究せしめ、人間の生活が土地の如何なる場處に於て聚落をつくつて行くかを探らせることが大切である。又交通が地勢・氣候等と關係を有することは勿論であるが、都邑とも密接の交渉をもつもので、即ち都邑を中心として言へば交通は都邑相互間の物資の需供乃至連絡を保つために開かれるものであり、交通を中心として言へば都邑は交通の便多き所に發達するものである。故に本課の學習に於ても此の間の消息を理解せしめて、此の地方交通の現狀に通ぜしむるとともに、

本島の開發を遅延させた主要原因が何處にあるかを探究せしめることに注意せねばならぬ。

#### F、北薩哈噠

此の項は教科書には記載されていないが、日露條約締結後の今日としては問題の北薩哈噠が如何なる着落を見、又如何なる土地であるか位の一通りは知らせて置く必要があると思ふのである。特に北薩哈噠は邦領樺太と境界を接する地方であり、歴史的にも將來的にも關係の深い土地であるから、之を沿革的に學習させて過去より現在及び將來に至る一連のものとして研究せしめて置きたいと思つてゐる。

### 3、本課の學習に際しては大凡次の如き諸點の補説を必要とするであらう。

- A、本島行政上の沿革
- B、農牧移民地の面積及び地味
- C、移住の手續と移住後の保護・特典
- D、氣候に及ぼす海流並に風位の影響
- E、開墾方法及び事業の概要
- F、伐木・運搬及び木材利用工業
- G、本島沿海の漁業制限

H、陸上交通の特殊機關

I、海上交通の航路系統

J、日露條約の顛末と其の内容

### 第三 臺灣地方

#### 一、指導要旨

臺灣地方の區域・地勢・産業・交通・住民・都邑及び澎湖諸島等につきて次の諸項の概要を理解せしめ、且つ瘴野蠻の蕃界も年とともに漸次王化に浴して、今日に於ては殆んど完全に新附の同胞四百萬を加へたることを知らしめ、此の地方が我が南門の寶庫たる所以を明かならしむると同時に、是等新附の島民に對する覺悟と態度とを決定させることを以て本課の指導要旨とする。

1、臺灣地方の位置と成立及び内地と相異なる行政上の區劃並に其の中心

2、臺灣山脈によつて分たれたる東部山地帯と西部平地々方との山野の分布・海岸屈曲の状態・河川の特徴等の自然的地勢と、産業・交通・住民・都邑等の人文的方面との交渉

A、特に産業に於ては氣候の恩恵によつて農業・林業が發達し、隨つて製糖・製茶・製材等の工業も盛であり、其の他鑛産物・水産物等も次第に其の産額を増加しつゝあること

B、住民には先住の土人・後住の支那民族等があるけれども、日一日と我が大和民族に同化せられて忠良の國民となりつゝあること

C、地勢との關係上西部平地々方の交通は大いに開けてゐるが、東部山地帯は未だ十分なら

ざる所があり、且つ此の地方の海岸は概ね單調であつて良港に乏しいので、海上の交通は一般に不便であること

D、是等に關係せる都會及び特色ある都邑の狀況

3、澎湖諸島の概要

## 二、指導準備

### 1、資料研究

#### A、區域

臺灣地方は我が國の最南部に位する臺灣島と澎湖島及びそれ等の屬島(臺灣本島の屬島計七十三)とから成つてゐて、東は太平洋に面し、西は臺灣海峡を隔て、支那の福建省に相對し、南はバシー海峡を挟んで遠く米領フィリピン群島に相望み、北は東支那海に臨んでゐる。

本島は南北に長く約九十七里、東西に狭い(最廣部に於て凡そ三十六里)島であつて、干潮時の總面積約二千三百三十二方里(屬島を含む)と計算せられ、樺太地方よりは稍々小さく九州本島(屬島を含まず)よりは稍々大きい。行政上之を五州(臺北・新竹・臺中・臺南・高雄)二廳(臺東・花蓮)に分ち、臺北にある臺灣總督府が管轄してゐる。

位置

面積及び區分

臺灣地理的位置

行政上の沿革

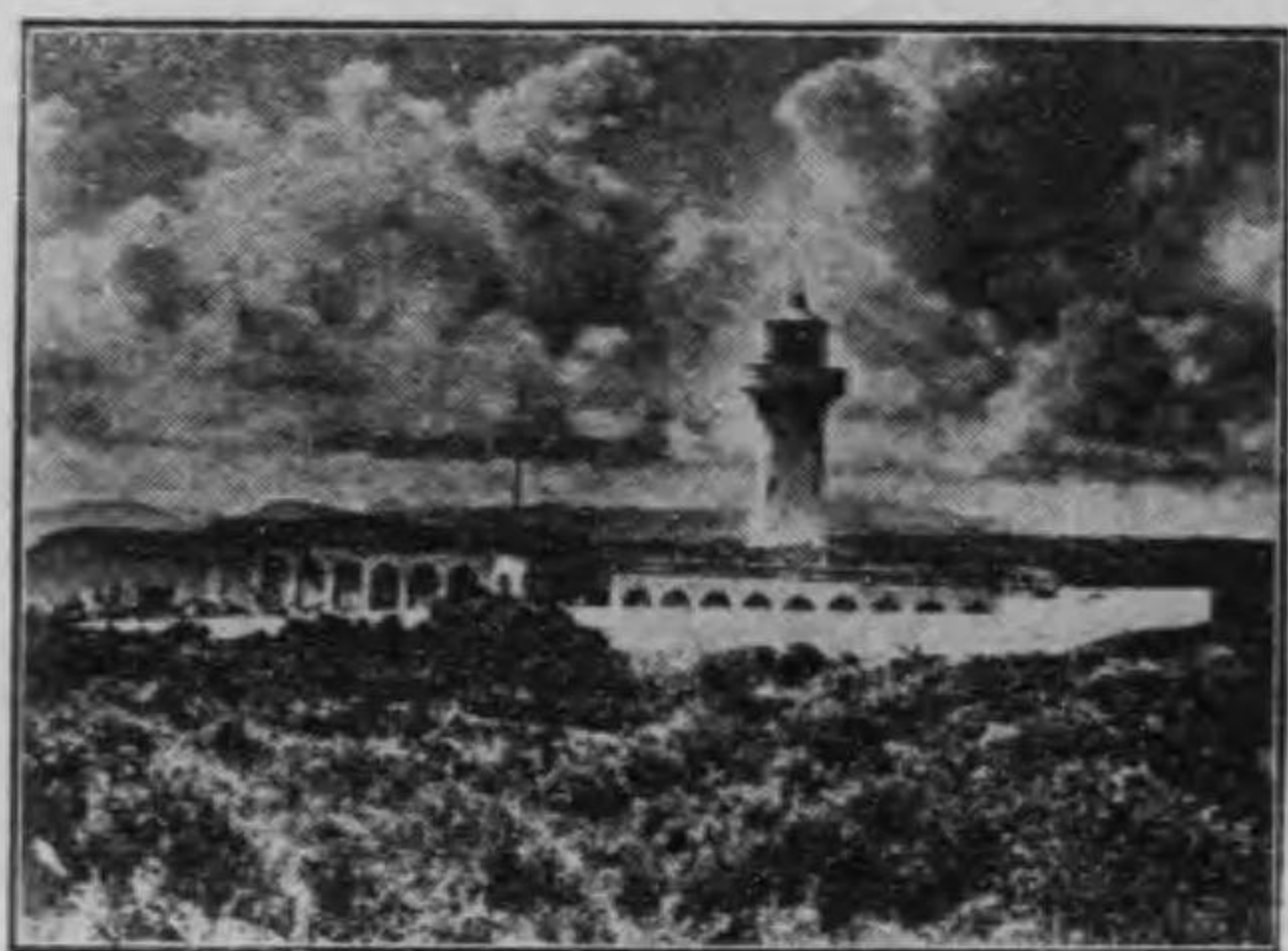
### 參考補説

1、臺灣地方の數理的的位置 極東は臺北州棉花嶼東端・東徑百二十二度六分、極西は高雄州澎湖島花嶼の西端・東徑百十九度十八分、極南は高雄州七星岩の南端・北緯二十一度四十五分、極北は臺北州彭佳嶼の北端・北緯二十五度三十八分である。

#### 2、行政上の沿革

臺灣が我が國との交渉を生じたのは足利時代の末葉に西邊不逞の民が此の島に據つて朝鮮・支那の邊境を侵した頃

にはじまるのであるが、公的關繫の發生したのは彼の明治四年の我が漂流民慘禍事件から明治七年の征臺出師になつたことが其の最初であつた。斯くて明治二十七八年日清戰役の結果確實に我が領有に歸したものであつて、當時の行政は全く總督府集權的政治であつたが、大正九年からは従前の十二廳を廢して五州・二廳となし、更に五州は三市・四十七郡に分ち、一廳は五支廳に區劃し、又郡の下には街・庄を置いて本島にも地方公共團體を設定して自治の基礎を制定したのである。而して之を統轄する總督府には總督・總務長官の

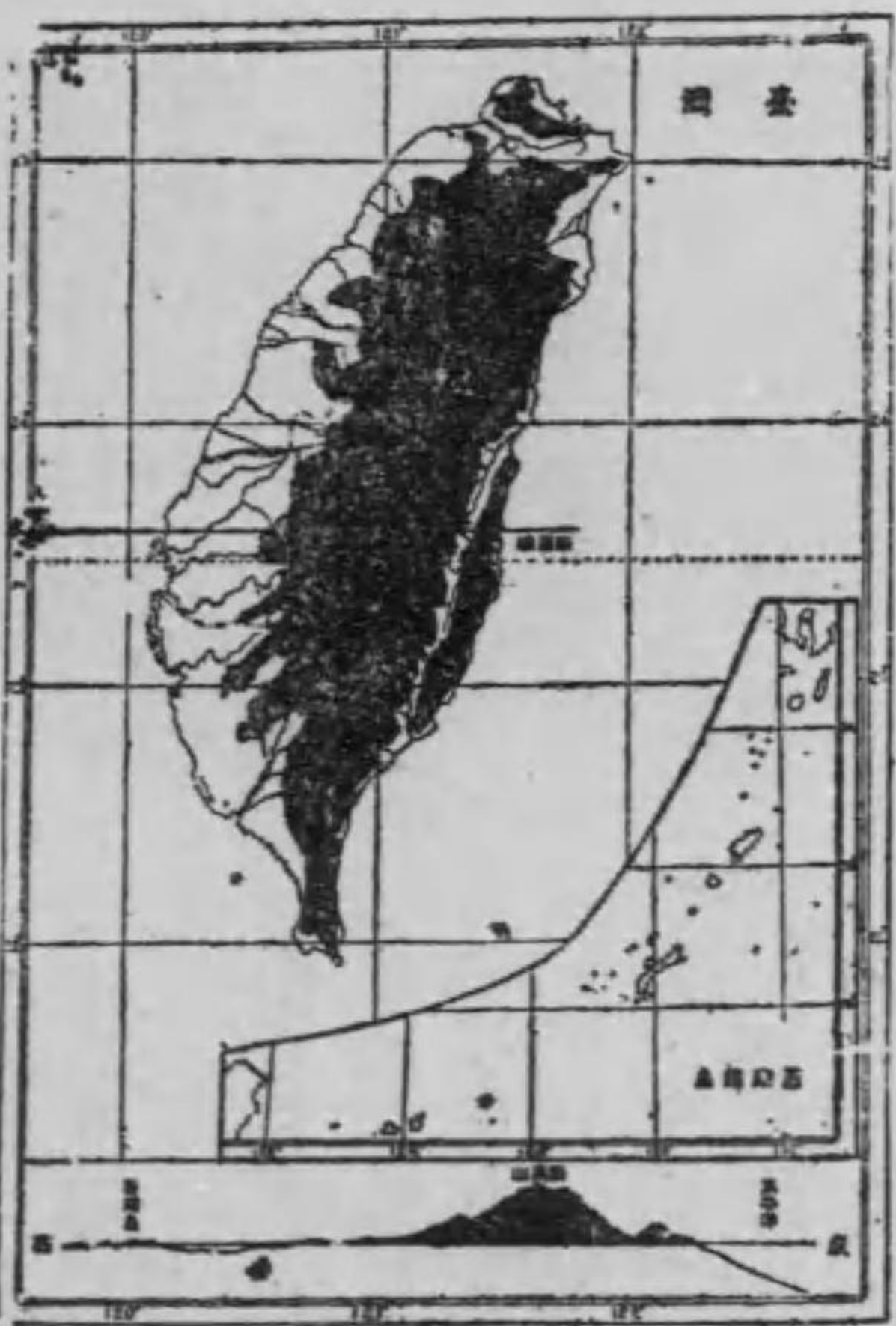


(鼻鸞鷲)臺燈の端南最國が我

外に内務・財務・逓信・殖産・土木・警務・交通・法務の八局があつてそれらの上に局長を置き、州には知事・廳には廳長を配置して管内を治めてゐる。尙ほ本島の州・廳は略々内地の縣に、郡・市・街・庄は都市・町・村に相當するものである。

B、地勢  
地理の學習指導

臺灣地方は南北に狭長な地形を其の地形に伴ふて(中央より稍々東偏せる略々三分の二のところ)臺灣山脈が走つてゐるので、自ら東西の兩斜面に分れてゐる。随つて河川は概ね此の脊梁山脈に水源を發して東西に流れてゐるが、其の分水嶺が東側に偏在する關係上比較的大河長流とも見るべきものは大抵西斜面を奔流して沿岸に平野を發達せしめてゐる。海岸も亦紡錘狀の地形に準じて出入屈曲甚だしく而も東岸は山脈海に迫つて絶壁多く、西岸は低平な砂濱に富んで良港少く、北部の基隆・南部の高雄も漸く築港によつて便利を得てゐるに過ぎない。且つ屬島も澎湖諸島を除けば紅頭・火燒・漁翁島等十四を算



臺灣地方地勢圖

するのみで其の數は至つて少い。

臺灣山脈は本島の東北方三貂角とドーム角との兩端に起り、島内の中央より稍々東側を南に縦走して南岬の岬角に於て海に没してゐる。脈中には我が國第一の高峰たる新高山

臺山  
臺山脈

(三九六二米)をはじめとして、次高山(三九三二米)・秀姑巒山(三八三三米)・マボラス山(三八〇六米)・南湖大山(三七九七米)・中央尖山(三七一五米)・關山(三六六七米)・大水窟山(三六四五米)・奇萊主山北峰(三六〇五米)・東郡大山(三六〇〇米)等の一萬尺を超える峻峯が甚だ多く



新高山

山勢頗る急である。中でも新高山は此の山脈の略々中部に位して新高山羣の盟主をなし山頂は數峰に分れ主峰嘉義新高(中央にある最高)の他北山(斗六新高)・南山(臺東新高)・東山(三八八二米)・西山(三六〇六米)等の高峰がある。此の山は古來支那人は玉山と呼び、外國人はモリソン山と稱してゐたが、我が領有となつてからは明治三十年六月二十八日先帝の聖旨に基づいて新高山と命名せられたものである。主として古生代の粘板岩から成り、山腹一千五百尺以下の地には榕樹・林投樹・檳榔樹・龍眼等の熱帶性植物が繁茂し、千五百尺以上六千尺の間には樟・檜等の温帶樹林があり、六千尺以上一萬尺の間には偏柏・紅檜・榲唐檜等を見、一萬尺以上には楸松・新高檜

等がある。教科書二十三頁の挿畫は西側阿里山の作業所附近から新高山を望んだところで、中央の高點が群山中の主峰嘉義新高である。又畫中の左端に見えてゐる樹木は扁柏を寫したものである。



臺東山脈

臺東山脈は本島の東海岸花蓮港の南方荖萊溪の河口から南して臺東の北方卑南溪の河口に至る約四十里餘に亘る山脈で、臺灣山脈と並行に縦走して中に模式的縱谷をつくつてゐる。山勢亦急にして時に海に入つて斷崖絶壁をなしてゐる所もある。岩層は中部分水嶺山脈が主として粘板岩から成るに反して、此の山脈は大部分泥岩から成つてゐる。

大屯火山脈

大屯火山脈は此の島の北端に近い大屯山(一〇九一米)を主峰として、西北は琉球列島の火山と相呼應し、西南は澎湖諸島に及んでゐる火山脈である。大屯山は頂上に直径三百六十米、深さ六十米に達する噴火口あり、數十年前までは盛んに噴煙をあげてゐたといふことであるが、今も尙ほ附近の七星山・竹仔山等の諸火山とともに多くの硫氣孔を開き、山麓には北投・金包里等の温泉を湧出させてゐる。

平地

本島分水嶺の西部斜面は河流も多く地域も廣いので、廣大な平野が各所に展開してゐるが、東部斜面は臺灣山脈と臺東山脈とが大部分を占めてゐるので、東北部の宜蘭平野と上記兩山脈の中間に介在する縱谷平野(臺東平野)とを除く外は殆んど山地である。随つて交通も不便であり産業も發達してゐなかつたので、長く皇化に浴することが出来なかつたが、近年は其の一部には鐵道も開通し内地の居住者も次第に多くなつたので、漸く開明の曙光を現はして來た。

宜蘭平野

宜蘭平野は臺灣山脈東北の陥落地帯で、其の中央部には濁水溪が流れて灌漑の便を與へてゐる。此の平野には米・甘蔗・甘藷等の農産物が多く、又近傍山地には樟樹が多いので樟腦・

臺東平野

樟腦油等の産出も少くない。

臺東平野は花蓮港の南方に注ぐ荖萊溪と臺東の北方に入る卑南溪と、其の略々中間部に於て太平洋に注いでゐる秀姑巒溪との三河流が脊梁山脈と臺東山脈との間に土砂を運搬堆積してつくつた狭長な縱谷平野で、此の地方も近時蕃族の征服につれて農村漸く開け、將來有望の農業地と目せられてゐる。

西部平野

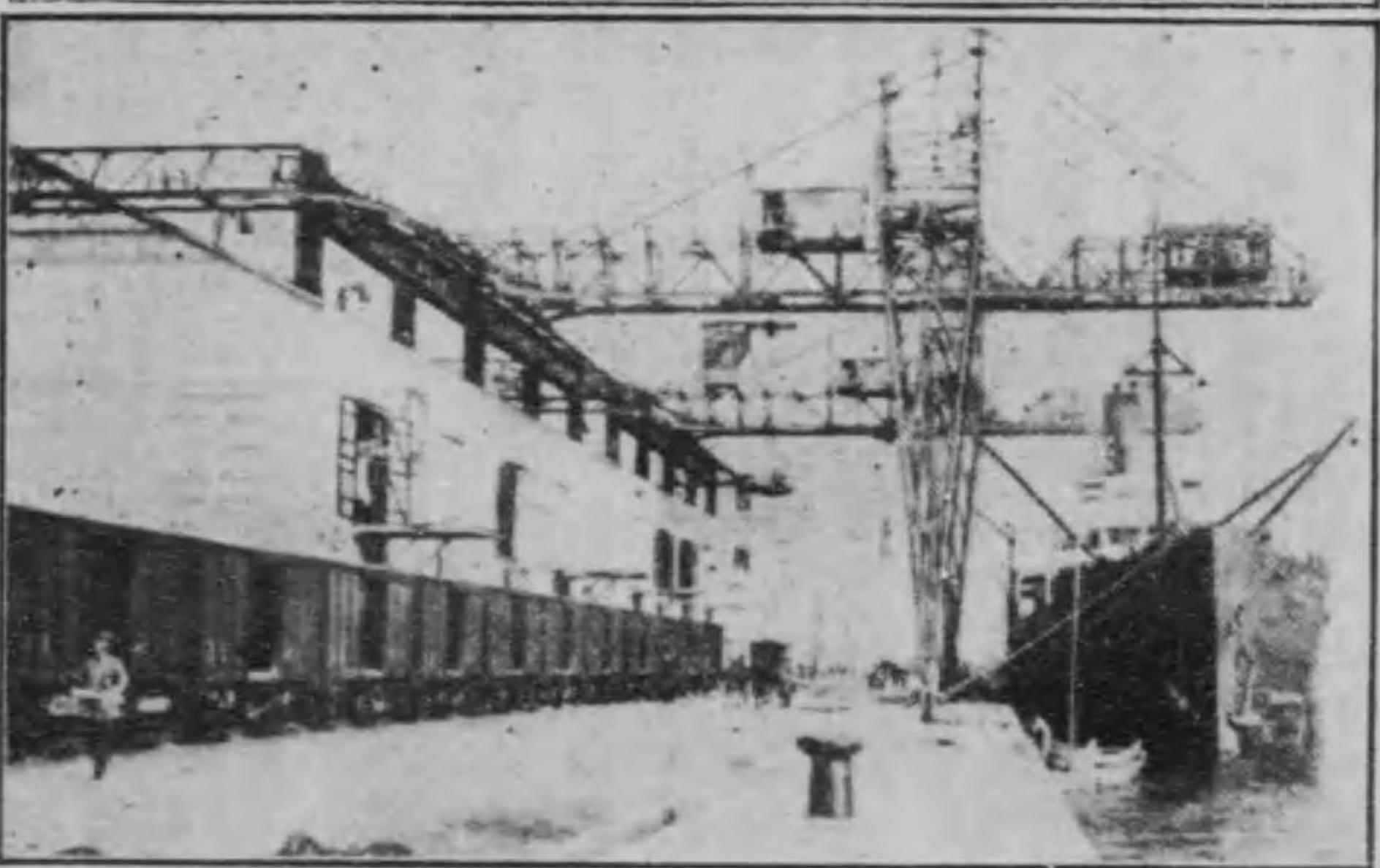
西部平野は淡水河・大甲溪・濁水溪・曾文溪・下淡水溪等の諸川の流域で、其の面積約七千方里に及び、地味肥え各種の農産物に富み實に全島中の主要地域をなしてゐる。中でも臺南の北部地方の如きは廣袤二十里に達する沃野開けて拓植大いに進み、其の北方臺中に至るまでの諸平野には米・甘蔗等の栽培が盛んに行はれ、淡水河流域の臺北盆地及び其の附近の丘陵地に於ける茶とともに本島重要な富源をなしてゐる。故に人口も多く殆んど全島住民の八割は此の西部平野地方に住んでゐる。

海岸

此の地方は海岸の屈曲少く随つて海岸線の短いことは我が國六大島中の第一である。即ち臺灣本島の周回全長約二百九十里之に澎湖諸島等の屬島の周回凡そ二十九里を加へて尙ほ且つ海岸線の長さは三百九十九里に過ぎなく、之を略々同等の面積を有する九州地方に比較すると漸く其の三分の一に達する位の狀態である。殊に西海岸は概ね遠淺の砂濱が長く續き、東海岸は斷崖多く就中臺東から大湖口までの間は「怪岩突兀・危礁磊塊・萬里の波濤之に激して飛沫白雪を噴くが如く、百雷を一時に耳にするが如し」と形容されてゐる程

地理の學習指導

であり、又北海岸も海岸線が至つて短いので基隆以外には自然的良港と目すべきものはな



高雄港とその岸壁

を施した高雄以外には良港と稱するものなく、其の他は唯僅に満潮時を利用してジャン

一四〇

く三海岸ともに船舶の出入碇繋には甚だ不便である。

西海岸が前記の如く砂濱に富んでゐるのは淡水・大甲・濁水・曾文・下淡水等の諸川が上流より多量の土砂を運搬堆積して砂洲を發達せしめたからである。故に此の方面に於ては淡水河の下流を利用した淡水と、海岸に設備

クが出入する位に過ぎない。高雄は北部の基隆港と併稱される本島南部唯一の良港で、西部縦貫鐵道の終點に當り鳳山線の起點にもなつてゐるので海陸交通の便に富み、横濱・香港・厦門・天津等に航行する定期船の往來が甚だ頻繁である。  
東海岸は山岳が直ちに海岸に迫つて峻崖が多く、殊にドーム角より南方十里の沿岸の如きは直立六・七百米の絶壁相連り怒濤岩を嚙んで到底船舶の近寄ることが出来ないところもある。所以、所詮良港と見るべきものは一つもない。けれども強いて擧ぐれば宜蘭平野・臺東平野の海岸に位する蘇澳・花蓮港・臺東の三港が稍々港らしい港をなしてゐるので、此の方面の三大門戸となつてゐる。

北海岸は三貂角から淡水河口に至るまでの海岸で、本島第一の良港たる基隆が此處にある。基隆は東・西・南の三面に山を繞らし水深く波靜かに、且つ近年は築港工事も完成したので大船巨舶の出入多く、其の上内地との連絡點及び西部縦貫鐵道の起點にも當つてゐるので、水陸交通の咽喉を厄してゐる。其の西北方に位する富貴角には白色不動の燈臺がある。

参考補説

1、高雄港 は長さ約三里幅八百間の一大鹹湖の口に位し、瀾口は旗後山・高雄山によつて圍まれ、其の幅僅に三十間餘、瀾内の水深は干潮面下僅少に過ぎない部分が多い上に港の内外には岩礁・淺瀬多く船舶の出入に困難であつたから、明治四十一年より築港工事に着手し、港内を浚渫し岩礁を除き港の設備を備へて、今日では干潮面下の水深十八尺乃至三十尺に及び、十二個の繫留浮標・四百八十間の岸壁も出來、起重機上

基隆港

屋等も備へられて八千噸級までの汽船なれば岸壁に六隻・繫留浮標は六隻を繫留せしめることが可能となり、こゝに舊來の面目を一新して本島南部の一大門戸たる偉觀を示してゐる。

2. 基隆港 は三貂角と富貴角との中間に彎入せる港灣で三面に山を繞らし北の一面のみ海に面せる自然的良港で、古來交通上の要地となつてゐるが、我が國領有の當時に於ては未だ港内淺く、且つ諸所に暗礁あり而も港口は北々西に開いて風波を避け難く到底不便たるを免れなかつたので、先づ明治三十二年より四ヶ年の繼續事業として應急設備を施し、次で又大正元年より十四年に至るまでの繼續事業として築港工事に着手し、現在では港内の浚渫も終へ岸壁其の他の建物も整ひ、水陸連絡の都合よく本島諸産業の發達と相俟つて、まことに臺灣島の北門としての活氣を呈してゐる。

河川

此の地方は南北に狹長な地形である上に脊梁山脈が之に並行して略々中央部を縦走してゐるので河川の長大なものはなく、最も長い濁水溪にして約三十九里之に次ぐ下淡水溪も亦僅に三十六里を出でないといふ有様である。其の他流程二十里以上のものには大甲溪、淡水河、卑南溪、曾文溪、大安溪、烏溪等があるが、何れも其の水源は高山から發して急角度に奔流するため山間部では急流をなし、平地部では徒に河幅のみを大きくして幾多の分流を生じ、且つ豪雨一度至れば忽ち氾濫の憂さへあるので、交通運輸の便を興ふことは甚だ少い。乍併是等の河川は氾濫の結果になる多くの水溜をもつてゐるので、河川の水が涸れて平野を潤すことに困難を感じるやうになれば龍骨車と稱する臺灣特有の水車によつて其の水溜から田畑に水を漉ぎ、教科書二十六頁の挿繪参照又は豫めつくられてゐる疏水運河

淡水河

の水を灌溉に利用してゐる。

濁水溪



臺北市の水道水源地

淡水河は臺灣山脈の北部の山中に水源を發し基隆・新店・大科尖の三大溪流より成り、臺北市附近で合流して臺北盆地を流走し淡水河に入つてゐる。全長二十四里下淡水溪とともに本島中の河川としては珍らしく舟楫の便に富む河で五・六十噸の小蒸汽船なれば臺北市まで溯航させる事が出来る。更に此の河の水は發電に利用せられ臺北・基隆等に用ひられ、又臺北市街の水道にも引用せられて市民の飲料水となつてゐる。

濁水溪は臺灣島第一の長流で其の源を合歡山の南方に發して西に向ひ、後山・前山を横斷して埔里の西南より平地に出づるや、本流以外に西螺・新虎尾・北港等の諸溪をはじめ大小數多の支流を分射して網狀に擴張し、本島の中部に於て海に注いでゐる。流程三十九里上流地方の粘板岩層を粉碎し運搬するため其の水常に黒く、こゝに濁水溪の名を得たのである。平時は殆んど水がないけれども偶々洪水を見るときは河水氾濫して隨所に大湖水をあらはし、交

地理の學習指導

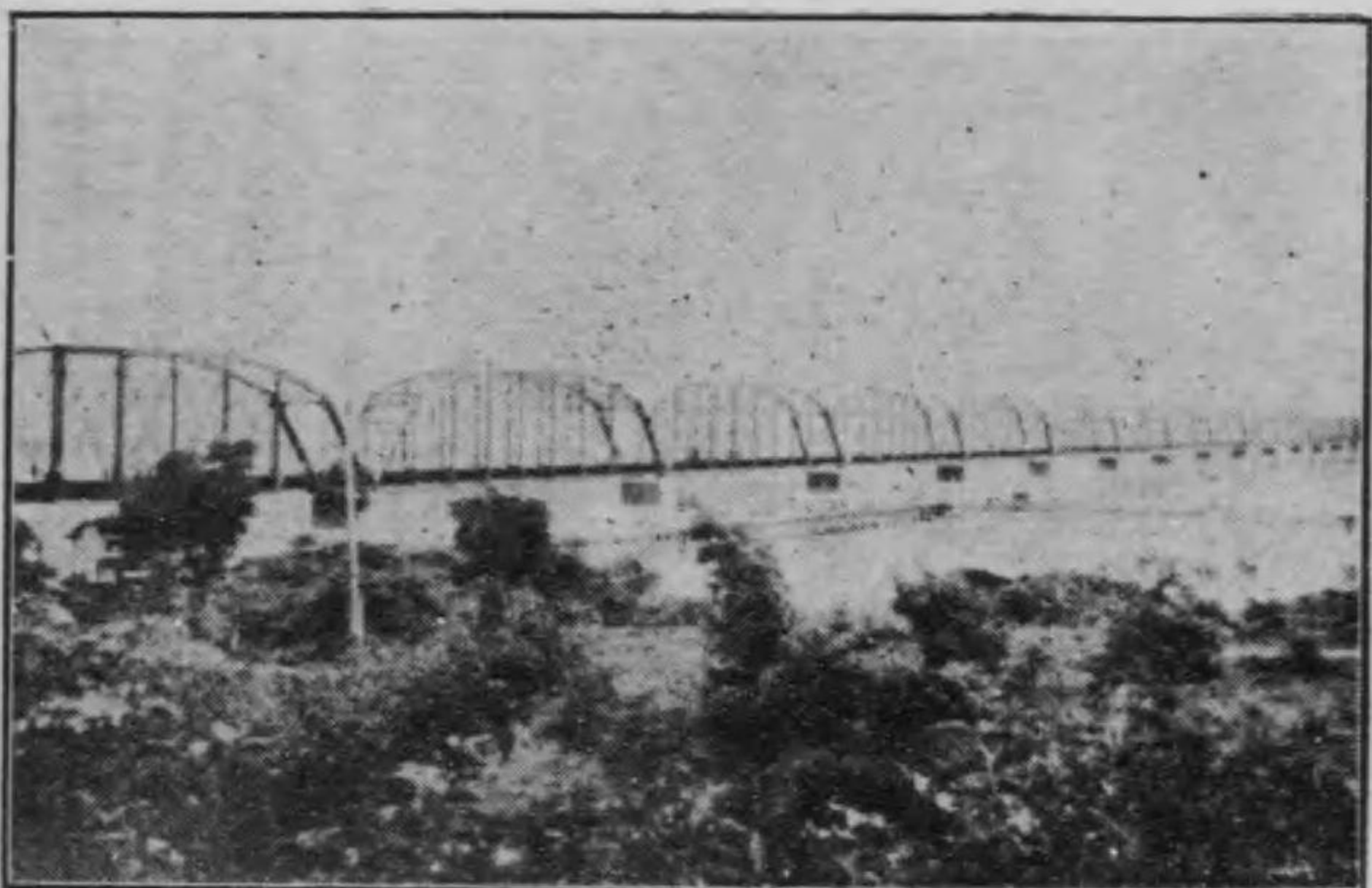
通が杜絶するばかりでなく流域の被害甚だしいものがある。蓋し本島の中央部陸地が次

第に廣大しつゝあるのは、主に此の川の氾濫による土砂の運搬堆積に原因するものであるらしい。

下淡水溪は濁水溪に次ぐ大河で長さ三十六里、水源を新高山の西方に發し、幾多の溪流を集めて屏東の西を流れ、網狀の三角洲をつくりつゝ南部平地を貫流して海に注いでゐる。此の河も亦氾濫の害を及ぼすことが少なくないが、淡水河とともに頗る利用價值に富む河で、河口から約十里の間は舟を通ずることが出来、又灌漑の便を與ふことも多く、其の上發電にも利用されて高雄・臺灣等の電力源をなしてゐる。更に此の河に架せる屏東・九曲堂間の鐵道は長さ五千尺に達し東洋第一の稱がある。

參考補説

濁水溪と發電計畫 臺灣電力株式會社は風光の美を以て古來有名な臺中州日月潭を貯水池として濁水溪の上流の水を取入れ之を水壓管によつて水裡溪に落し、こゝに約十三萬馬力の一大水力電氣を起すべき計畫を樹ててゐるが、仄聞するところによれば將來は此の電力を北は臺北・南は高雄までも送電し、本島西海岸地方に最も低廉豊富に電力を供給し、以て産業上に一大革新を與へようとしてゐることである。



下淡水溪の大鐵橋

C. 産業

臺灣地方は北は北緯二十五度三十八分から南は北緯二十一度四十五分に及び、北回歸線は略々其の中央(北緯二十三度二十七分)の地點を通過する(北回歸線は嘉義・水上間鐵路(五に)を通過してゐるので、溫熱二帯に跨り一般に温度高く、暑期が長い割合に寒期が短い。

溫度は高山地方を除く外概ね高いけれどもそれは内地人が想像してゐるやうに酷烈・暑熱ではなく本島南端に近い恒春の最暑月七月の平均温度にして尙ほ且つ二十七度六分



北回歸線標

で之を東京の同月温度二十四度に比すれば僅に三度六分の差に過ぎない位なのである。又此の地方の温度は緯度の差異上北部と南部とにより多少の相違はあるけれども、北回歸線の通過せる嘉義附近を境界として、急に其の南北の温度が變つてゐるといふのではない。随つて臺灣地方一帯の氣候は唯内地に比して暑期が長く寒期が短い上に暖くて春夏秋冬の區別

が認め難いといふ位なことである。其の冬に暖いといふ證據には中部以北に於ても霜は稀におりることがあるが高山以外には曾て降雪を見ず、又結氷は領有以來僅に明治三十四年二月臺北に於て一回といふレコードによつてもわかるし、南部高雄附近に於ては一二月の寒時に稻を植ゑ、勞働者は日中裸體で船の荷役に従事してゐるといふことによつても知ることが出来る。左に本島に於ける温度と内地の比較表攝氏を示して置かう。

月次/地名	臺北	臺中	臺南	恒春	長崎	東京
一月	一五・五	一六・〇	一七・二	二〇・六	五・八	二・九
二月	一四・七	一五・四	一六・八	二〇・二	五・九	三・七
三月	一六・九	一八・二	一九・六	二二・二	九・二	六・九
四月	二〇・八	二二・一	二三・四	二四・七	一四・三	一二・五
五月	二四・〇	二五・〇	二六・〇	二六・四	一八・〇	一六・六
六月	二六・六	二六・七	二七・二	二七・三	二一・七	二〇・六
七月	二八・一	二七・六	二七・八	二七・六	二五・五	二四・〇
八月	二七・七	二七・三	二七・四	二七・一	二六・六	二五・四
九月	二六・二	二六・四	二七・〇	二六・七	二三・五	二一・八
十月	二三・二	二三・九	二四・九	二五・三	一八・一	一五・八
十一月	一九・八	二〇・四	二一・五	二三・二	一二・六	一〇・二
十二月	一六・八	一七・二	一八・四	二一・四	七・七	五・二

雨量

平均 二一・七 二二・二 二三・一 二四・四 一五・七 一三・八

即ち臺灣地方の氣温は前表に見る如く夏と冬の差が内地に比較して甚だしく、又夏季の温度は内地と大差がないが冬季に於て著しく暖いことがわかる。

雨量は基隆及び其の南方の山中では東北風を受ける關係上九月より三月までが甚だ多く、臺北以南一帯は東風を被るために五月より九月までが多い。之を一般的にいへば夏は南風を受けて各地ともに多量の降雨を見るが、冬は専ら東北風の影響に支配されるために、土地によつて甚だしい差違がある。即ち基隆附近は連日の降雨であつても南に趣くに從つて次第に減少し、臺中附近から南部一帯は殆んど無雨の状態に變ずるといふのが常である。随つて其の地方は夏季に多て多量の降雨に苦しむにかゝはらず、冬季は早魃に苦しむことが往々にしてある。次に本島に於ける毎月平均雨量(毫)を掲げて見よう。

第三 臺灣地方

月次/地名	基隆	臺北	臺中	阿里山	恒春
一月	三四五	九七	四一	七〇	二六
二月	二九三	一二八	六〇	七〇	二九
三月	三九二	一七七	九〇	一一五	二六
四月	一八〇	一三一	一〇四	一六四	四五
五月	二八九	二二二	二三六	六一六	一八六
六月	二〇三	二六七	三五三	六二五	三九〇

七月	一一一	二二五	二九八	七八八	三九四
八月	一四六	三〇四	三五〇	七一五	六〇一
九月	二五六	二七一	一五二	四九八	二七六
十月	三〇五	一〇八	一五	一二四	一二八
十一月	三〇五	八一	二一	七三	四四
十二月	三一四	八六	二二	五三	一六
計	三、〇八九	二、〇九七	一、七四一	三、九一一	二、二〇二

風位

風位は夏季の南風と冬季の東北風とが主で、前者は概ね風力が弱く且軟和であるけれども後者は屢々強烈なものがあることがある。殊に本島は颶風の進路に當つてゐるので年々平均約二回は必ず其の襲來を受けてゐる。(明治三十六年には六回、大正三年には七回、五年には一回、五年とには一回もなかつた) 颶風の猛烈なものになると田畑人畜に及ぼす害が甚だ少くない。



阿里山 本島は上記の如く氣温が高い上に雨量も多いので樹木の生育に適し、巨大な檜や樟又は熱帯植物であるが、じまゝや檳榔樹などが森林をなして繁茂

産業概観

してゐる外に竹林も多く、その他バナナ、パイナップル、リエンゲン(龍眼)等の美味な熱帯果物も澤山にみのつてゐる。檜は本島特有の紅檜が主で海拔三千尺乃至八千尺の高地に生育する植物で、建築材として賞揚せられ殊に水管、枕木などとしては臺灣産のものが無比の



リエンゲン(龍眼)



パイナップル(鳳梨)

良材といはれてゐる。中でも阿里山の檜材が最もよく著れ、其の神木と稱せらるゝものゝ如きは周圍六十四尺・直径二十一尺・全長百三十尺、樹齡三千年に達するといはれてゐる。又樟は東洋の熱帯區に産する樹木で、臺灣では中部以南の暖地海拔三千尺乃至四千五百尺の

第三 臺灣地方

ところに最も多く繁茂し、木質硬堅・木理緻密であつて器具類・船艦材・建築材等に使用せられる他、此の樹からは樟腦・樟腦油等が採れる事は何人も知るところであらう。が、いまは榕樹の一種で琉球及び本島には到る處に生育してゐる。氣根が長く伸びて地中に入れ敷幹數十幹相錯綜してゐるのが此の樹の特色で、並木又は防風林として移植せられ、其の材は盆・皿・鉢等の器具用に使はれることが多い。更に檳榔樹は馬來半島が原産地で、アジヤの東南部熱帯區に多く繁殖し、本島では中部以南の地方に繁茂してゐる。樹皮からは纖維を取り材は建築用となり、又其の青果は土人の好んで用ひる興奮性の咀嚼物である。前記の樹木



嘉義附近の竹修

とともに特筆大書すべきものは此の地方の竹林で、其の蓄積は實に無盡藏と稱せられてゐる。中でも嘉義附近には有名な修竹の純林がある。随つて竹材の利用が大に行はれ、臺灣特有の竹紙原料及び建築材となつてゐることは勿論、日常の器具・工藝品等にも甚だ多く使用されてゐる。斯の如く此の地方は植物の生育繁茂に適してゐるもので

農業

あるから、産業として先づ發達したものは農業・林業であり、之に次いで農産物・林産物を原料とする工業が盛んとなり、又鑛業・水産業も次第に隆昌に趣いて來たのである。

農業は臺灣地方の主要産業の一つで、住民の約六割五分は之に従事してゐる。曾て支那の領有時代には此の天與の農業地も殆んど荒蕪に委して顧みられなかつたが、我が國の版圖となつて以來は偏に保護と奨励とを加へたので、開墾耕種の實大いに揚り、其の耕地面積も次第に増加して、明治三十二年には三十六萬六千甲（一甲は二千九百三十四坪即ち〇・九七八町歩に當る）であつたものが、大正五年には七十三萬八千甲となり、又最近では約八十五萬甲に達し、其の生産額は凡そ二億圓に及んでゐる。中でも主な農産物は米・甘蔗・甘藷・バナナ・茶・落花生等である。

米は主に中部平地より北部平地にかけて多く産し、年二回の收穫があるために作付反別も最も廣く五十二萬三千甲を超え、約四百九十萬石（凡一億萬圓）の生産額を見せてゐる。而して本島に於て栽培せらるゝ稻には水稲と陸稻との二種があり、其の植付並に收穫の時期は地方によつて多少の相違はあるが、大體第一期作は十二月より二月までに苗代をつくり、一月より三月までに植付をなし、五月より七月までに之を收穫し、又第二期作は第一期作の收穫時前後に苗代をつくり、七・八月頃までに挿秧を終へ、十月から十二月頃までに收穫するのが普通である。

甘蔗

米

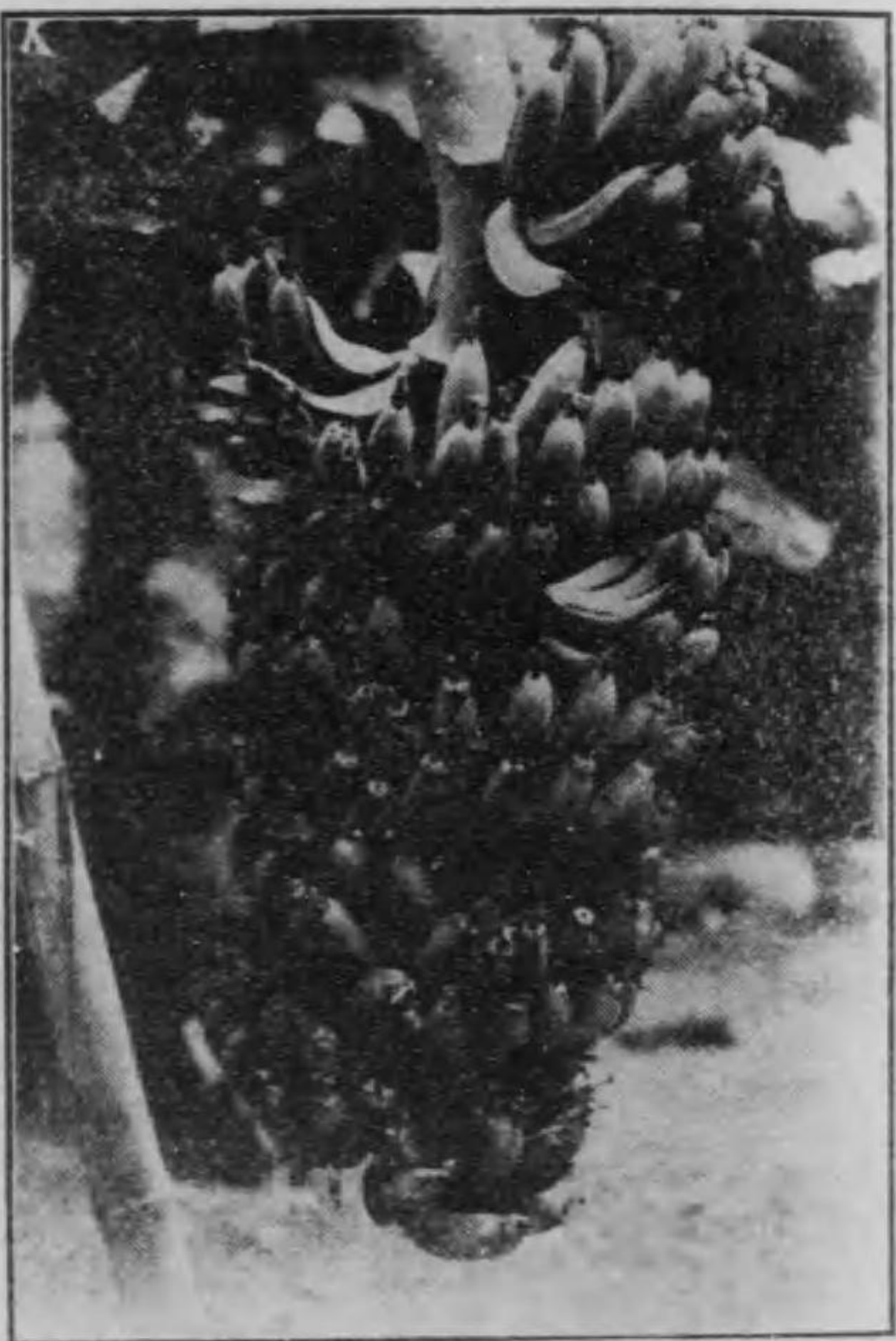
達し六十六億三千二百萬斤(約三千一百萬圓)の收穫高を示してゐる。在來種は糖質が劣惡で且つ收穫高も少かつたので、我が國領有後の明治三十六年に至つて臨時臺灣糖務局を設置し布哇よりローズバンブー・ラハイナ等の優良品種を輸入して、鋭意更新改善に努むるとともに耕作法の指導にも力を盡し、遂に今日の盛況を見るに至り現在では内地に於ける砂糖消費量の約六割強を供給するといふ状態にまでなつてゐる。随つて屏東・嘉義を中心各地の製糖工場では盛んに粗糖・精糖等を製造してゐる。地理書二十七頁の挿畫は改良種甘蔗生育の身長と比較したもので、一丈以上にも及んでゐるものゝあることが認められる。

甘蔗は栽培分布が甚だ廣く殆んど全島到る處に耕作されてゐるが、特に西部平野地方を主産地として、最近の作付反別は十二萬五千甲を超え、十六億斤(一千五百五十萬圓)の生産額をあげてゐる。これ甘蔗は本島農民の重要食料品であり、且つ氣候との關係上四時栽培が可能である上に、酒精・澱粉等の原料に使用せらるゝ等其の用途が極めて廣いからである。

バナハはバインアツブル・リエンゲン(龍眼)とともに本島に於ける三大移出果實中の一つで、全島何處にも栽培されてゐるが、中でも其の主産地は臺南・臺中・臺北の三州で年産約六千萬斤に達し、其の過半(凡そ三百万圓)は内地に向けて移出されてゐる。此のバナハは芭蕉科に屬する熱帯性の草本で高さ二丈内外に及び、果實は弓形を呈し本島産のものは極めて美味である。序でながらバインアツブルとリエンゲンについて附記すれば、バインアツブル

甘蔗

バナハ



バナハ

は臺中・臺南・臺北等の諸州を主産地とし、年額約八百萬斤、果實は長楕圓形をなし水分に富んで其の味よく、生果のまゝ又は罐詰として支那及び内地に輸出されてゐる。此の植物の葉の纖維からは鳳梨絲を取つて織物にも製造することが出来る。リエンゲン即ち龍眼は喬木性の植物で梢頭に圓形の果實を房状につけ、其の味亦佳良であつて生食に適するけれども貯藏にたえないので多くは乾龍眼或は龍眼肉として輸出されてゐる。其の主産地は中部以南殊に嘉義・高雄附近を中心とし年産約一千萬斤中毎年凡そ百萬圓ほどを輸出してゐる。

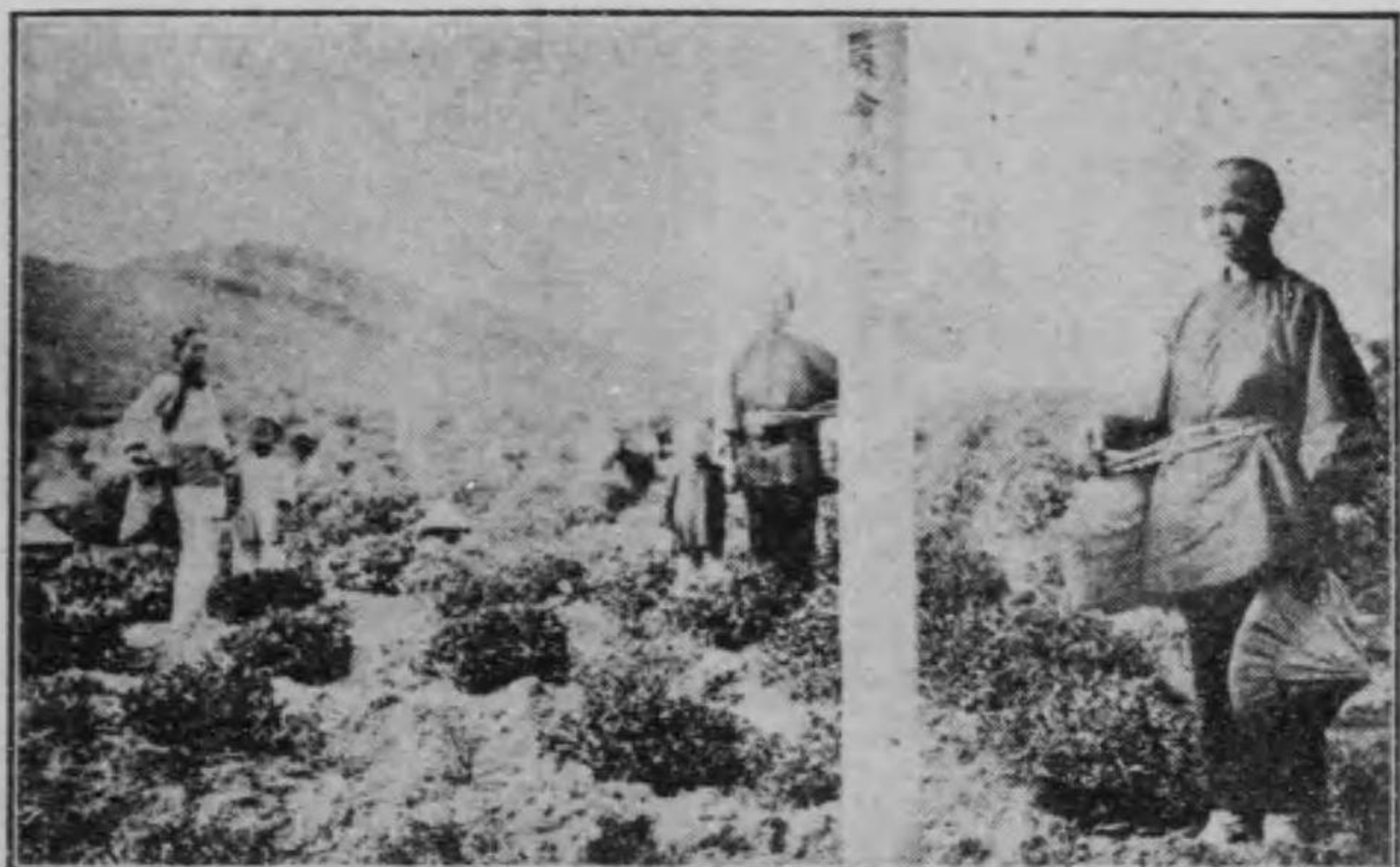
茶も亦本島の氣候風土が其の栽培に適してゐるので北部地方殊に臺北・新竹の二州に多く、年に十數回の摘葉が出来るので茶園總面積は次第に増加して現在では約四萬三千九百甲に達し、産額は二千二百二十六萬斤(六百二十九萬圓)に上つてゐる。茶樹の品種は烏龍・大葉烏龍・黃柑・白毛猴・時茶及び雜種等があるが、中でも烏龍と大葉烏龍とが最も優良で茶園

茶



落花生

北  
海  
の  
米  
作



桃園農會茶業試驗場の茶園

總面積の約六割は之が占めてゐる。是等は主に烏龍茶・包種茶等に製造して、前者は主として北米合衆國に後者は主として海峽殖民地及び瓜哇等に輸出してゐる。

落花生は製油原料・食料・製菓用等に充てられるので、全島到る處に栽培されてゐるが中でも臺南・高雄・臺中の三州が主産地で、其の作付反別は凡二十五萬甲・收穫は三十五萬二千石(百七十三萬四千圓)に及んでゐる。

參考補説

1. 臺灣の米作

稲の耕作法は略々内地と同様であるが、播種期・收穫期などに相違のあることは前にも述べた通りである。今之を詳言するなれば第一期作に於ては種籾を十二月から二月頃までに苗代に播種し、約二ヶ月位の後に之を本田に移植するのであるが、其の時には表土とも苗を削り取つて凡そ一坪に三・四十株位の割合で植付けて行く。挿秧後二・三

回除草をして五月から七月までに收穫する。第二期作は六七月頃に播種して凡そ一ヶ月を経過した後、第一期作收穫後の本田を排水しないで直ちに之を整理して挿秧するのが普通である。而してそれを十月か

甘蔗の栽培法

牧畜業概説

牛水

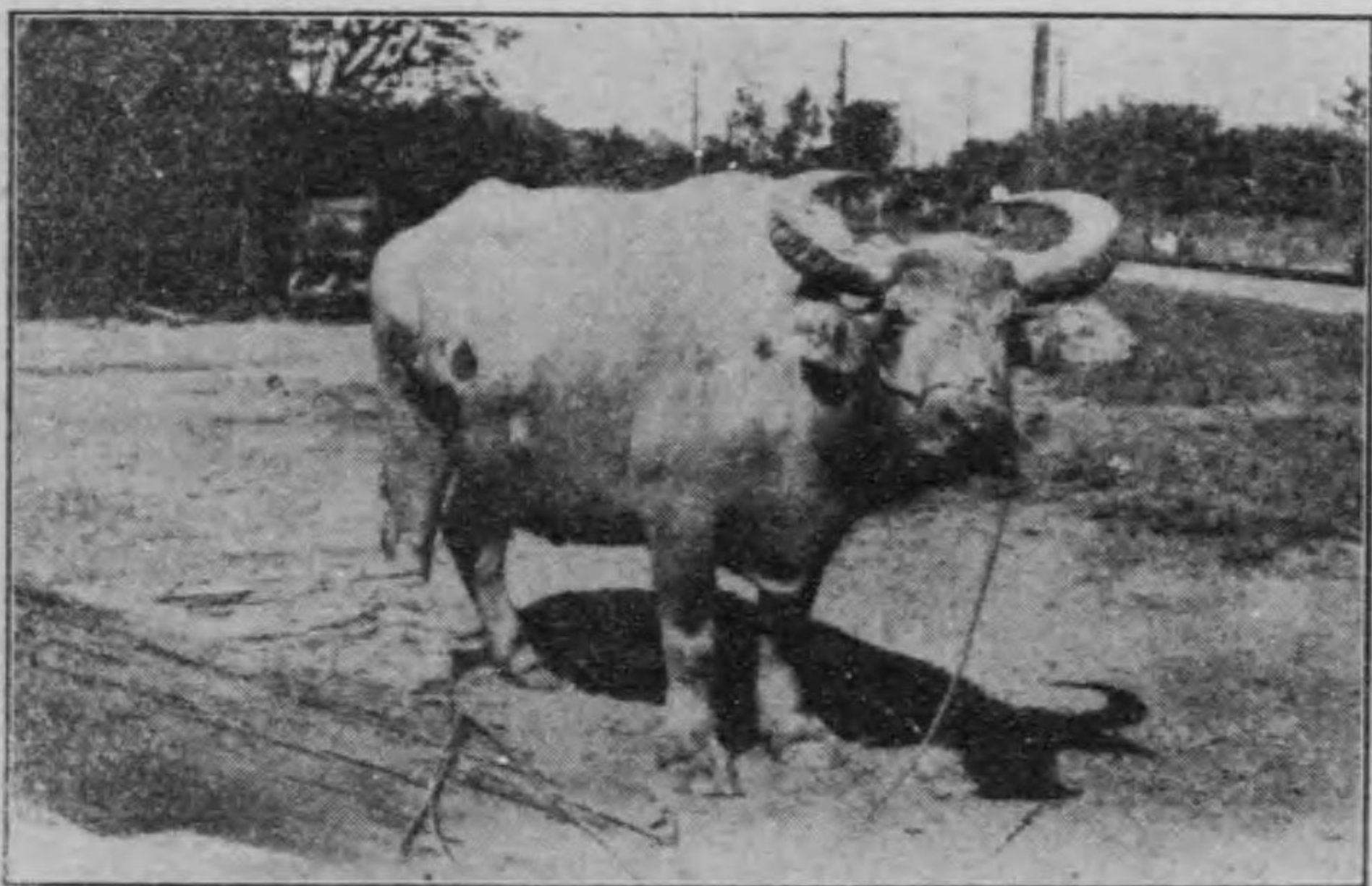
ら十二月頃までに收穫する。其の收穫法は徑四尺深さ二尺位の桶の側に布を以て巻いた收穫器を田畑に運び、刈り取つた稻は直ちに一握つゝ此の桶内に叩きおとして籾粒となし、之を乾燥して時機を見計ひ適當な時に籾摺をするのである。小作米の納付は内地と異なり籾のまま納めるのが常である。

2. 甘蔗の栽培法

臺灣地方で甘蔗を栽培するのは豫め整地してから四・五尺の距離をおいて植溝をつくり此の溝に一尺二・三寸の間隔で種苗を植付けて行くのである。其の植付時期は中部・南部と北部とによつて相違があり、前二地方では大抵十二月頃からはじめられ、後者の地方では三月から四月までに挿種せられてゐる。其の挿種本数は一甲即ち約一町歩當に平均一萬三・四千本で、生育旺盛期に數回に中耕培土と施肥が行はれるのが普通である。そして其の收穫は十二月頃から開始される。

此の地方では前記農作物の耕作や運搬等の力役には主として家畜が使用され、又肉食の風も盛んなので古來家畜の飼養は一般に行はれてゐた。けれども更に我が國の領土となつて以來は優良種畜を外國に仰いで之を輸入し、或は貸與し或は獎勵費を交附する等専ら其の勸奨に努めたのでいよく其の發達を見、現在では本島の主要産業の一つとなるに至つてゐる。其の畜産の主なるものは水牛・黄牛・豚等で、他に雜種牛・洋牛・山羊等も相當に飼はれてゐるが、それ等は多く乳汁の搾取用として飼養されてゐるのである。

水牛は臺灣島に於ける重要家畜で其の頭數三十萬頭を超え、性質温順・體軀肥大・力強く而も粗食に堪へるので、力役用としては和牛に優つてゐる點もある。けれども動作が稍々遅鈍なために概ね水田地方に飼養されてゐる。又其の肉は普通の牛に劣つてゐるが優良な



臺灣の水牛

牛よりは動作が活潑なので、主に運搬用として飼養せられ、臺南・高雄・臺中等に多い。

一五六  
で、利用價値の多い點からいへば決して普通の牛に劣らない。(地理書二十六頁挿畫参照)  
黄牛は飼養頭數十一萬頭に近く、其の體軀には大小の相違があるが一般的にいへば水牛よりは少々小さい。乍併これ亦性質溫柔・力強く而も水

脂肪を與へ、且つ皮は甚だ堅牢であり角は頗る大きくて種々の器物に作る事が出来るの

豚は食用として全島何處にも飼養せられ、其の頭數は約百二十七萬頭に達し内地の豚飼養頭數の凡そ三倍に當つてゐる。而して年々の屠殺頭數は大抵七八十萬頭に上つてゐるといふのであるから、如何に其の需要が多く又飼養が盛んであるかがわかる。

本島は南北に縦走せる脊梁山脈及び其の支脈のために山岳丘陵が多く、且つ氣候が溫暖であり雨量が多いので樹木の生育に適し、林野面積は臺灣總面積約二千三百餘方里の八割を占め、其の低地部の一部分こそは住民の粗放な習慣と支那領有時代の無干涉政策によつて荒廢に歸してゐるが、交通未開の蕃界地方に至つては鬱蒼たる天然の美林少からず、隨つて林業の將來を刮目して見るべきものがある。蓋し本島の森林は山地部殊に高山地方が多いので、土地の高さと溫度とによつて樹木の分布も亦自ら熱帯・暖帯・溫帯・寒帯の各種のものを網羅してゐる。即ち山麓部の熱帯林には榕樹・林投樹・椶椰子等が多く、中腹部の暖帯林・溫帯林には樟・楠・扁柏・紅檜・臺灣榿・新高檜等が繁茂し、山頂部の寒帯林には新高檜・松・新高白檜・新高石楠等が密生してゐる。其の中主要なものは溫帯林の扁柏・紅檜・暖帯林の樟等で、阿里山・八仙山・宜蘭・濁水溪等の森林が特に著名である。

阿里山の森林は嘉義の東方四十一哩新高山の西側、海拔二千八百尺から八千七百尺までの間にあり、東西三里、南北八里、面積一萬一千一百町歩といふ大森林であつて、千古斧鉞の入らざる老樹古木が畫尙ほ小暗く鬱蒼として繁茂してゐる。樹種の主なるものは針葉樹では紅檜、五百二十八萬五千石、扁柏四百十三萬三千石、闊葉樹では栂(三百二十五萬二千石)、柯(三

百三十六萬四千石等で蓄材總積は無慮二千二百萬石と稱せられ、盛んに之を伐採して阿里山鐵道により西方の嘉義へ送つて製材してゐる。特に扁柏と紅檜とは無比の良材で、最近檀原神宮・桃山御陵・明治神宮等の御造營にも用ひられ、阿里山材の聲價を高くしてゐる。中でも明治神宮の大華表に使用せられたものゝ如きは其の樹齡一つは一千九十五年、一つは一千九十三年を経たる大古木である。地理書二十九頁上段の挿畫は阿里山の森林を見せたものである。左方の人物と對照すれば如何に其の林木が長大であるかがわかる。

八、仙山の森林は脊梁山脈即ち合歡山より西に分岐せる支脈中の白姑大山の西方に連れる森林で、北港溪・大甲溪の兩溪によつて南北に區劃され、東西四里・南北三里・面積一萬四千町歩を有する大森林である。其の樹林は針葉樹林・闊葉樹林・針闊混淆樹林等で、主要な樹種は阿里山と大差なく扁柏・紅檜・梅・松等である。而して此の地の伐木・運材作業等は阿里山のそれが機械的操作を主とするに反して、殆んど純日本式により地の利と人の力とによつて作業を遂行してゐるので、内地の奥羽・木曾・紀和等からも作業夫が多く行つてゐる。即ち轉材には修羅棧手(木曾地方で行はれてゐるもの)を用ひ、運材には木馬運材及び管流法(紀和地方に於て行はれてゐるもの)を採用してゐる。けれども此の地方は一般に高山地であつて地勢が急峻であり、且つ木材の重量も非常に大なので、轉材棧路・留場・木材制動等については獨特の工夫をめぐらし所謂八仙式なるものを案出してゐる。丸太材は牛庄の貯木場まで管流して、更に輕鐵によつて豊原驛に搬出してゐる。

## 八仙山の森林

## 宜蘭・濁水溪の森林

宜蘭・濁水溪の森林は宜蘭廳管内の濁水溪南岸にあつて、長さ十三里・幅五里・面積約六萬町歩にわたる大森林であるが、久しく蕃族が跋扈して真相を知ることが出来なかつた。ところが大正三年に至つて討伐の業成りこゝにはじめて調査を行ひ、其の林値を知ることが出来たのである。即ち其の林相は山麓低地から海拔一萬二千四百尺の南湖大山の寒帶林に至るまでに、各帶の原生林が鬱蒼として相連り、林相の美は阿里山に及ばないが、木材蓄積量に於ては之に二倍するといはれてゐる大森林である。大正四年十一月から事業に着手し、現在では伐木・運材・貯木等に關する設備も整ひ、丸太材は總て員山貯木場(宜蘭を距る約一里)に搬出してゐる。

## 工業概説

本島の工業は農産物を原料とする製糖業・製茶業・林産物に加工する製材業及び樟腦・樟腦油の製造等が主要なもので、其の他には醸造業・製帽業・罐詰業等があり、工産物總額は二億萬圓を超え、農業とともに臺灣地方の二大産業となつてゐる。

## 製糖業

製糖業は古來此の地方で行はれてゐたものであるが、今日の如き盛況を見るに至つたのは全く我が國領有以後のことである。甘蔗の栽培品種の改良・製糖法の改善等に當局が多大の保護獎勵を加へた結果である。而して現在では甘蔗は澎湖島を除く外全島各地に於て栽培せられ、其の作付段別は約十一萬八千甲に達し、收穫高は六十六億三千二百萬斤に上つてゐる。随つて臺灣製糖・大日本製糖・鹽水港製糖・東洋製糖・臺南製糖・帝國製糖・新高製糖・明治製糖等の諸會社では、新式製糖の機械を設備せる多くの工場を有して盛んに粗糖・精糖・氷糖等を

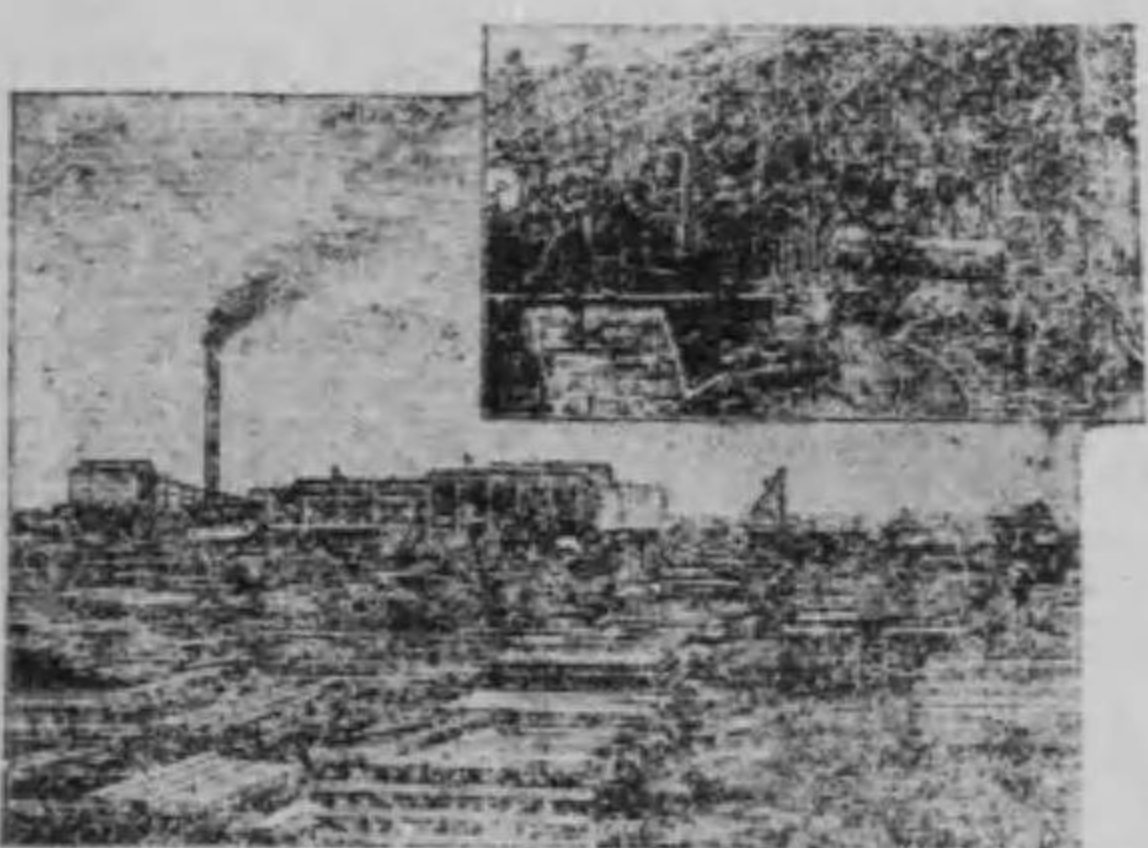
製造し内地はもとより關東州・支那・香港・濠洲等へも移輸出してゐる。其の額實に一億一千四百萬圓内地砂糖消費量の約六割は此の地に之を仰いでゐる。中でも粗糖は大部分福岡・兵庫・大阪・東京等で精製せられる。教科書二十八頁下段の挿繪は高雄州屏東にある臺灣製糖株式會社の屏東工場の圖で明治四十一年十二月の創設にかゝり規模宏大設備完全建坪のみにても二千坪に及び製糖能力は三千噸一晝夜によく四千五百ピコルの砂糖を製出する大工場で臺灣第一たることは勿論世界有数の製糖工場である。

製茶業

製茶業は烏龍茶と包種茶とを製造することが最も盛んで主として北部丘陵地方に於て粗茶に製造し之を臺北・枋橋・水邊脚等にて再製してゐるが其の産額一千萬圓を超え烏龍茶の大部分は北米合衆國へ包種茶の大部分は海峽殖民又は瓜哇等に輸出してゐる。

製材業は前記阿里山・八仙山・宜蘭濁水溪森林地方に盛んであるが此の地方は交通運材の便が少いので有望な森林を控えながら未だ十分なる發達を見せてゐない。けれども阿里山森林を背景とせる嘉義の製材所のみは早くから世に知られ同所では東方四十一哩の阿里山鐵道を利用して其の木材を構内の貯木場に集め我が國に於ける木材製品の種類・木材利用の狀況に參照して盛大に製材作業を行つてゐる。此の

製材業



所材製の義嘉と材集索鐵空架の山里阿

製材工場は米國西部海岸地方に於ける工場の設備を基礎としてつくつた特種工場で建物は全部鐵筋コンクリート中央の一部のみが三階建て他は二階建動力は米國製ベーンソンス八百キロワット高壓凝縮回転機同上直結交流發電機同上用勵磁器五十キロワット汽機直結發電機各一臺を用ひ汽罐は英國製水管式傳熱面積二千六百九十九平方呎のもので製材機械は九呎帶鋸機其他約二十餘臺程あつて製材は總て自動的に行はれ規模の宏大設備の完備することに我が國無比の製材工場である。

製樟業

樟 腦 地 造



た樟腦・樟腦油はまた一定の賠償金を交附して專賣局に納入させることにしてゐる。最近

製樟業は本島の特種工業で其の製品たる樟腦・樟腦油は阿片・煙草・食鹽とともに總督府の專賣にかゝるものである。而して之が製造も一時は總督府の直營であつたが今日では全部民營となり相當の資本と經驗とを有するものゝ出願に對しては之を許可し一定の官有山林を限つて製樟區域とし其の原料・薪材・器具等は一定の價格を以て拂ひ下げ製造した樟腦・樟腦油はまた一定の賠償金を交附して專賣局に納入させることにしてゐる。最近